

エジプト・アラブ共和国
農業土地開拓省

エジプト・アラブ共和国
小規模農家の市場志向型農業改善
プロジェクト

業務完了報告書

平成 31 年 4 月
(2019 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社 三祐コンサルタンツ

| |
|--------|
| 農村 |
| JR |
| 19-008 |

エジプト・アラブ共和国
農業土地開拓省

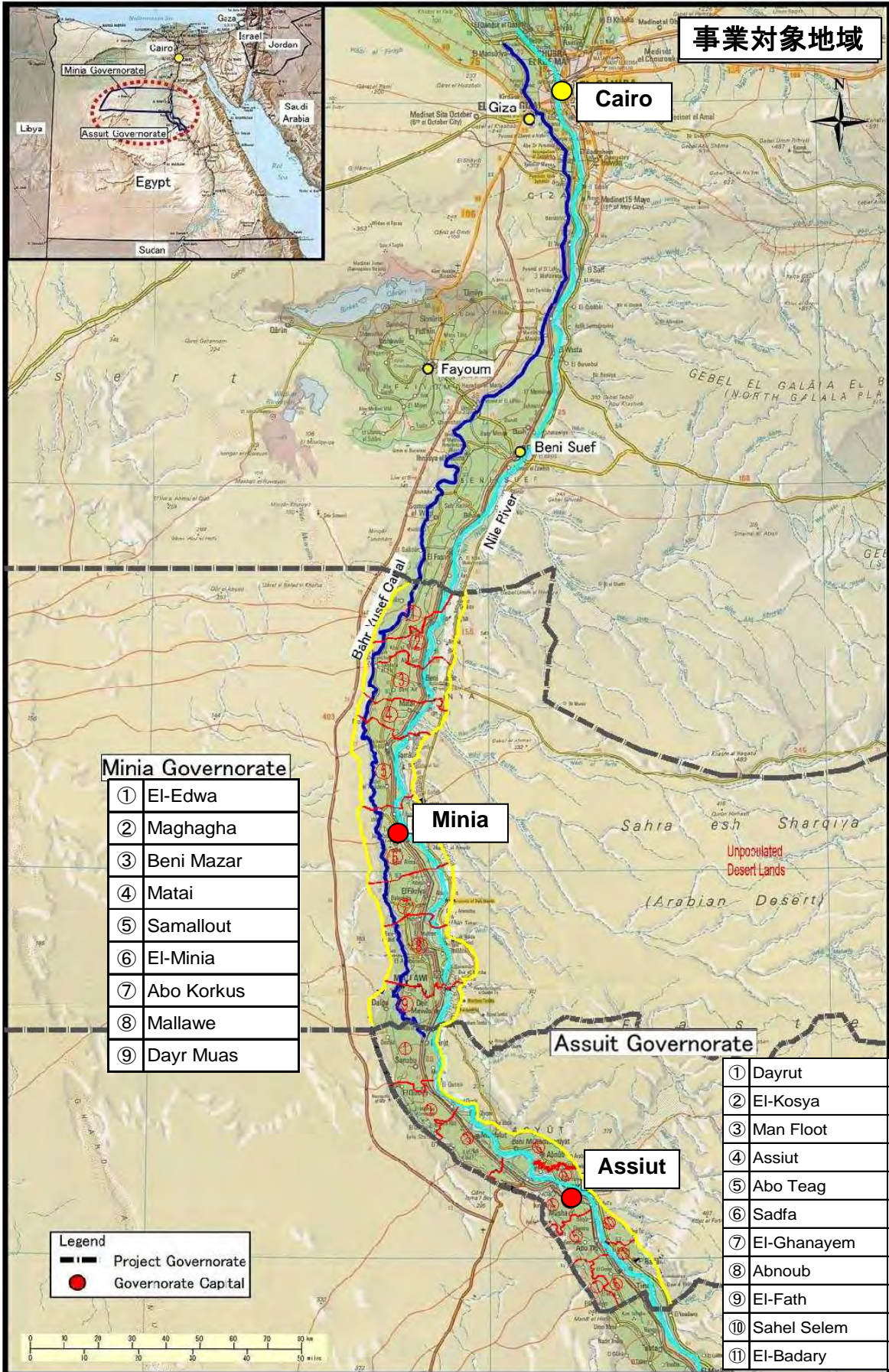
エジプト・アラブ共和国
小規模農家の市場志向型農業改善
プロジェクト

業務完了報告書

平成 31 年 4 月
(2019 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社 三祐コンサルタンツ



現地写真集



プロジェクト開始時のキックオフワークショップ。カイロにミニア、アシュートからの C/P も集合して開催。2014年6月



対象農家へのオリエンテーション(ミニア県 El Balad 村) 活動は専門家から C/P に順次主体を移行させていった。



ベースライン調査。農家の多くは字が書けないため、C/P 職員や普及員らと協力して実施 (ミニア県 Gendaya 村)。



普及フローのステップを確認し、市場調査の実施方法について話し合いを実施(ミニア県 Maghagha 郡)。



ビジネスダイアログで、企業が農家に契約栽培について説明 (ミニア県)。農家は熱心に説明を聞き、質問を投げかけていた。



Assiut 市卸売市場での市場調査の様子。最初は調査票の書き方が分からない様子であったが、卸売業者が色々話してくれることがわかると口頭で質疑を進めていた。



アシュート県での対象村協議会による営農計画作成WS。普及員よりも農家が主導してWSが進行した。



アシュート県 Manflood 村での営農計画 WS。村の既存作付パターンを確認し、市場調査結果を踏まえて、冬作の作物選定を実施。若手農家が発表に立つ。



アシュート県での TOT 実施。農業研究所（ARC）の研究者が講師を務める。



アシュート県 Dayrut 郡 Sanabo 村のデモ圃場。参加農民は、キャベツはこれからも毎年植えたいとの事。



アシュート県 Exchange Visiting の様子。TOT 研修の補完研修として、対象村内で園芸作物栽培が進んでいる Man Floot 村のデモ圃場を訪問した。C/P と TOT 参加篤農家が講師となり、研修を行なった。



ミア県 Mallwe 郡 Manshet El Maghalka 村でのサツマイモの契約栽培。12 月 16 日に収穫終了。選別の後、傷がなく、大きすぎない物は契約栽培の会社へ販売し、その他の物は地元のマーケットで販売。



アシュート県 Sadfa 郡 Awlad Elias 村の女性達を連れて、アシュート市での市場調査を実施。村の市場にはないものを発見してもらった。



アシュート県での女性農家対象ビジネスダイアログ。参加者は真剣に市場関係者から話を聞いていた。



アシュート県での女性活動の研修。女性活動については、普及員と対象女性を合同で研修することとした。レクチャー実施後、各村でデモを行った。



アシュート県第 4 サイクルの女性を対象におこなったビジネスプラン研修の様子。講師の説明を熱心に聞く BanyMor 村と ManFlood 村の女性達。



ミア県の Kom Matai 村。第 2 サイクルで導入したモデルユニットから、ハトの数を増やして販売を始めている女性たちを確認できた。



アシュート県 Bany Mor 村の女性は、NGO の主催するオープンデイに招待され、自家製パンの販売を行った。販路拡大への一助となった。



プロジェクトが計画・実施した本邦研修。プロジェクト期間中に3回（2015、2016、2017年）実施した。研修では、日本の市場構造を学び、プロジェクト地域における市場志向型農業の推進方法を考えた。



大使館主催で、カイロにて催された Japan Food Biz in Egypt においてポスター、ビデオ展示を行った。



UN Women と共同開催した対外向けセミナー（Approaches on Women's Economic Empowerment in Rural Upper Egypt）2019年2月27日ミニアにて開催



左記セミナーには、女性受益者、国際機関、NGO等を含む100人以上の参加があった。



Project Completion Seminar を2019年4月16日にカイロにて開催。プロジェクトの経験、成果及びプロジェクト終了後の実施体制について発表。



Project Completion Seminar にて、活動をプロジェクトチームから ISMAP 実施ユニットに引き継ぐため、実施ユニットのオフィス看板を授与した。

目 次

事業対象地域位置図

現地写真集

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| 第1章 プロジェクトの概要 | 1 |
| 1.1 背景・経緯 | 1 |
| 1.2 プロジェクトの概要 | 1 |
| 1.3 プロジェクト対象地域 | 3 |
| 1.4 プロジェクトの立ち上げ | 3 |
| 1.4.1 ワークプランの作成・協議 | 3 |
| 1.4.2 JSC、プロジェクト運営・技術委員会の設置、普及フローの合意 | 3 |
| 1.5 JSC 会議の実施 | 4 |
| 1.6 プロジェクトの実施サイクル | 4 |
| 第2章 プロジェクト活動内容 | 5 |
| 2.1 成果1に係る活動 | 5 |
| 2.1.1 市場志向型アプローチに基づいた普及フローの作成と改善 | 5 |
| 2.1.2 対象農協及び対象小規模農家の選定方法の合意と選定 | 6 |
| 2.1.3 ベースライン調査 | 10 |
| 2.1.4 市場調査の実施支援 | 10 |
| 2.1.5 農業ビジネス関係者との対話の機会の提供 | 12 |
| 2.1.6 営農計画立案にかかる支援 | 16 |
| 2.1.7 普及する農業技術にかかるトレーナー研修の実施 | 17 |
| 2.1.8 対象小規模農家向けの技術研修実施支援（デモ圃設置による研修） | 18 |
| 2.1.9 ジェンダー主流化活動 | 19 |
| 2.2 成果2に係る活動 | 24 |
| 2.2.1 開発・検証が必要な技術の把握、開発・検証、研修の実施、既存技術の改善 | 24 |
| 2.2.2 技術マニュアルのとりまとめ | 25 |
| 2.3 成果3に係る活動 | 26 |
| 2.3.1 農協の強み・弱みの把握 | 26 |
| 2.3.2 農協の活動計画の策定・実施に向けた研修実施 | 28 |
| 2.3.3 農協の活動計画強化のフォローアップ | 28 |
| 2.4 成果4に係る活動と中間レビューでの提言を受けての活動変更 | 30 |
| 2.4.1 中間レビューの実施と提言・活動の変更 | 30 |
| 2.4.2 中間レビューの提言の実施（第4サイクルの実施） | 30 |
| 2.4.3 PDM 変更による活動（第4サイクル） | 32 |
| 2.5 出口戦略とプロジェクト終了後の実施体制の構築 | 34 |
| 2.6 その他の活動 | 37 |
| 2.6.1 本邦研修の実施 | 37 |
| 2.6.2 エジプト国内の成功事例視察 | 40 |
| 2.6.3 PDM の指標設定 | 40 |
| 2.6.4 普及フロー及び業務マニュアルの作成 | 41 |
| 2.6.5 他ドナーや NGO 等との連携 | 41 |

| | |
|--|----|
| 2.6.6 広報活動..... | 42 |
| 第3章 プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓..... | 45 |
| 3.1 プロジェクト実施運営上の課題と対策のまとめ..... | 45 |
| 3.2 プロジェクト実施上で得た教訓..... | 46 |
| 3.2.1 目標の共有..... | 46 |
| 3.2.2 参加の意味..... | 47 |
| 3.2.3 意思決定プロセスと能力向上プロセス..... | 47 |
| 3.2.4 エジプト国の農業協同組合の位置づけ..... | 49 |
| 3.2.5 エジプトの農業市場構造を踏まえた戦略の検討..... | 49 |
| 3.2.6 対象農家の参加の非継続性とマーケティング協議会の形成..... | 50 |
| 3.2.7 デモ圃活動によるマーケティング協議会活動推進の仕掛けの検討..... | 53 |
| 3.2.8 デモ圃場の運営..... | 55 |
| 3.2.9 女性の生計向上活動における課題..... | 55 |
| 第4章 プロジェクト目標の達成度..... | 57 |
| 4.1 プロジェクト目標の指標達成度..... | 57 |
| 4.2 終了時評価の実施..... | 58 |
| 4.3 終了時評価後のフォローアップ..... | 58 |
| 4.3.1 終了時評価からの提言実施..... | 58 |
| 4.3.2 ジェンダー主流化活動に係るセミナーの実施..... | 60 |
| 4.3.3 プロジェクト最終セミナーの実施..... | 61 |
| 第5章 上位目標の達成に向けての提言..... | 63 |
| 5.1 ISMAP 実施ユニットの予算確保と確実な活動実施..... | 63 |
| 5.2 MALR 内での普及人材の育成..... | 63 |
| 5.3 普及フローの継続的な改善..... | 63 |
| 5.4 他の組織との連携..... | 63 |

図表リスト

| | |
|--|----|
| 図 2.1.1 普及フローの基本形..... | 5 |
| 図 2.1.2 第2サイクルでの普及フローの変更..... | 5 |
| 図 2.1.3 マーケティング協議会形成による改善のイメージ..... | 6 |
| 図 2.1.4 第1サイクルから第3サイクルまでの対象郡と対象村..... | 7 |
| 図 2.2.1 プロジェクトで作成した栽培ポスターの例..... | 26 |
| 図 2.5.1 C/P 作成による ISMAP Implementation Unit Structure..... | 37 |
| 図 3.2.1 普及フローの意思決定・能力向上という2面性..... | 47 |
| 図 3.2.2 意思決定と能力向上のプロセスを意識したモチベーションを高める工夫..... | 47 |
| 図 3.2.3 マーケティング協議会の導入と活動のステップ..... | 52 |
| 図 3.2.4 トライアル圃場の位置づけ..... | 53 |
| 図 3.2.5 モデル：展示効果を狙うデモ圃からアプローチのモデル化へ..... | 55 |
| 表 1.4.1 プロジェクトの理解とワークプラン素案作成のためのワークショップ..... | 3 |
| 表 1.5.1 JSC 会議開催実績..... | 4 |
| 表 1.6.1 各サイクルの実施時期..... | 4 |

| | | |
|---------|-------------------------------------|----|
| 表 2.1.1 | 対象女性の支援活動の変遷 | 22 |
| 表 2.2.1 | 成果 2 に関する活動の手順 | 24 |
| 表 2.3.1 | 対象農協との W/S で出された農協の強みと弱み | 27 |
| 表 2.3.2 | 対象農協の活動計画 | 28 |
| 表 2.3.3 | 農協活動計画のレビュー結果（例：Sanabo 村） | 29 |
| 表 2.3.4 | 農協の普及計画 | 29 |
| 表 2.4.1 | 中間レビュー後における PDM の変更点 | 30 |
| 表 2.4.2 | 中間レビュー提言の実施状況（2018 年 11 月） | 31 |
| 表 2.4.3 | 第 4 サイクルの対象村 | 32 |
| 表 2.5.1 | 第 5 サイクル選定村 | 35 |
| 表 2.5.2 | 活動費用の削減・捻出策 | 36 |
| 表 2.6.1 | 本邦研修実施概要 | 38 |
| 表 2.6.2 | 研修プログラムの概要 | 38 |
| 表 2.6.3 | 本邦研修結果のとりまとめ | 39 |
| 表 2.6.4 | エジプト国内の成功事例視察 | 40 |
| 表 2.6.5 | PDM-3 における各対象村のプロジェクト目標の指標（農業所得増加率） | 41 |
| 表 2.6.6 | プロジェクト作成マニュアル一覧 | 41 |
| 表 2.6.7 | 主な開発パートナーとのコミュニケーション | 42 |
| 表 2.6.8 | 各種セミナー等での発表 | 43 |
| 表 3.1.1 | プロジェクトの主要課題と対策 | 45 |
| 表 3.1.2 | プロジェクトの取った戦略のまとめ | 46 |
| 表 3.2.1 | エジプト農産物市場構造と活動の対応の明確化 | 50 |
| 表 4.1.1 | プロジェクト指標達成状況 | 57 |
| 表 4.2.1 | プロジェクト終了時評価の結果概要 | 58 |
| 表 4.3.1 | 終了時評価における提言とプロジェクトチームによる対処 | 58 |

添 付 資 料

添付資料 1 PDM（最新版および変遷経緯）

添付資料 2 業務フローチャート

添付資料 3 詳細活動計画

添付資料 4 専門家派遣実績

添付資料 5 研修員受け入れ実績

添付資料 6 供与機材・携行機材実績

添付資料 7 合同調整委員会議事録

添付資料 8 その他活動実績

<添付資料 8 その他活動実績>

1. エンドライン調査報告書
2. Proceedings of the Seminar on Approaches of Women's Economic Empowerment
3. 広報資料：リーフレット
4. 広報資料：冊子
5. 業務マニュアル

単位：

1 feddan = 0.42 ha

1 LE = 6.38578 円、1USD = 110.423 円（2019 年 4 月）

略 語 表

| | |
|---------|---|
| ARC | Agricultural Research Center (農業研究所) |
| AfDB | African Development Bank (アフリカ開発銀行) |
| C/P | Counterpart (カウンターパート) |
| CAAC | Central Administration for Agricultural Cooperation (農協中央部) |
| CAAE | Central Administration for Agricultural Extension (農業普及中央部) |
| CAPMAS | Central Agency for Public Mobilization and Statistics (国家統計局) |
| CEOSS | Coptic Evangelic Organization for Social Services |
| EC | Electric Conductivity |
| FAO | Food and Agriculture Organization (国連食糧農業機構) |
| GAP | Good Agricultural Practice |
| GDP | Gross Domestic Product (国内総生産) |
| GEDA | Green Economic Development Association |
| HEIA | Horticulture Export Improvement Association |
| IFAD | International Fund for Agricultural Development (国際農業開発基金) |
| IMAP | The Project for the Master Plan Study for Rural Development through Improving Marketing of Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (農産物流通改善を通じた上エジプト農村振興プロジェクト) |
| ISMAP | Improving Market-oriented Agriculture Project (小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト) |
| JA | Japan Agriculture (Japanese Agricultural Cooperatives) |
| JICA | Japan International Cooperation Agency (国際協力機構) |
| JSC | Joint Steering Committee |
| KEF | Knowledge Economy Foundation |
| MALR | Ministry of Agriculture and Land Reclamation (農業土地開拓省) |
| M/P | Master Plan |
| NCW | National Council of Women |
| NGO | Non-Governmental Organization |
| NHK | Nippon Hoso Kyokai (Japanese broadcast association) |
| PDM | Project Design Matrix |
| PO | Plan of Operation |
| PRIME | Promotion of Rural Incomes through Market Enhancement |
| R/D | Record of Discussion |
| RIEEP | Rural Income and Economic Enhancement Project |
| SAIL | Sustainable Agriculture Investments and Livelihoods |
| SATREPS | Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development |
| SFD | Social Fund for Development (社会開発基金) |
| SHEP | Smallholder Horticulture Empowerment Project |
| SHEP-UP | Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion Unit Project |
| SWOT | Strength, Weakness, Opportunity, Threat |
| TOT | Training of Trainers |
| UNIDO | United Nations Industrial Development Organization (国連工業開発機関) |
| UNDP | United Nations Development Programme (国際連合開発計画) |
| USAID | United States Agency for International Development (米国国際開発庁) |
| W/S | Workshop (ワークショップ) |
| WAT | Water-saving Technology |
| WFP | World Food Program |
| WEPP | Women's Employment Promotion Programme |

はじめに

本報告書は、2014年5月から2019年4月に亘り、3期に分けて実施された「エジプト国小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト（ISMAP）」の、業務実施状況についてとりまとめたものである。これまでに業務進捗報告書第1期、第2期その1および第2期その2を、各々2015年6月、2016年7月および2017年12月にとりまとめているが、本報告書では、プロジェクト開始当初から最終までの全期間における実施状況を取りまとめ、業務完了報告書とする。

第1章 プロジェクトの概要

1.1 背景・経緯

エジプト国における農業は、GDPの約13%¹、就業人口の約29%²を占めており、重要産業の一つとなっている。エジプト国農業土地開拓省（MALR）は「持続的農業開発戦略2030年」の中で、「継続的かつ早急に成長するダイナミックな農業セクターに基づく、貧困層の救済、地方の貧困削減に配慮した総合的な経済・社会開発の達成」をビジョンとし、国内及び国際市場における農産物の競争力の向上、農村における生活水準の改善及び貧困率の軽減等を戦略として掲げている。

特に上エジプト地域では農業セクターの就業者が約53%に上り³、同地域の重要産業となっている。さらに、エジプト全人口の21.6%を占める貧困層のうち6割が同地域に居住しており、農村部では43.7%が貧困状態におかれている⁴。同地域に位置するミニア県、アシュート県では、農家の9割近くが3フェダン（1.26ha）未満の農地しか所有していない小規模農家である。そのため、小規模農家に対する支援は、同地域の貧困削減と発展に貢献する重要な課題である。

JICAは、ミニア県及びアシュート県を対象とした開発計画調査型技術協力「農産物流通改善を通じた上エジプト農村振興プロジェクト（IMAP）」（2010年3月～2012年8月）を実施し、小規模農家の所得向上を開発目標としたマスタープラン（M/P）の策定、市場を重視した農業の推進及び栽培技術の向上によって小規模農家の収益を向上する開発アプローチが提案された。これらを推し進めるためには、農民の意識変革（「作ってから売る」から「売るために作る」（市場を分析して栽培する作物を決定する）への転換）や技術力向上のための技術普及、マーケティング支援が重要となる。

このことから、エジプト政府は、ミニア県及びアシュート県において、市場志向型アプローチ（市場ニーズに沿った作物生産と販売を通じて、農業所得の増加を目指すアプローチ）に基づいた小規模農家の農業の改善と、そのための行政による普及システムの強化、普及員及び農協職員の能力向上を図るべく、我が国に対し技術協力にかかる要請を行った。JICAは、本件の必要性、要請の妥当性を確認するために2012年10月から11月にかけて詳細計画策定調査を行いプロジェクトの枠組みについて合意し、2013年12月にはR/Dが締結された。

1.2 プロジェクトの概要

PDMに基づくプロジェクトの概要を下記に示す。2017年1月の中間レビュー結果を受けて、PDMが最終版となるVersion3に改訂された。改訂部分については、追記部分に下線を付し、削除部分に取り消し線を付して示す。

¹ World Development Indicators, 2011

² Central Agency for Public Mobilization And Statistics (CAPMAS) Statistical Year Book 2012

³ JICA「農産物流通改善を通じた上エジプト農村振興プロジェクト」ファイナルレポート、2012年、p.1

⁴ UNDP Egypt, Egypt Human Development Report 2010, Youth in Egypt: Building our Future (2010),

(1) 上位目標

ミニア県及びアシュート県の対象村および周辺村の小規模農家の農業所得が向上する。

(2) プロジェクト目標

ミニア県及びアシュート県の対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。

(3) 期待される成果

成果1：市場志向型アプローチに基づいた普及フロー⁵が確立する。

成果2：付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される。

成果3：対象農業協同組合（農協）の活動計画策定・実施能力が強化される。

成果4：対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まる。

(4) 活動の概要

【成果1に係る活動】

- 1-1 市場志向型アプローチによる普及フロー案を合意する。
- 1-2 対象農協及び対象小規模農家の選定方法を合意し、それに基づき選定する。
- 1-3 対象農協及び対象小規模農家に対するベースライン調査を行う。
- 1-4 対象農協内の対象小規模農家と農業ビジネス関係者が対話する場を設ける。
- 1-5 対象農協内の対象小規模農家へ市場調査、営農計画立案に係る研修を実施する。
- 1-6 対象小規模農家の市場志向型アプローチに基づいた営農計画立案を支援する。
- 1-7 普及員に対して1-6の計画実施に必要な農業技術のトレーナー研修（TOT）を行う。
- 1-8 トレーナー研修を受けた普及員による対象小規模農家向けの技術研修実施の支援を行う。
- 1-9 対象小規模農家の営農活動のモニタリングを行う。
- 1-10 上記活動を検証し、市場志向型アプローチに基づいた普及フローに必要な改善を行う。

【成果2に係る活動】

- 2-1 IMAPの調査結果及び対象小規模農家の営農計画等に基づき、新たに開発・検証が必要な技術を把握する。
- 2-2 2-1で把握した技術の開発・検証を行う。
- 2-3 開発・検証した技術を普及員のトレーナー研修（活動1-7）に導入する。
- 2-4 市場志向型アプローチの実施を通して必要と確認された既存技術の改善を図る。

【成果3に係る活動】

- 3-1 対象農協組織の活動計画立案にあたって農協の弱み・強みを把握する。
- 3-2 対象農協に対して小規模農家の所得向上に向けた活動計画の策定・実施に係る研修を実施する。
- 3-3 対象農協職員および普及員が、対象農協による3-2の活動計画の実施を支援するよう助言する。

【成果4に係る活動】

- 4-1 対象農協が農協内の対象小規模農家以外の農家に対して市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。
- 4-2 対象農協による4-1の計画の実施をモニタリングする。

⁵ 普及フロー：農家と市場関係者との関係づくり、農民による市場調査、作物の選定、市場調査の結果に基づく活動計画策定、栽培技術研修等によって構成される一連のイベント及び活動。

- 4-3 郡普及員が郡内の対象農協以外の農協に対して市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。
- 4-4 郡普及員による4-3の計画実施をモニタリングする。
- 4-5 県農業局が市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。

1.3 プロジェクト対象地域

ミニア県（Minia Governorate）9郡及びアシュート県（Assiut Governorate）11郡の全ての郡、計20郡を本プロジェクトの対象とした。

1.4 プロジェクトの立ち上げ

1.4.1 ワークプランの作成・協議

2014年6月より、プロジェクトの現地活動を開始した。最初に、カイロ、ミニア県およびアシュート県に分散するプロジェクト関係者・カウンターパート（C/P）への表敬を行い、次いで、本プロジェクト第1期のワークプランの素案を作成するため、2014年6月に、2回にわたるC/Pを集めたワークショップ（W/S）を開催した。ここで、C/Pと専門家からなるプロジェクトチームの立ち上げを行った。W/Sの概要は以下のとおりである。

表 1.4.1 プロジェクトの理解とワークプラン素案作成のためのワークショップ

| | 開催日（場所） | 参加者 | 目的 | WS 実施概要 |
|-----|--------------------|---------------------------|------------------------|--|
| 1回目 | 6月16日-18日 （カイロ） | カイロ6名、ミニア4名、アシュート8名（計18名） | R/Dの内容理解と市場志向型アプローチの紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ● R/Dを一文ずつ読み合せし、内容の理解と認識を共有した。 ● 市場志向型アプローチとしてSHEPを紹介し、コンセプトや具体的な活動方法について理解を深めた。 |
| 2回目 | 6月24日-26日 （ミニア） | カイロ1名、ミニア6名、アシュート7名（計14名） | ワークプラン素案の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ● SWOT分析を実施し、農業土地開拓省の組織としての強み・弱み・機会・脅威を分析し、プロジェクトに取り組む上での基本認識を共有した。 ● 各活動について、その実施方法について議論し、実施方法のコンセンサスを得た。 ● ジェンダー配慮に関する対処法を議論し、認識共有を図った。 |

（注：2回目のWSでは、新大臣就任によりカイロのC/Pに急の業務が入り、1名のみ参加となった。）

第1回目のW/Sでは、R/Dのアラビア語訳（仮訳）を用いて、一文一文の内容を確認し、プロジェクトの内容や合意事項に関してC/P間での共通認識を得た。第2回目のW/Sでは、まずSWOT分析を行い、MALRとしての組織の強み・弱み・機会・脅威を分析し、これを踏まえ、より現実的なワークプランとなるよう、活動の実施方法について一つ一つ議論を行った。W/Sでの結果を基礎に専門家が第1期ワークプランのドラフトを作成し、C/Pと共に再度討議して、追記・修正を行い、ワークプランを作成した。以後、第2期および第3期開始当初においても、同様に専門家がワークプラン（案）を作成し、C/Pとの協議により各期のワークプランを作成した。

1.4.2 JSC、プロジェクト運営・技術委員会の設置、普及フロー案の合意

2014年6月に新大統領が選出され、内閣改造が行われ、農業大臣も交代となった影響もあり、Joint Steering Committee（JSC）を設立するための大臣通達の発行が滞っていたが、2014年8月初旬に、同通達が出され、JSCが正式に発足した。また、アシュート県、ミニア県ではプロジェクト運営・技術委員会の立ち上げと共にプロジェクト事務所を整備した。

なお、農業普及局（Agriculture Extension Sector）配下の農業普及中央部長（Head of Central Administration for Agriculture Extension）が、中央から県への指示事項の伝達などで、同人も JSC のメンバーに正式になるべきであるという意見が出され、農業普及局長もそれを要望したため、農業サービスフォローアップ局長はこれに合意し、R/D には記載なかった農業普及中央部長も JSC メンバーとして通達に記載された。2014 年 8 月 26 日に第 1 回 JSC 会議が開催され、第 1 期のワークプランの承認を得るとともに、実施に移す普及フロー案の合意を行った。

1.5 JSC 会議の開催

年 2 回を目途に、JSC 会議を開催し、進捗および課題の共有、改善のための討議を行った。下表に、実施した JSC 会議の一覧を示す。

表 1.5.1 JSC 会議開催実績

| 回 | 開催日 | 参加者 | 内容 |
|-------|------------------|-----|---|
| 第 1 回 | 2014 年 8 月 26 日 | 23 | プロジェクト概要とワークプランの発表、普及フロー案の合意 |
| 第 2 回 | 2015 年 6 月 11 日 | 21 | プロジェクトの進捗、課題、スケジュールに関する協議、普及フロー及び実施マニュアルの発表 |
| 第 3 回 | 2016 年 1 月 28 日 | 19 | 主な課題（対象農家の参加状況）と改善案についての協議 |
| 第 4 回 | 2016 年 6 月 26 日 | 22 | 普及フロー改善案（マーケティング協議会導入）についての協議 |
| 第 5 回 | 2017 年 1 月 26 日 | 20 | 中間レビュー結果報告 |
| 第 6 回 | 2017 年 7 月 19 日 | 26 | 中間レビュー提言の実施状況報告と PDM 3 の承認 |
| 第 7 回 | 2018 年 2 月 14 日 | 20 | 第 3 期ワークプランのプレゼンテーションと活動進捗報告 |
| 第 8 回 | 2018 年 11 月 21 日 | 30 | 終了時評価結果報告 |
| 第 9 回 | 2019 年 3 月 5 日 | 25 | 終了時評価提言の進捗確認。プロジェクト終了後の活動体制確認 |

1.6 プロジェクトの実施サイクル

プロジェクト活動は、プロジェクト対象地域 20 郡を 3 サイクル（3 年間）に分けてカバーした。その後中間レビューの提言を受けて、第 4 サイクルでは既実施村から 6 村を選定してさらに集中的な活動を実施した。更にプロジェクトの最終年次で暫定実施体制を計画・実証するために新規 6 村で活動を実施した。2018 年 11 月の終了時評価実施以降、2019 年夏作に向けた活動も 5 村で開始されたが、この村での活動は、プロジェクト終了後に MALR が立ち上げた実施ユニットが引き継ぐ。2019 年夏作期まで含めると延べ 31 村で活動したこととなる。

表 1.6.1 各サイクルの実施時期

| サイクル | 実施時期 | 対象村 |
|----------|-----------------------|--|
| 第 1 サイクル | 2014 年 8 月～2015 年 6 月 | ミニア 3 郡（3 村）、アシュート 3 郡（3 村） |
| 第 2 サイクル | 2015 年 8 月～2016 年 6 月 | ミニア 3 郡（3 村）、アシュート 4 郡（4 村） |
| 第 3 サイクル | 2016 年 7 月～2017 年 6 月 | ミニア 3 郡（3 村）、アシュート 4 郡（4 村） |
| 第 4 サイクル | 2017 年 5 月～2018 年 6 月 | ミニア 4 村、アシュート 4 村 （中間レビューの提言を受け、既実施 20 村から活発な村を選定して実施） |
| 第 5 サイクル | 2018 年 7 月～2019 年 4 月 | ミニア 3 村、アシュート 3 村 （プロジェクト終了後の実施体制を検証するために、新規に選定して実施） |
| 第 6 サイクル | 2019 年 2 月～ | ミニア 2 村、アシュート 3 村 2019 年夏作期の活動を 5 村で開始。プロジェクト終了後の実施ユニットに活動を継承 |

第2章 プロジェクト活動内容

2.1 成果1に係る活動

2.1.1 市場志向型アプローチに基づいた普及フローの作成と改善

第1サイクル活動開始において、一つのサイクルを構成する普及フローをデザインし活動を進めていった。普及フローは、右図のように、農家との目標共有、市場のニーズを知る活動、営農計画、農家の計画に基づく技術支援の4段階により構成される。この基本構成をベースに各ステップの実施詳細を計画し、活動を進めながらフローの改善を図っていった。

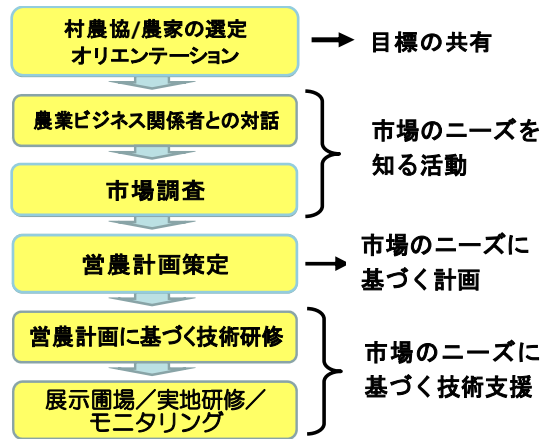


図 2.1.1 普及フローの基本形

第1サイクルで得た教訓を踏まえ、第2サイクル、第3サイクルと普及フローの改善を行った。第2サイクルでは、第1サイクルの流れを基本とし、ベースライン調査を営農計画作成の直前に実施するように変更した。これは、第1サイクルで参加農家の入れ替わりが多かったことから、実際に営農計画作成に関わる農家に対してベースライン調査を実施した方が妥当であるとの判断からである。また、第1サイクルでは事前準備作業の便から市場調査をビジネスダイアログの前に実施したが、第2サイクル以降では先にビジネスダイアログを実施した。

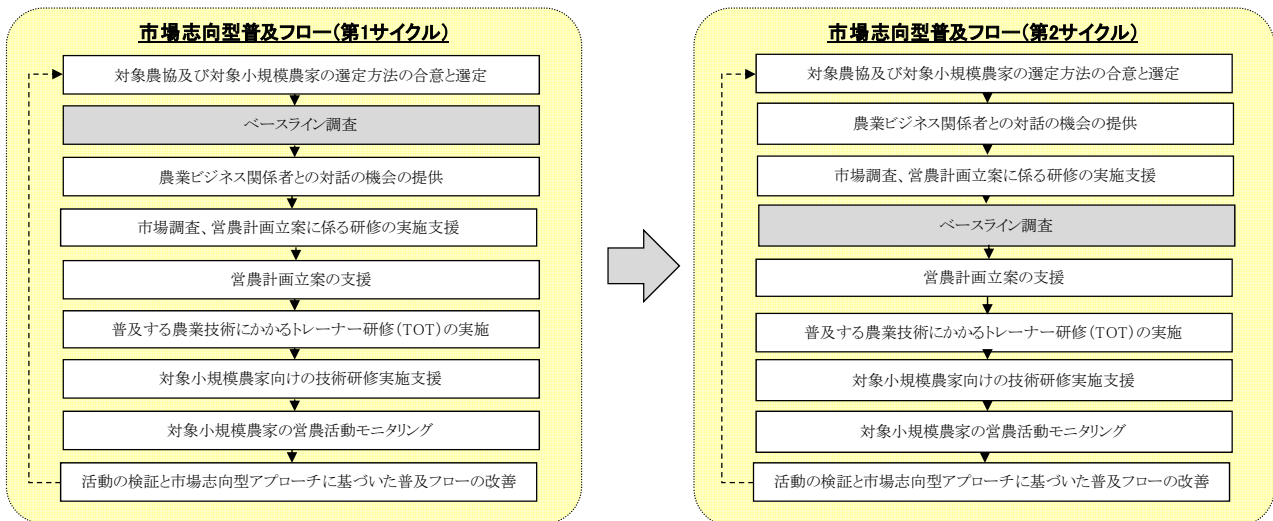


図 2.1.2 第2サイクルでの普及フローの変更

第1サイクルからのプロジェクトの大きな課題として、「対象農家の活動参加の非継続性」があった。この課題に対処するため、後述するように様々な対処を行ったが、この課題解消は困難であった。この一因には、村のエントリーポイントとしている農協の管理能力にもあると考えられた。エジプトの農村は平均人口が1万人にもおよぶ規模であり、農協は、組合員が互いに顔の見えるような組織にはなっていない。旧態の官製農協の状態補助金付肥料を販売するサービスプロバイダーという体である。村の農協職員は、農協の理事を通じて農家に伝達を行っているが、理事レベルには継続参加を要請できても、理事を通じて伝えてもらう農家の継続参加をコントロ

ールや強制することは困難であった。

また、人口規模が示すように半都市化している農村では、日雇労務等に就いたりする零細農家もあり、継続的な参加が困難な面もあった。プロジェクト活動に参加することが彼らにとって投資活動になる、というところまでの関心に至っていなかったということも示唆される。こういった状況下、プロジェクトチームは改善代案を検討し、活動に継続的に参加している村で意欲的な農家を集めたマーケティング協議会を形成し、この協議会を核に活動を推進することとした。普及フローの活動を通じて見えてくる意欲的な農家（10人程度）を集めてマーケティング協議会を形成し、この協議会が主導して、技術支援を受ける作物や契約栽培を試みる作物を選定、再度村で各作物の栽培に関心がある農家を募り研修や契約栽培支援を実施する、という手順である。

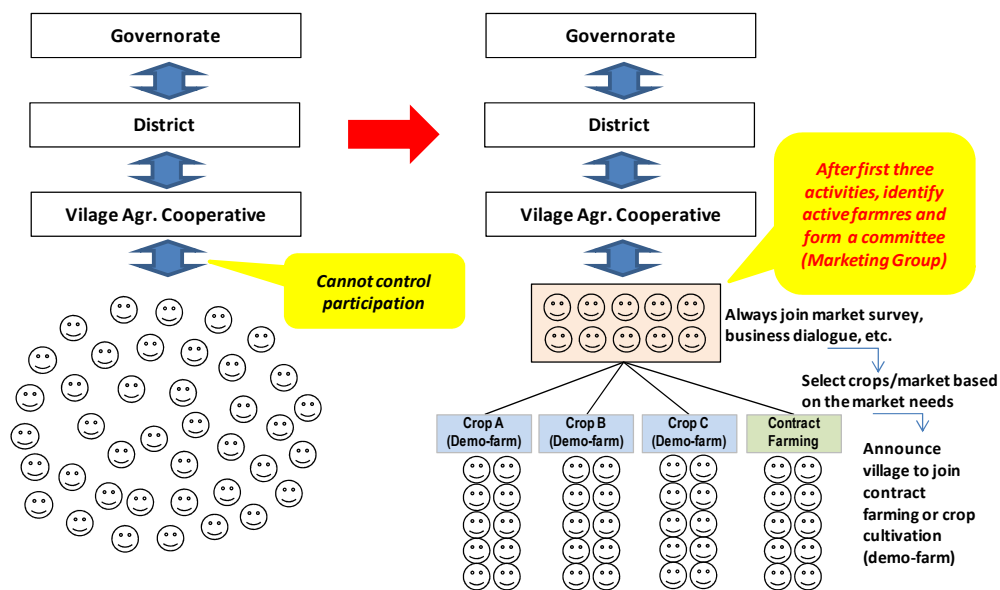


図 2.1.3 マーケティング協議会形成による改善のイメージ

以下、各フローの活動の実施状況について記述していく。まずプロジェクト対象地域の全郡をカバーした当初の3サイクルの活動を中心に整理し、後半に中間レビュー提言反映後の活動（第4サイクル以降）について整理する。

2.1.2 対象農協及び対象小規模農家の選定方法の合意と選定

プロジェクトは、各県の各郡から1村ずつ対象村を選定し、約1年をサイクルとする活動を3サイクル実施して全郡をカバーする計画で実施した。ミニア県は9郡、アシュート県は11郡存在するので、第1サイクルはミニア県3郡、アシュート県3郡、第2及び第3サイクルでは、ミニア県3郡、アシュート県4郡を対象として計20郡（20村）を3サイクルでカバーする計画とした。プロジェクト活動開始時には、各郡の郡事務所の職員を招集してプロジェクト説明を行った。

郡選定に際しては、県を北部、中部、南部と3つのブロックに区分し、各ブロックから1郡（1村）ずつ選定する案を専門家チームより提案した。これは、第2、第3サイクル活動実施時に、近傍にプロジェクト活動既実施村が位置するようにし、第2サイクル、第3サイクル実施時に、活動経験を得た村との経験交流を容易にすることを考慮した案であった。アシュート県のC/Pチームはこの案に同意したが、ミニア県は、第1サイクルは県南部の郡に集中させ、複数村のモニタリングを同時に行いやすいように配慮した方が良いとして、県南部の3郡から対象村を選定する

こととした。しかしながら、1日に複数の村を回るのは困難であったので、第2サイクル以降は、県中部、北部地域から各々対象郡を選定するようになった。下図に、各サイクルの選定郡および選定村を示す。

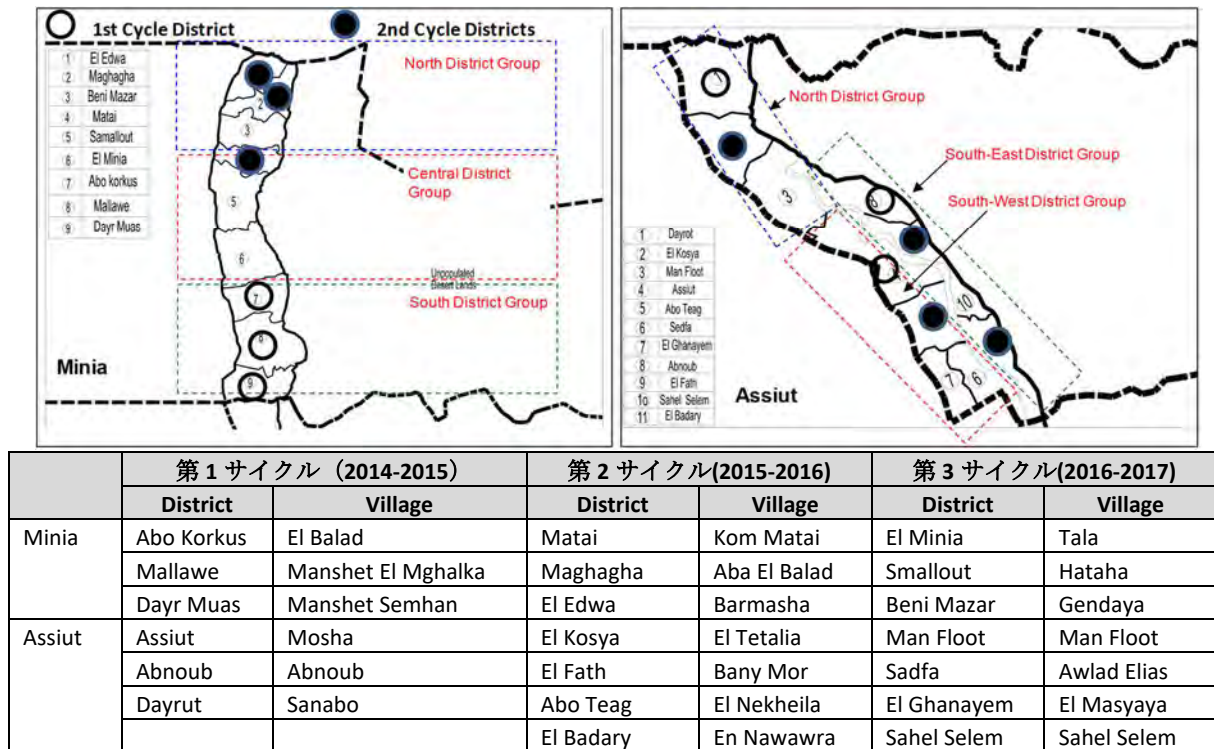


図 2.1.4 第1サイクルから第3サイクルまでの対象郡と対象村

(1) 農協選定方法の協議

プロジェクト開始当初に、対象郡から、農協（村）を選定するに当たって、その選定指標の設定に関して、プロジェクトチームで指標の選定、指標を測るための収集情報と入手方法、評価方法と重み付けといったことを討議した。指標は、農協の理事会が活発であるか（農協で独自の活動を行っているか）、十分な数の普及員が在籍しているか、村での特産物などがあるか（作物別作付面積確認による園芸作の振興度合い）、農協の財務状況等である。また、肝心の判断基準となる農協のプロジェクト活動への参加意欲については、プロジェクトに関心ある農協に質問票を提出してもらい、評価上位農協を実際に訪問して意欲を直接確認するという方式をとった。

(2) 対象郡の農協代表へのプロジェクト説明と選定

活動開始当初に、対象郡で農協代表への説明会を開催した。この説明会では、プロジェクトの概要を説明すると共に、プロジェクトが直接対象とする1村と40戸の農家を選定することを説明し、選定のための質問表の配布等を行った。また、このプロジェクトが提供するものは研修と農業関係者との対話の機会であることを説明し、金銭的インセンティブはMALRが手当てしない限りはプロジェクトの提供外であることを明確に説明した上で、参加意欲のある農協に意思表示していただくことを要請した。

(3) 選定された農協（村）内における農家選定方法の協議

選定された村農協が、小規模農家を選定する方法について、農協からの意見聴取も踏まえてプロジェクトチームとして最終的な選定方針を定めた。小規模農家選定の基本的な考え方は以下の通りである。

1. 本プロジェクトは、農協を村へのエントリーポイントとして小規模農家を支援しようとしているが、同時に農協に席を置く普及員による活動の普及展開を期待している。後者が機能することを期待するには、農協をエントリーポイントでとどめておくのではなく、農協組織の主体性が重要になってくると考えられる。小規模農民の選定においては、農協の主体性を醸成する工夫が必要と考えられる。それは、農協に主体的に農家を選定してもらうことである。
2. 小規模農家への市場志向型農業の普及という目的意識から、一定の選定条件は必要となるが、それに加えて、農協が考える農協（村）の将来像（ビジョン）を考えてもらい、それに基づいた農家選定を行ってもらう。
3. まず、前提条件として、以下のような基準はプロジェクトから設定した。
 - (1) 経営面積が3fed以下の農家とすること
 - (2) プロジェクトに参加意欲がある農家であること
 - (3) 寡婦や女性グループなどがあれば、彼女ら（彼女らの代表）を優先的に選定すること
4. 次に農協が持つ村の将来像（ビジョン）は何かを農協に提示してもらい、そのビジョンに沿って農家選定を農協に委ねた。ビジョンといっても、抽象的で考えにくいと思われるので、下記のようなオプションを農協に提示しつつ農家選定を検討してもらった。

<村の将来像（ビジョン）のオプション>

- (1) 農民を組織化して農業振興を図る（この場合、グループ活動に関心のある農家を選定することになる）
- (2) 個別農家の活動を支援していく（この場合、農民間普及を考え、農地の地理的分散や村内の大家族への均等配分などの条件をもって個別農家を選定してもらう）
- (3) 女性の力が発揮できる農村にする（上記基本条件と重なるが、女性グループや未亡人などを優先的に選定する）
- (4) その他（農協が独自に掲げるビジョンに沿って農家を選定してもらう）

農協は、プロジェクトが提示する前提条件を遵守しつつ、各農協の思い描く村の将来像に基づいて農家選定の裁量をふるってもらった。ただ漫然と40人の農家を集めるよりも、こういったビジョンに基づいた選定を行うことで、農協が将来主体的に農家支援活動を展開する契機を埋め込むことを考えた。

第2サイクルでは、女性を10名は選定すること、また50歳未満の若い農家を推奨すること、といった基準を追加した。当初農家の夫婦による共同参画を想定していたが、男女隔離規範の厳しい農村の風習から、夫がWSに出ると妻は出ないという傾向が非常に強かった。そこで、女性は女性で対象者として定義し、対象農家の妻ということにこだわらず関心のある女性を集めてもらうことにした。枠組みを変え、またプロジェクト側からの説明会（オリエンテーション）の主旨をきちっと伝え、参加女性の男性家族の理解も得ることで女性の参加を促進することができた。この説明会に参加した女性は、その後プロジェクトの女性支援活動として、男性農家の園芸作支援活動とは別途独立して活動を進めていくこととなった。

できるだけ若い農家を集める趣旨で導入した年齢基準は、農協関係者側から、高齢であっても学びたい農家もあるので、年齢制限を設けるのはどうかという疑義が呈された。この点につき、高齢であっても学びたいという意欲を示される方であれば参加してもらい、この基準の厳格な適用は行わなかった。結果的には第2サイクル以降の参加農家の平均年齢は下がる傾向となった。

(4) 農協（村）における説明会（オリエンテーション）

村での説明会（オリエンテーション）呼びかけは、村において若干異なるが、「肥料の購買等で冬作の作物作付面積を農協に申告する時期なので、申告に来た農家に周知した」、「村のモスクのスピーカーで呼びかけた」、「農協理事会メンバーに伝達を依頼した」といった、村での通常の伝達手段に依拠した。

オリエンテーションでは、プロジェクトの概要（普及フロー）の説明、ジェンダー主流化の説明、ジェンダー状況（男女の役割等）を確認する W/S の3つの項目で実施した。第2サイクル以降では、前サイクルまでの活動の写真を使って説明し、活動内容が分かり易いよう工夫していった。また、第2サイクルより、対象農家に対してパスポートを作成して配布し、参加した活動を記入して押印することで、農家の継続的参加を促す工夫を行った。市販のポケットノートに各農家の写真を撮影して貼り付けたものであるが、写真撮影は農家に好評であった。

プロジェクトの説明後、参加農家と、農産物を高く売るためにはどのような方法が考えられるだろうか、といった議論を行った。思いつかないから教えてくれ、といった発言が出てくる村がある一方、品質向上や栽培作物の多様化といった回答がすぐに出てくる村もあった。一般的な傾向として、規模の大きい村ほど高く売るためのアイデアを発言する農家が参加していた。どの村でも出てきたのは、農産物の価格は需要と供給で上がったり下がったりする、という一般論であった。

プロジェクトチームからは、品質で勝負するには輸出市場や大都市市場、そのためにはアグリビジネス企業へのアクセスが必要、ローカルマーケットはまさに需要と供給で価格が決まるので、端境期出荷が一つの戦略となることを説明したりした。前者に対しては、プロジェクトではビジネスダイアログを催しアグリビジネス関係者との対話の機会を提供することを説明した。後者に対しては、市場調査を行い、情報を得ると共に混作技術等の端境期出荷を狙う技術もデモ圃で紹介することを説明した。

オリエンテーションでは、その村の男女隔離規範の厳格性などジェンダー状況を把握するため、ジェンダーワークショップを組み合わせて実施した。第1サイクルでは、プロジェクト説明オリエンテーションとは別の日に実施したが、第2サイクル以降はオリエンテーションと同日に実施した。

ジェンダーW/Sでは、1)作物別農作業における男女の役割と責任、2)意思決定における男女の役割、3)資源へのアクセスとコントロール、4)生活カレンダー、という4つの項目について参加農家と討議し、男女の役割・貢献等の違いを明らかにした。下記がW/Sで得た主な知見である。

- 女性が圃場で働くことの制限等から、アシュートが相対的にミニアよりも保守的な傾向がある。ミニアでは、女性の圃場での作業参加が比較的多い。
- 家畜の世話は女性の役割とされている。圃場と家の間を、家畜を移動させる仕事は、男性の役割となっている村では、特に女性の活動範囲が制限される傾向が見られた。
- 作物の選定に女性が関わっている村が多いが、基本的には女性は自家消費のためのメイズや小麦の確保のため、それら作物の最低限の必要作付面積を夫に進言するという関わり方である。どのような作物の収益が高いか、といったような相談ではない。
- 女性は、家禽や乳製品の販売益は自らがコントロールできる。更に、夫が営農により得た所得に対してもアクセスできると回答した村が多かった。これは収入を家族のためにどう使うか、ということに対して、女性の意見が尊重されている事を示唆する。

2.1.3 ベースライン調査

ベースライン調査は、対象農家が自らの営農の現状を把握することにより、農業所得を向上するために何を行わなければならないかを意識することができるよう、農家の気づきの場として位置づけて実施した。第1サイクルでは、対象農家選定後の普及フローの最初の活動としてベースライン調査を実施した。まず、ベースライン調査に先立って、各郡農業事務所職員、各村の農協職員・普及員を対象としたベースライン調査および市場調査実施方法の研修を行った。そして対象農家とのベースライン調査実施の際は、非識字者に対して普及員が支援して調査を行った。

第2サイクルでは、上述のように、プロジェクトとして農家の参加の非継続性が課題となったため、ベースライン調査の実施時期を、営農計画作成のステップと同時期に実施するよう活動の順番を入れ替えた。第1サイクルでは、ベースライン調査に参加した農家が、その後活動に参加せず異なる農家が活動に加わる状況が発生していた。順番を入れ替えることにより、営農計画を作成する農家とベースライン調査を行う農家が同一農家となることを担保した。

第3サイクルでは、上述の如く、意欲的な農家によりマーケティング協議会を形成し、この協議会が作成した営農計画により技術研修を行う作物を選定した。その選定された作物の技術研修に関心のある農家を再度招集するというステップをとった。ベースライン調査は、この協議会メンバー農家と技術研修参加に関心を表明した農家とに対し、実施した。完成した普及フローでは、ベースライン調査は、このような形式で実施するものとした。

2.1.4 市場調査の実施支援

第1サイクルにおいて、2014年10月から、市場調査の準備作業を開始した。「Implementation Process for 'SHEP' Approach (Guideline with Ideas and Sample Format used by SHEP UP)」(May 2013)に基づいて専門家が作成したドラフト調査票をプロジェクトチームの全体会議で議論し、調査フォームを最終化した。続いて、C/Pが自身でプレ市場調査を実施し、C/P自身が市場調査に対する理解を深め、市場調査の実施方法、目的、有効性、および調査票の適切性について確認を行った。また卸売業者への市場調査実施の協力依頼を行った。

このプレ市場調査を行うことにより、当初、農家は地元の市場の事はよく知っているとして市場調査の有効性に懐疑的であったC/Pも、その意義を実感したようであった。その後、C/Pを中心に各村の農家を対象とした市場調査を実施した。参加者には、読み書きができない農家も多かったことから、郡及び村の普及員が農家と一緒に調査を行った。各村で市場調査を実施後、これまでの一連の活動結果をプロジェクト対象農家と共有するためのワークショップを各村で開催し、活動の一部にしか参加していない農家とも情報の共有を行った。

市場調査に参加した農家からは新たな野菜の品種を知ることができたなどの声が聞かれた。また、一部の農家から、市場調査を通して、一部の作物は期待を下回る価格でしか取引されていないことが分かりがっかりしたという意見も寄せられた。活動結果の共有W/Sでは、ベースライン調査結果及びジェンダーW/S結果の共有も行った。

第2サイクルでの市場調査を実施するに当たっては、事前にどのようなことを市場で調査するかを討議するW/Sを各村で実施することとした。これは、多くの農家は、市場の事は分かっている、と常々述べていることから、では実際市場の事について、農家はどの程度どのように分かっており、その上で更に卸売市場で得たい情報はなにか、ということ事前に協議しターゲットを明確にすることで、市場調査がより効果的に実施できるであろうという想定であった。この事前W/Sで議論された内容を以下にまとめる。

市場について知っていること：

- 農家のほとんどは村の市場で販売を行っており、また村内居住の仲買人から作物価格を聞いている。村内には信頼できる仲買人がいる。
- 村の仲買人は資材の前貸しも行っている。
- 郡都の卸売市場に行って価格を調べている。
- 収穫時期に市場価格を調べている（高く買ってくれる市場に出荷する）。
- 市場価格は、需要と供給で決まる。端境期の野菜価格は上がる。
- トマトとフレンチビーンの値段は9月、10月が高値になる。
- サトウキビの価格は6月、7月に高値になる。
- ポテトの価格は12月、1月、3月に高値になる。
- ニンニクとタマネギは、輸出用か国内向けかで価格が変わる。
- 大規模農家が輸出用に生産物を回すと、その生産物のローカル市場の価格は上がる。
- トマトは、色と大きさで2種類の規格がある。色と大きさは、市場での品質基準になっている。

市場で更に知りたいこと：

- 市場で需要の高いものは何か
- 現在時点の青果物の卸売価格
- 各作物の高値の時期
- 新しい卸売業者
- 優良品種や優良農薬とその入手先
- 輸出に回せる品種は何か
- 卸売の手数料と卸売業者の取引システム
- 卸売業者が販売前に、農家からの買い取り価格を固定して取引する可能性
- 卸売業者の来年の市況予測

このような農家との W/S を踏まえて調査票も改善し、第2サイクル、第3サイクルの市場調査を実施した。また、調査市場はミニアおよびアシュート県都にある規模の大きい卸売市場で調査を行った。県都の市場には農家も十分に自力で訪問できることが想定されるためである。アシュートの対象農家では、アシュート市内の卸売市場を訪問したことがない農家も多く、今回の市場調査をきっかけに新しい卸売業者を知ることができ今後直接コンタクトしてみたいといった声も多く寄せられた。

市場調査直後の振り返り意見交換会で多くの農家は、特定の作物の価格が生産力の高い産地の供給量の変動による影響が大きいことや、ある作物が高く売れるための品質など、市場調査研修の中で学んだことを挙げていた。しかしながら、それらに基づいて、如何なる戦略を取りうるか、という具体的なアイデアまで議論が到達することは困難であった。市場の不確かさと負うリスクを秤にかけ、新たな取り組みや工夫に労力をかけない、という選択もまた合理的な農家の判断であることも事実である。

そのような中、市場のニーズに即応して動く農家も見られた。一例をあげると、第3サイクルのアシュート県 Sahel Selem 村の対象農家による市場調査では、これまで栽培経験がなかったジャガイモについて、卸売業者から9月中旬に始めれば高く売れる時期に販売できるとの話を聞き、農家から栽培に取り組みたいとの強い意向が示された。こうした市場から得た情報に基づくチャンス逃すまいとする積極的な農家の意向に沿う形で、アシュート県ではジャガイモの技術研修を予定より早めて実施した。

2.1.5 農業ビジネス関係者との対話の機会の提供

(1) 農業ビジネス関係者との対話の機会提供（ビジネスダイアログ）の準備

市場調査と並ぶ市場のニーズを知る活動である農業ビジネス関係者との対話（ビジネスダイアログ）は、第1サイクルでは市場調査実施後に、第2および第3サイクルでは市場調査実施前に行った。第1サイクル時に、まず農業ビジネス関係者の情報収集を行った。カイロを拠点とするビジネス関係者は、Chamber of Food Industry、Food Export Council等の業界団体のWebサイトから500社を超える農産物輸出企業のリストを入手した。また、カイロのスーパーマーケットを回って棚先に並べられている生鮮野菜の出荷業者や冷凍野菜のブランドを調査し、38社の情報を得た。

これらの企業に、小規模農家とのビジネス対話の機会を設けた場合に参加への関心があるかどうかを問う質問状を作成し、またプロジェクトの概要書を作成して、収集した企業リストから製菓業者等関連性の薄い企業を除き、398社にメールで配信した。最終的に6社から関心表明が届いた。

ミニア県、アシュート県では、県の商工会議所に登録されている小売企業や卸売、農産加工関連工場等のリストを入手したが、これらの登録業者は各々の県で400社を超え、カイロの大企業と異なりメールアドレスも不明であるため、これらリストを活用しつつも、C/Pが対象業者のリストアップを行い、必要に応じて直に企業を訪問して回り、ビジネス対話への招待相手を絞り込む作業を進めた。

(2) ビジネスダイアログの実施

当初計画では、まず対象県内の農業ビジネス関係者を集めての対話を開催し、次に対象農家の意思や能力を見てからカイロに拠点を要する食品業者との対話を開催する、という手順を考えていた。しかし、対象農協の所長や一部の参加農家が、小規模農家はグループ化して地域外の市場へ売り込むことを目指したいという意向を示しており、そういった彼らのモチベーションを活かすことを考え、県内の関係者ダイアログとカイロからの食品業者とのダイアログの両方を実施することとした。

ビジネスダイアログは、ミニア、アシュート各県のホテルのホールを借り上げて会場とし、午前10時過ぎから午後3時頃までで行った。参加企業・機関が少数であることから、各企業・機関にまず参加者全体に対し活動概要や企業としてのニーズ等をプレゼンしてもらい、質疑応答を行った後、各企業・機関に分かれて参加農家との更なる対話を行うというスタイルをとった。

参加企業は、エジプト農村における小規模農家の所得改善に寄与したいという志をもって参加していただいた方々ではあるが、一方でビジネスを成立させるという冷徹な目標も併せ持つため、農産物輸出には最低限GLOBALGAPの取得が必要、会社は個々人の農家とは取引しない、農家が組織化してまとまった取扱量を生産してもらわないと取引できない等、ビジネスとして引き合うための条件を明確に示して説明を行っていた。行政側に対する企業からの期待も表明され、特に既存農協の脆弱性が指摘され、農家の組織化において行政の役割への期待が指摘された。

また本ダイアログでは、有用と思われる栽培技術等を農家に紹介する場としても活用した。具体的には、第1サイクルにおいてJICAの他の支援プロジェクトであるWATの関係者を招いて、同プロジェクトで開発した飼料作物栽培改善技術の説明ブースも用意した。飼料作物の栽培改善により、家畜の栄養バランスを改善することで搾乳量が増大し農家の所得向上にも寄与する技術であることから、本フォーラムでの農家への紹介を実施した。その他資材業者や卸売業者、ホテル関係者、農業研究所の研究者も招いて農家との対話を行う機会を設けた。また、ミニア市近郊

では、端境期出荷を狙った冬季のトンネル栽培によるモロヘイヤ栽培が広がっており、こういった市場を意識した農家の取り組みを紹介するため、トンネル栽培を手掛けている小規模農家を招聘してダイアログに参加してもらった。

(3) ビジネスダイアログの実施方法変更と契約栽培支援の方針

上記の要領で第3サイクルまで3年に亘って、ビジネスダイアログを開催した。第3サイクルでは、カイロの企業や輸出業者を対象としたビジネスダイアログを開催するため、これまでのサイクルと同様に、約300社の企業にメールにて招待状を送付した。しかしながら、開催予定日までには十分な参加企業が集まらなかったため、ビジネスダイアログを延期する事となった。

参加企業が集まらない理由として、これまでにカイロの企業とのビジネスダイアログを2度実施したが、ほとんどの企業では取引まで至らなかった点が考えられた。一方、農家は安定収入を得るために企業との契約栽培を希望しており（いざ企業と協議となると農家は非常に懐疑的な態度をとるのではあるが）、ビジネスダイアログへの期待も大きいことから、ビジネスダイアログを普及フローから切り離し、具体的に契約栽培を進めたいと考えている企業と関心ある農家を複数同士のランダムな形ではなく、1対1で面談する形式で成功事例を作るべく活動を進めることとした。これによりビジネスダイアログは、企業からプロジェクトへコンタクトがあった場合などに適宜開催する On-demand 形式での実施に切り替えた。

(4) ビジネスダイアログ後の動きについて

ビジネスダイアログ実施後、農協職員が自らビジネスダイアログに参加した業者のリストと連絡先一覧を作成し農家への配布を行ったり、実際に契約栽培にまで進んだりした例も見られた。第1サイクルでは、ビジネスダイアログ（2014年実施）に参加した企業とミニア県 Manshet El Mghalka 村でサツマイモの契約栽培をパイロット的に実施した。第2サイクルのビジネスダイアログ実施後（2015年）、アシュート県の El Kosya 郡 Tetalia 村の農家は、ビジネスダイアログを通じて知り合った大豆業者にコンタクトを取り、計9 feddan 分の大豆を取引した。以下に、進められた契約栽培の試みについてまとめておく。

契約栽培の試み1：サツマイモ

ミニア県 Mallawe 郡、Manshet El Maghalka 村では、Agrofood 社との契約栽培を、農協の所長が主導して行い、3農家合計3feddan（1.26ha）で、Agrofood 社から提供されたサツマイモの蔓を用いた栽培を2015年7月より開始した。まずはパイロットとして実施し、企業側の要求に見合った品質の生産物が得られた場合はこれを広げていくとの考えで栽培を開始した。

この契約では栽培に際し、海外輸出を予定しているために農薬を使用しない事、サツマイモの蔓は Agrofood 社が提供する事などが決められていた。さらに、収穫前には Agrofood 社から社員が派遣され、収穫後の選別についての指導が行なわれていた。2015年12月16日迄に3農家分の収穫を終了した。しかし、作付開始時には契約書を作成していなかったため、収穫の直前になり Agrofood 社と農民との間で、資材や輸送経費の分担で意見の対立が生じた。更に、会社側は収穫のうち品質の良いものだけ買い取るため、実際に会社が引き取った収穫量は全体の25%に留まり、農家は残りをローカル市場で安価に販売せざるを得なかった。

今回の契約では、契約書を作成していなかった為、企業と農家との間でトラブルが起きてしまった。企業としては、ポテンシャルがわからない農家との契約に躊躇したと考えられる一方、農家側も契約栽培の理解が不十分であった。また都度の交渉でお互いが有利に取引しようという意思があったようにも思われる。今後は契約栽培の推進のため、農協や普及員が企業と農家との間に立ち契約栽培を取り纏めるといった支援も必要と考えられた。パイロット後、さらなるサツマ

イモ契約栽培の展開には進まなかったが、農家は、品質の良いものを作ればローカル市場の倍以上の価格で買い取ってもらえることから、契約栽培に完全に否定的にはならなかった。

契約栽培の試み 2：オクラ栽培

これまでで収集した企業リストから小規模農家との取引に特に関心が高い企業に連絡をとり、企業側の意向を確認したところ、冷凍野菜等を輸出する Frozina 社が、ミニア県でオクラの生産を行いたいという意向を示した。Frozina 社は第 1 サイクルにおけるビジネスダイアログ参加企業であり、最初は規模を問わないのでまずは成功事例を作り、将来的にオクラの契約栽培を広げていきたいとのことであった。

企業側は、現在仲買人を通してオクラを調達しているが、質の問題等もあり、農家と直接取引したいという希望をもっている。しかしながら、良い農家をどうやって探せばよいか分からないので、行政が良い農家を紹介してくれればありがたい、ということであった。農家との橋渡しが、企業側の行政に期待するポイントであった。

ミニア県の対象村に関心のある農家を募って、同企業とのオクラの契約栽培に関する対話を 2017 年 3 月 12 日にミニア県農業事務所で開催した。8 村から約 70 名の農家が参集して企業側との活発なやり取りが行われた。企業側は、日本の品種であるオクラを栽培したく、またサイズも 3cm を指定した。これに対し、農家は、初めて栽培する品種はやはり不安があるとして、議論の結果、初年度はデモ圃を設置して、栽培方法や収穫方法を確認するということになった。企業側も長期的な利益を求めており、まずはデモ圃から開始することに合意し、種子や肥料を企業側が供与することとなった。ミニア県北部の Kom Matai 村でデモ圃を設置することになり、プロジェクトは、他の村の農家のデモ圃視察を支援することとした。

デモ圃の設置に向けて、デモ農家の確定、契約案の作成、企業による種子の調達等を進めたが、C/P は、種子の certificate 取得や全ての工程に亘って企業が栽培指導すること等を企業側に求めた。農家の不利益になることを危惧しての要求であるが、あまりに行政がこういった企業参入のハードルを高めると企業は逃げてしまうのではないかと、ということも C/P に助言した。

企業側も現場に来ない等そのコミットのあり方が薄く、結局このデモ圃設置は取りやめとなった。一つには、この企業は、別途 NGO と提携して、ミニア県の別の村でオクラのデモ圃活動を始めたという背景もあった。この NGO は、村において企業側の活動代行者としてふるまっているようであり、企業側の負担を軽減する役割を担っている。このような NGO との提携が一方にあり、こちらの方が行政よりも連携し易いということで、この NGO との共同活動に企業は注力したとも考えられる。

契約栽培の試み 3：タマネギ栽培

2017 年 5 月に、乾燥タマネギの輸出等を手掛けている Olam 社から、アシュート県の小規模農家とのタマネギ栽培の取引を試行したい旨連絡があった。この企業には、ISMALP の News Letter を配信していたが、それに企業側が関心を示してコンタクトしてきたものである。

チームは、アシュートのこれまでの対象 11 村に本件について呼びかけを行い、9 村から関心表明が上がった。これを受けて 2017 年 6 月 21 日に、Olam 社とアシュート県の対象村との間でビジネスダイアログを開催した。同日に農協職員を含む 103 名が県農業事務所に参集した。Olam 社が会社概要およびタマネギ契約栽培について説明し、参加農家との議論を通して契約栽培の条件を明らかにしていった。議論の結果、当初は 4 村が契約栽培を実行する強い意志表明を行った。

2017 年 6 月末に、ガソリン代の更なる補助金カットによる値上げが政府より実施され、物価上

昇が不透明になったことから、企業側が内部で契約条件見直しを行い、農家へのコンタクトが遅延した。2017年8月になり、ようやく再度説明会が行われたが、いざとなると農家は企業に対し懐疑的な態度に終始し、最終的に大規模農家1戸が6feddanでタマネギ契約栽培のパイロットを行うことで合意した。

今回パイロット的に契約栽培に合意した農家は、大農でありかつ仲買業も営んでいる農家であった。新たな取引先の村への導入や新たな技術の導入等においては、失敗のリスクを取り易いこういった大農が先鞭をつけられる可能性が高い。本プロジェクトは小規模農家を対象としているが、地域における大農や仲買人との連携は、小規模農家の支援においても重要な役割を果たすといえる。

企業側はタマネギの苗を農家側に供給し、契約農家は2017年8月末より栽培を開始した。プロジェクトでは、このパイロット農場に関心ある農家の視察活動を支援し、契約栽培の展開を支援した。2017年10月にField Dayを開催し43名の農家および8名の農協職員が参加した。企業側からは、指定された品種のタマネギの苗提供に加え、週に1度企業のアグロノミストが契約栽培農家を巡回し圃場状態の確認や農家へのアドバイスを行っているため、タマネギの生育が大変良好となっていた。このため視察に参加した農家も契約栽培への関心を高めたようであった。しかしながら、翌年以降に新たに契約栽培を結んだ例は現れず、農家側、企業側双方のコミットを持続させることは容易でないことを学んだ。

契約栽培の試み4：大手小売店舗への直売

近年、地方都市にも大手小売業が進出してきている。プロジェクトでは、ビジネスダイアログの一環として、これらの大規模小売店と連絡を取り、農家による直売コーナーを設置してもらえるか提案してきた。農家が直売することで自ら値段をつけ、トレーダーによる中間マージンを農家側が得ることによって、販売量は限られるが高い所得率を実現することができる。本邦研修で視察した日本での直売の振興を参照し、農家の市場チャンネル多様化にも寄与するため、小売業側とのダイアログを行った。

プロジェクトチームは、スーパーマーケットの生鮮品コーナーに、近隣農家の直売コーナーを設けてもらい、農家は直売を行うと共にスーパーマーケットは手数料を取るというビジネスが可能かどうかを2017年9月に小売業者側に提案した。ミニアのRaya Mallでは受け入れられなかった（既に仕入れ業者が充実しているため）が、アシュートのHyper Panda（本社はカイロ）は、参加農家数、供給できる野菜の品数と数量、および契約を行う登録団体の存在があれば検討する、という回答を得た。

これを受けて、対象村のうち、Hyper Pandaに最も近い（車で15分）Bany Mor村で会合を開き、直売に関するアイデアについて農協職員及び参集した農家に説明した。翌日には農家による当該スーパーマーケットの視察を行った。農家は、スーパーマーケットで販売されている農産物の質を評価したり、販売価格を見て、農家が同じ値段で直売した場合どれくらいの収益が得られるかを議論したりした。当初約5名の農家に関心を示し、農協職員も登録団体として小売業者側と契約を結ぶ労を取ることに合意したが、村内の議論の末、結局この取り組みに乗る農家はなくなってしまった。特に毎日の輸送とそのコスト等を問題視され、チャレンジには至らなかった。

契約栽培の試み5：キュウリの試験栽培

契約栽培の推進においては、アシュート県でキュウリの新品種栽培を目指すGanen社がアシュート県農業事務所にコンタクトをしてきた。Ganen社は、Man Floom村の農家2名に新品種のキュウリの種子を供与し、パイロット的に栽培を行ってもらっていたが、その後収穫が始まっても農

家に連絡がなく、パイロット農家は、ローカル市場に収穫したキュウリを販売せざるを得なかった。これまでの契約栽培においても、企業側が必ずしも誠実な行動をとらなかったケースが見られた。契約栽培は、農家側の関心は高くもいざとなると非常に慎重になる農家の態度のみならず、企業側の農家への配慮に欠けた態度も、この市場流通拡大の阻害要因となっている。

2.1.6 営農計画立案にかかる支援

(1) 郡・農協職員に対する営農計画策定準備ワークショップ

第1サイクルでは、郡・農協職員を対象とする営農計画策定準備 W/S を開催した。W/S では、まずこれまでの活動を、普及フローを基にレビューし、続いて個別農家が作成する営農計画の様式（案）を参加者に説明し、参加者のコメントを受けて営農計画様式の最終化を図った。対象小規模農家はグループを形成しておらず、個別営農を基本としているので、対象農家一人ひとりが作成する営農計画様式とした。内容は、選定作物（品種）、作付面積、作付け時期、目標収量、目標販売単価、販売先、および生産費を整理して計画農業所得を設定するものであり、できるだけ簡易な様式となるようにした。

(2) 営農計画作成ワークショップ

第1サイクルの営農計画作成 W/S では、農家の選定作物を確定し各作物の収益計算を行って農業所得目標を個々の農家が作成した。これまでの市場調査やビジネス対話で得た市場情報を基に、対象農家が営農計画を作成するこの W/S は、今後技術支援の対象となる作物の選定もなされるものである。しかしながら、想定通りに行かない面もあったため、都度 W/S の方法も修正しつつ進めていった。下記に、W/S 実施の修正点を整理する。

- これまでのプロセスに参加しておらず、この営農計画作成W/Sから初めて参加するような農家も多くみられ、農協がISMALP活動参加農家を管理できていない実情が明らかとなった。そのような初めて参加する農家も、ビジネス対話に参加していた食品業者との取引を希望して作物選定（トマト）を掲げる農家も見られたため、おそらくは対象農家が所属する大家族内（縁戚）での情報共有がある程度なされていることは観察された。しかしながら、これまでのプロセスを踏まえていない農家の参加は基本的に避けるため、以降のWSでは、あらかじめ営農計画票を、農協を通じて対象農家に配布し、農家にできる範囲で記入してもらい、W/Sの当日に持参してもらうようアレンジした。
- 営農計画で、目標収量や目標単価の設定で当惑する農家もあったため、全体で選定作物、販売先、目標収量、目標単価等を討議するセッションを設け、その後に個別の営農計画票を記入（記入してきた人は記載内容の再チェック）するステップをとった。

このようなアレンジを行った結果、参加農家の討議により、妥当な目標収量や目標単価の設定に寄与した。事前に営農計画票の記入を依頼していたが、ほとんどの農家は未記載であったため、この全体討議の結果を反映しつつ営農計画票を埋めて計画を立てるようにした。

第2サイクルでは、上述のように、同一の農家が営農計画作成とベースライン調査を行うよう、この二つを合わせて行った。1回目のW/Sでベースライン調査を実施すると共に市場調査結果の共有を行ない、つづくW/Sで営農計画作成を実施した。農家は栽培作物を変更する事に対して慎重であるため、営農計画作成においても前作期と同じ作物を栽培するとした農家が多かった。プロジェクトが栽培技術に関するトレーニングや、村内にデモ圃場を設置する事を説明し、ジャガイモ、キュウリ、タマネギ、ゴマ、トマト、大豆、ニンニクなど園芸作物への選定の幅がある程度広がった。

第3サイクルでは、上述のように意欲ある農家を集めたマーケティング協議会を形成した。第

1 および第 2 サイクルでは、対象農家の継続的な参加が大きな課題であった。毎回の活動で参加農家が大きく変わり、継続的に参加した農家は延べ参加農家数の数パーセントにしか過ぎないという状況があった。営農計画の段階になって初めて参加してくる農家もあり、それまでのビジネスダイアログや市場調査という市場ニーズを知る活動を踏まえないで営農計画が立てられてしまうという弊害が起きていた。第 2 サイクルでは、農家の継続的参加を促す改善策を施したが、その効果は限定的であった。

このため、第 3 サイクルでは、プロジェクトの活動の積み重ねによって営農計画が立てられるよう、活動に継続して参加した農家を核に、各村でマーケティング協議会を結成し、この協議会が営農計画を策定することとした。協議会による営農計画策定では、これまでの市場ニーズを知る活動で得た情報を踏まえ、技術支援を要請する作物を選定、また契約栽培に関心がある場合は、その旨を計画に盛り込むようにした。この計画に基づいて再度対象村の農家に呼び掛け、技術支援（研修及びデモ圃設立）を行う作物の研修に参加希望する農家を募り、その上で技術支援活動を実施するというステップとした。

各村の協議会による営農計画作成 W/S では、まず村の代表的な作物と作付体系を整理してもらい、次に市場調査およびビジネスダイアログの結果をレビューし、これらの情報を基に次期作物の選定をおこなった。各村で協議会と協議し、プロジェクトから技術支援を実施する作物を絞り込んだ。

2.1.7 普及する農業技術にかかるトレーナー研修の実施

各村で選択された作物に対し、プロジェクトチームで協議し、TOT の対象作物を決定した。対象作物の選定基準は、基本的には選択した農家数の多い作物を選んだが、サトウキビの様に農家が十分に栽培技術を持っていると考えられる作物については対象から除外した。一方、選択する農家数は少なかったが、近年栽培面積が拡大しており、将来この地域でも主要な作物になることが見込まれる作物などは TOT の対象とした。

園芸作物の栽培経験がある農家が少ないという状況から、各作物の講義内容は各作物栽培における土壌の準備から収穫までの一連の栽培手法を網羅する内容となった。TOT の対象となった作物を作付する予定のない一部の対象農家に対しても普及員による技術トレーニングが提供可能となる様、作物横断的なトピック（Recycling agricultural waste, Intercropping、Gender Mainstreaming、Farm Management 等）を含めて TOT 計画を策定した。第 2 サイクル以降では、本邦研修に参加した C/P の意見により、有機栽培と GAP についても講義内容として盛り込まれた。

TOT の講師は、MALR 配下の農業研究所(Agriculture Research Center: ARC)のミニアおよびアシュート支所の研究員が中心となって構成した。農業廃棄物の飼料活用については、WAT プロジェクトで家畜飼料の栄養改善に資する研究を行った ARC 本部の研究者に、WAT で開発した技術を講義頂いた。研修受講者は、農家への技術指導を行うこととなる対象郡および対象村農協の普及職員を対象とした。

R/D の合意事項により、第 1 サイクルにおいては、MALR 配下の ARC の研究員にも研修講師の謝礼を JICA が負担したが、第 2 サイクル以降は、MALR 関係者への謝礼は MALR 側が負担することとなっていた。しかしながら、MALR の予算確保が第 2 サイクル以降もできなかった。このため、研修講師を大学などの外部から招待する対応（外部者への謝礼は第 2 サイクル以降も JICA 側負担）と農協の予算を活用するという対応をとった。農協法においては、農協予算の 5%を研修のために活用することと規定されており、アシュート県では C/P が農協に要請して、ARC 研究員に講師を依頼した際の謝礼を農協が支払った。アシュート県では、以後農協の予算から研修講師謝礼を支弁する方策が定着した。ミニア県では農協の合意を得られず、専ら大学の研究者に講師

を依頼した。

第2サイクル以降のTOTでは、普及員のみならず村の対象農家の代表も研修に招待して実施した。TOTに参加した農家は、村での研修でもリソースパーソンになることを期待したためである。講義では、農家が積極的に質問を行い活気ある研修となった。農協の予算を使うことから、TOTでは普及員だけでなく組合員である農家も積極的に招待して参加してもらう方式で研修を行うことが、農協の予算の有効活用としても理に適うものであった。

2.1.8 対象小規模農家向けの技術研修実施支援（デモ圃場設置による研修）

TOTを受けて、各村農協と郡農業事務所が協力して対象小規模農家への技術研修計画を立てた。この技術研修計画を基に、各村で作物ごとの講義形式の研修をまず行い、次に各村においてデモ圃場の設置計画を立て、プロジェクトの支援（資材の提供）により、デモ圃場を設置した。このデモ圃場を拠点に、対象農家への技術研修を行った。

(1) デモ圃場の設置

TOT実施後、学んだ技術を実証・普及させる事を目的として、各村において対象作物のデモ圃場を設置した。まず準備として、各村でのデモ圃場設置に向けたミーティングを行なった。デモ圃場の設置場所は、対象農家であるかないかに関わらず、デモ圃場として圃場を使わせてもらうことに合意した農家の圃場を借りて行った。小規模農家の場合、農地に余裕がないことから、大農の圃場の一部を借りてデモ圃場を設置した場合もしばしばあった。但しデモ圃場の位置は、幹線道路の近くなど周囲から見やすく展示効果が高い場所をできる限り選定した。また土壌分析も実施し、土壌pHおよびECを確認した。デモ圃場の管理方法は、①個別農家が管理する方法と、②対象農家グループによる管理を検討した。

作物の栽培状況を周辺農家に見てもらおう事がデモ圃場の目的とはいえ、ただ見るだけではなく、実際の農作業を一緒に行なう農家グループによる管理の方が、より多くの技術を体験できること、また普及員はデモ圃場を定期的に巡回するので、デモ圃場管理に参加していると普及員から助言を得られる機会が増えるとの考えから、村でのミーティングではグループ管理を推奨した。しかし、対象地域の農家は独立性が高く、概して農家同士は協働作業を好まない。そのため、農家グループによる管理を行なう村、個別農家による管理を行なう村、その両方を行なう村が見られた。

(2) デモ圃場での技術研修、経験交流

デモ圃場では、植え付け時、栽培中途段階、収穫段階等に圃場での技術研修を実施した。この研修では、TOTに参加した普及員が中心となって技術研修を実施したが、民間種子会社が参加して研修を実施するケースも、一度ではあるが行われた。民間種子会社は、園芸作物の振興や新品種普及の目的で、独自にデモ圃場を設置したりしていることから、このような共同の機会ができたものである。またTOTの講師を村に招いてデモ圃場で技術研修を実施してもらうことも行った。研修に集まった農家には、TOTで配布した技術ガイドラインを配布した。

出来栄の良いデモ圃場では、他村の農家を招待してこの圃場を用いて経験交流を実施した。研修が伴わなくとも、村の普及員はデモ圃場の定期的なモニタリングを実施した。ほとんどのデモ圃場で毎週若しくは2週間に1回程度の頻度で普及員がデモ圃場を訪問していた。デモ圃場管理農家は、問題があったときには普及員のみならずC/Pや研修講師に電話連絡を行ない、アドバイスを受けていた。

多くの農家は新しい作物や栽培技術を自身の圃場に適応する事に消極的であった。それは、新しい作物や栽培技術を導入する事が、大きな減収を招く危険性もあるためである。このため村内

で栽培技術を実証し、定着させる事を目的として、デモ圃場設置活動を実施することは有効であった。デモ圃には看板も設置し、看板に栽培品種等の情報も記載した。実際に対象村のみならず周辺村からも多くの農家がデモ圃を視察したことが、村普及員やデモ圃管理農家から報告されている。

(3) 結果共有 W/S

デモ圃での収穫終了後は、デモ圃の結果を整理して農家と情報を共有しデモ圃による普及効果を高めるため、各村で情報共有 W/S を実施した。W/S では、プロジェクトチームから単位収量、生産費内訳、粗収入、および純利益を同一作物のデモ圃毎に比較し、また単位収量については県統計値とも比較した資料を報告し、結果について参加農家で議論し合った。結果の良しあしについては、村でデモ圃モニタリングを行った普及員が説明を行った。参加農家は、デモ圃で扱われた技術等（品種や適正施肥量等）の情報と収量や生産費の内訳にかかる情報を得ることができ、大変参考になったという感想が多く聞かれた。このように、技術支援は、選定された作物に対し、TOT、デモ圃設置、デモ圃での技術研修・モニタリング・経験交流、収穫後の結果共有という手順が確立した。

2.1.9 ジェンダー主流化活動

(1) 女性を主体とする活動の立ち上げ

ジェンダー主流化に関わる活動は、イスラム圏のエジプトで女性が農業にどれくらい関わっているのか、もしくは関われる潜在的能力があるのかという基本的な状況調査から開始した。本件プロジェクトにおいてジェンダー主流化の課題は、一つの大きな課題と認識し、第1サイクルでは普及フローの活動毎に試行を行った。

対象村を選定する際は、農協に対する質問票に女性農家の参加に対する質問項目を設定し、女性参加の理解が得られるかどうかを確認したが、郡や農協への説明会では、女性の参加に対する抵抗が示された。農協選定においては、質問票の中で農協自身が女性の参加に肯定的な姿勢をとる農協を優先して選定するようにした。

ベースライン調査の一環として男女の役割などを確認するジェンダーW/S を実施したが、これには男性、女性が参加できるよう、場所によっては女性だけを民家に集めて実施するよう工夫した。当初農家の夫婦による共同参画を想定していたが、男女隔離規範の厳しい農村の風習から夫がW/Sに出ると妻は出ないという傾向が非常に強かった。こういった背景から、男女共同で実施できる村もあったが、別々に実施する方がより多くの女性を集めやすかった。

ジェンダーW/S では、農作業での役割分担、財産へのアクセス&コントロール、家庭内での意思決定、一日の中の男女の作業分担 (Daily Calendar) を取り上げ、男女両者とも積極的に発言した。男性が主な農作業を担っており、財産へのコントロールや意思決定権を担っていることは明らかであるが、女性たちは家畜の世話（牛や家禽）に対して多くの作業を担っていることが明らかとなった。家畜の世話の他、乳製品（牛乳、チーズ、バター）作りを担っており、特に家禽や乳製品に関しては、販売後に入手した利益は自分たちのために使うことができることが分かった。男女の役割分担や違いを認識したうえで、プロジェクト内でも男女のニーズに応じた活動を提供して行くことを参加者に伝えた。

ビジネスダイアログや市場調査といった活動に女性の参加を促したが、女性の参加はほとんどなかった。市場調査、ビジネスダイアログ、フィードバックワークショップでは、ビジネス関係者の多くが園芸作物に関するビジネスを行っていることもあり、女性が折角参加したとしても、彼女らの関与しない領域であるがために十分な参加意義を伝えられなかったと思われる。

いずれにせよ、女性が参加しやすい環境を作るためには、男女を分けてワークショップを行うことが必要と考えられた。また、家事が忙しくなる曜日を避けたり、女性が参加しやすい平日の早めの時間（9時半から11時半）にワークショップを設定したりする、といった工夫が必要であった。

2015年3月に運営指導調査が実施された際、女性の活動巻き込みに関する協議も行い、第2サイクル以降のジェンダー主流化活動は、下記の方針で進めることとした。

- 当初農家の選定では、女性枠を設け、参加女性＝対象農家の妻、といった限定にならないようにする。
- 営農の概念を広く考え、農地での作物栽培のみならず、畜産や屋内栽培産品等、女性が主体的に関与できる経済活動も取り上げていく。

上記の方針の下、第2サイクル以降の活動を進めていった。まずは、各村での対象小規模農家向けの説明会において、ジェンダー主流化活動について説明を行うことから活動を開始した。説明会の前に、C/Pに対しジェンダー主流化活動に係るプレゼンテーションやW/SについてTOTを実施した。このTOTを受けたC/P（主に女性職員）が、説明会でプレゼンテーションを実施した。

ジェンダーW/Sは、参加型形式をとるため、男女の参加者からバランス良く意見を引き出す必要がある。声の大きい男性の中で女性参加者の声を引き出すことは、普段大きな声で発言することの少ない女性職員にとって容易なことではない。しかしながら、説明会の後半では上手に女性参加者の声を拾い上げながら進めていくことができるようになり、女性職員たちの積極的な姿勢を見ることができた。

この説明会后に、女性だけを別に集め、彼女らが今後どのようなことに取り組んでみたいかを話し合うための会議を開催した。この会議では、参加女性の年齢、職業等の基礎データを収集するとともに、参加女性が行っている収入源となりうる活動の内容や、各村・家庭の社会的な環境に応じた女性の活動可能範囲（村の市場に男性の許可なく行けるか等）を確認するとともに、参加女性が収益を上げるうえで、やりやすい、収益性が高いと考えている等、総合的に考えて彼女たちが最も興味がある活動を挙げてもらった。多くの女性が家畜の世話について役割を持っていることから、乳製品の製造販売、養鶏、養羊、兎飼育といったアイデアが出された。

(2) 女性用のビジネスダイアローグ

第2サイクルにおいては、女性対象のビジネスダイアローグを実施した。2015年11月から12月に、アシュート県及びミニア県で実施し、各々68名（4村）及び28名（2村）の農村女性が参加した。ビジネス関係者側は、世帯内において主に女性が関わっている活動である、畜産や乳製品に関係する市場関係者が多く参加した。さらに、女性活動に対して資金等のサポートやビジネスアイデアを提供している機関（政府機関であるSocial Fund for Development（SFD）及び地方開発省の県出先）の関係者も参加した。女性農家の活動を支援できる人材として、多数の小規模農村開発プロジェクトを実施した経験のある大学講師も参加した。

各村の代表者から村の特徴について発表し、次いで参加した市場関係者からビジネスの内容が説明された。その後、市場関係者と女性との対話が行なわれた。各テーブル8～15名程度のグループに分かれ、そこに市場関係者が訪れて話をするという方法で実施した。この対話では、女性が自分達の生活圏の中で実施可能であるビジネスについての話がなされたが、特にウサギ飼育、キノコ栽培、SFD等からのお金の借り方について、多くの興味寄せられていた。結果的には、実際に融資を受ける女性の事例が出るまでには至らなかった。

(3) 女性による市場調査

対象女性の市場調査を実施するにあたり、プロジェクトチームはアシュート市の朝市に出かけて、市場で何かヒントになるものはないか調査を行った。市場では、家禽など家で育てた小動物をそのまま販売する女性が多くみられたほか、チーズ等の乳製品を販売する女性も多くみられた。さらに乾燥野菜やカット野菜等、少し加工を施した商品が売買されている様子も見られた。カット野菜は、販売者は男性であったが、家で母親がカット野菜を作っていた。こういった情報を女性達との会議で共有、市場調査の実施方法についても対象女性達と討議した。

各村での会議においては、参加女性の多くが現在行っている活動として、ハト、ウサギ、ニワトリなどの飼育、少数だがウシやヤギの飼育と乳製品の製造を挙げた。実際、モロヘイヤ、青刈小麦、ドイツの乾燥などの作物の簡単な加工を女性が担っており、余剰を販売することも少なからずあるものの、女性にとっては日常的に行っているそうした作物の加工作業は、収益の観点からみると魅力的でない、とのことであった。一般的に、そうした加工は自家消費用にどの家庭でも行っており、市場性がないと認識されていた。

参加者女性の多く、特に家畜飼育の経験が既にある女性達の目的は自家消費を確保することであり、その余剰分を販売に回している。現在よりも、現金収入を増やすにはどうしたら良いか、という問いに対し、多くの答えが「良い品種（大きくなる品種）の家畜の導入」「家畜の健康管理の改善」であり、参加女性達が望むところが、大きな投資をせずに余剰分を伸ばしたい、というところであることがうかがえた。

余剰分の販売、また個人が家庭でできる規模であるため、販売可能量は限られる。そのため、多くの女性は村の市場やトレーダーが現在の販売先であるし、プロジェクトで新たに何等か導入したとしても見据える市場は、変わらずそうした村の市場やトレーダーである場合が多い。また、村によっては、女性の多くは自ら市場に売りに行く人も多く、外出に男性の許可や同行を伴わないため、各村の市場については熟知していると主張する女性もあった。一方で、県都から遠く日常的に訪れる機会が無い対象村に対し、村と県都の市場を比べてより良い売り方や商品など、新たな視点を獲得する機会を考慮し、多くの村は県都での市場調査を実施することとなった。

このように、対象村の状況に応じて村内市場、県都市場を対象に市場調査を行った。市場調査の際には、家畜飼育に限らず、消費者目線での販売方法の工夫など、付加価値づけによる「より高く売る工夫」の事例を参照しながら調査に臨んだ。村内、県都の市場、いずれの市場調査においても販売されている商品の種類は大きく変わらないものの、販売の仕方や、販売されている商品の質やそれに伴う価格差、期待される販売量などを聞き取り・観察することによって、参加女性達により収益性を高めるための具体的なアイデアを考えてもらうことを意図し市場調査、およびその結果を議論する時間を設けた。



<市場では、乳製品やカット野菜、乾燥野菜等、付加価値を加えて販売している人々の様子をPPTで紹介し、こういった付加価値づけの観点に注意して市場を観察・聞き取りするよう女性達に事前に説明を行った。(写真はアシュート市内の朝市)>

議論の中では、まず市場調査において取り組みそうだと考える活動を挙げてもらった。そして、それぞれの活動に対し、村内市場と売り方や商品で異なる点（県都を対象とした場合）、およびそれらを踏まえて各活動を実際に行う場合に想定される有利な面、考慮すべきリスクなどの不利な側面双方を市場調査で見た価格や販売の様子から具体的に挙げてもらった。多くの村の女性は結果的に家畜飼育が最も魅力的との意見に終始する傾向にあった。

(4) 女性生計向上活動の計画と実践

女性農家向けビジネスダイアログや市場調査実施後、各村において具体的な活動を決定するW/Sを開催し、対象女性が取り組みたい活動から技術支援を行う活動を絞り込んだ。第2サイクルでは、C/Pや農協職員と対象女性農家との関係を密にするため、活動別にグループを作り、さらにグループ内でグループ長とサブグループ長を決定した。後述のように、グループ活動の持続は困難であったため、第3サイクルからは活動は個別に行うこととして、対象農家が定期的に集まって情報交換するという緩やかなグループの方式に転換していった。

表 2.1.1 対象女性の支援活動の変遷

| サイクル | 活動方針 | プロジェクトからの支援 |
|----------|---|---|
| 第2サイクル | 対象活動毎に女性をグループ化して技術支援、モデルユニットを作り共同管理、モニタリングを実施 | グループ毎に活動のモデルユニット（園芸作のデモ圃のような位置づけ）を供与し、グループで管理してもらう。 |
| 第3サイクル | 活動は個別活動とし、定期的に対象女性が集まって情報共有を行う緩やかなグループ活動方式に転換 | 個別女性の初期投資（家禽の購入）に対し、資金を一部補助（コストシェアリング） |
| 第3サイクル以降 | 第3サイクルの方針を継続 | 資金的支援は、一切行わず技術支援のみに特化 |

第2サイクルでは、選定された活動（キノコ栽培、ウサギ飼育、ニワトリ飼育およびハト飼育）について、まず講義形式の研修を実施した。この研修はTOTの一環として行ったが、女性普及員は少数であることもあり、普及員だけではなく各村の対象女性も集めての講義とした。このことにより対象女性も直接講義を聞く機会を得ることができ効果的であった。村の女性はこのような研修に参加する機会も乏しいので講義への参加は有意義であったようである。

研修実施後、対象村を訪問し、家畜飼育やキノコ栽培を実施するためのモデルユニット作りの場所の確認作業を行った。家畜飼育場所やキノコの栽培場所は、参加女性の居住する家の部屋や屋上などであり、この場所を提供した女性はそのグループのリーダーとして、ほかのメンバーに集合をかけ情報共有を行う中心となった。またアシスタントと呼ばれる数人の女性たちがリーダーをサポートするという仕組みを作った。モデルユニットを作るための資材をプロジェクトが提供し、具体的な活動の実施に入った。

女性活動はその特性からすべて屋内で行なう活動である。そのため、基本的には他の人の目に付きにくい活動となっている。プロジェクトは、女性達の学びの場としてのモデルを提供する、という位置づけで資材の提供を行ったが、モデルとしての機能を発揮するための阻害状況も観察された。

家畜を扱うことから、あまり多くの人々がモデルを見に押し掛けると感染症の発生が懸念されるという技術的な点から、見学者を制限せざるを得ない面はある（獣医の助言による）。しかし、それ以上に対象女性グループが他者からの嫉妬を買うことを恐れて見学に消極的になっている面が見受けられた。モデルという「学びの場」という説明は、一部の女性が無償で資材供与を受けた、という意味合いと混同され、村人にプロジェクトが意図した意味の理解を得るのは容易ではない

ことが認識された。また、モデルからの収入をシードとして、他の女性に活動従事のための初期投入を配分していくことも計画したが、この点は多くの村で上手くいった。

技術面では、ウサギは高温に弱くまたニワトリの雛は病気に脆弱であるため、これらの家禽の生存率は著しく低いものとなった。またキノコ栽培は、当初ビジネスダイアログに参加していた業者による買取が想定されていたが、この業者が撤退してしまった。農村部ではキノコの食習慣がほとんどなかったが、テレビプログラムで調理法を学び、購入する世帯が出てきてはいたもののキノコの需要は非常に限定的にならざるを得なかった。ハトは、繁殖が早くまた生存率も高く比較的安定した飼育が可能であることが判った。

第2サイクルにおいて上記のような生計向上活動のモデルユニットを導入し、対象女性をグループ化して管理に当たり展示効果も狙ったが、その効果は限定的であった事から、第3サイクルでは第2サイクルとは異なるアプローチにて実施する事の検討を継続した。2017年1月の中間レビューにおける議論を受け、女性活動は以下の方針で実施することとした。

- ビジネスを実践する意欲のある女性を絞り込み支援を行う：あまり活発でなく、普及員のパフォーマンスもあまりよくなかった村を除外し、次に対象女性への個別インタビューを行い、ビジネスへの志向、ISMAPアプローチへの理解、実践活動をしやすい環境にあるか（家族の理解が得られるか、家畜飼育のスペースがあるかなど）等を確認した。また、初期投資に対しては費用負担を求め、それが可能であるかも確認した。
- 活動の経済分析を強化して女性の意思決定支援に資する：市場調査後に対象女性が挙げている活動（ハト飼育、アヒル飼育、鶏飼育、ウサギ飼育、および羊飼育）について、獣医や専門家、市場、また実際にこういったビジネスを実践している村の女性から聞き取り調査を実施し、プロジェクトチーム内でまず経済分析を行い、それをもとに対象女性達と経済分析（ビジネスプラン）WSを実施して、経済性をより明確化して活動の選択を行った。この際、第2サイクルの経験から、専門農家ではなく一般の村の女性が携わる場合家畜の死亡率が高くなることを考慮して収益性を検討した。分析の結果、羊の収益性が悪いこととアヒルやハトの収益性が良いことが認識され、当初は羊をやりたいと主張していた女性も、分析後には意見を変えていた。
- 初期投資へのコストシェアリングを行う：事業へのオーナーシップ醸成のため、対象女性から初期費用の負担を求めることとなり、飼育家禽に応じて配布する家禽購入費の25%~50%の負担とした。ビジネスプランWSによって、各村での対象活動が決定した後、対象女性との初期費用負担の合意、対象女性の肥育場所の確認および家畜の配布を実施した（後述の第4サイクルで、コストシェアリングも廃止した）。
- 個別に活動する女性が集まり月例モニタリングを行う：活動は個別で行い定例会を開いて情報共有するというゆるやかなグループ化に転換した。参加者全員が共通の内容で普段の活動記録をノートに記録してもらえようフォーマットを作成し、これに基づいて月例会議で一人ずつ進捗報告してもらうようにアレンジした。ノートへの記録状況は村毎でまちまちであったが、記録をすることにより、利益を得たと喜んでいていた女性があらためて収支を計算すると思っていたよりも少なかったという“気づき”を得られたりした。

(5) 経験交流

第2サイクルでは、2016年8月に、プロジェクト活動が活発であった村にて、対象男女の経験交流会を行った。アシュート県では El Tetalia 村、ミニア県では Kom Matai 村を選定して本経験交流会を開催した。対象村ではプロジェクト開始時期から男女が別々の活動を実施してきたが、お

互いの進捗を報告しあうための男女情報交換会として経験交流の場とした。また、男女の役割分担が明確であることを配慮して、男性メンバーが妻など女性家族を、女性メンバーが夫など男性家族を招待し、活動内容がメンバーの家族にも共有されることを試みた。

会の前半は、女性各グループと男性各グループ（デモ圃場）がそれぞれ活動の報告を行った。午後は、デモ圃場や女性活動を行っている女性グループの訪問を行った。残念ながら、男性メンバーは、女性グループを訪問することを躊躇したため、女性メンバーがデモ圃場と他の女性グループを訪問することとなった。普段は家からほとんど離れることのない女性たちは、村の中にどのようなリソースがあるのかをあまり知らないことに気付かされた。

それぞれの県で男女経験交流会を実施し、改めて男性が女性の活動を訪問すること、女性が農地を見学することが難しいことだと感じられた。文化的な背景だけではなく、この会を開催する必要性がメンバーに感じられなかった面も考えられる。活動の実績を作りそれに意味があることだということを C/P、農協職員とともども実感することが、活動の意義を参加者によりよく伝えられる動力になると考えられた。

(6) ローカルジェンダー専門家によるジェンダー主流化セミナーの実施

中間レビューに基づき、エジプト人のジェンダー専門家を備上し、プロジェクト活動の強化を図った。ジェンダー専門家は、プロジェクト活動に参画するとともに、C/P 向けジェンダー研修（セミナー）も行った。2017年7月および8月に、各々アシュート県およびミニア県で当該研修を実施した。女性の生計向上活動支援を、ジェンダー主流化という背景をしっかりと認識しつつ進めてもらうように企画したものである。アシュート県出身の専門家がみずからの経験を交えて、エジプト社会において次第に女性の社会進出が進んでいること、性の違いによる思い込みなど、ジェンダー主流化の意義についてわかりやすく説明を行った。この講義では、ジェンダーという概念が、女性だけを対象としたものではなく、男性と女性の両方を対象とすることで、夫婦や家族など相互に発展していけること、そして女性だけのエンパワメントは難しいことが重点的に語られた。現地専門家ならではの当地の文化に適した講義であった。

2.2 成果2に係る活動

2.2.1 開発・検証が必要な技術の把握、開発・検証、研修の実施、既存技術の改善

プロジェクトの成果2である、「付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される」に関する活動は、以下の手順で進めた。

表 2.2.1 成果2に関する活動の手順

| 成果2に関する活動 | 実施内容 |
|----------------|--|
| 開発・検証が必要な技術の把握 | 農業研究所（ARC）等の研究状況の調査、IMAPで検証された技術の確認、他のプロジェクト等で開発された技術の調査 |
| 技術の開発・検証 | 市場調査等を行ったうえで農家が選定した作物に応じて、必要な技術について確認し、TOTのプログラムに反映させた。 |
| 必要とされた既存技術の改善 | モニタリングを進めて、改善案を検討する。 |

専門家により調査したところでは、MALR 配下の農業研究所（ARC）は、多岐にわたる研究部門を擁しており、各研究員が様々な試験研究を行っている。このことから、農家ニーズに応じて、引き出しから対応技術を取り出すように、ARC内で開発されている技術を、農家のニーズに応じて導入する進め方が効率的であると考えられ、まずは農家の市場ニーズに基づいた作物の選択を基礎に必要な技術を明確化するものとした。

市場調査とビジネスダイアログを通じ、対象農家が栽培を希望する作物に関して郡や村の普

及員、農協職員、および篤農家に対して TOT を実施し、適切な栽培技術の普及を行なった。さらに、TOT で学んだ技術を実践する目的でデモ圃場の設置も実施した。デモ圃場を設置するにあたり、この圃場では①農業普及局や農業研究所が推奨する栽培方法の実践、②新しい栽培技術の導入、③新しい品種の導入を計画し、慣行栽培とは異なる栽培方法の実践、検証を目的とした。

①農業普及局や農業研究所が推奨する栽培方法の実践として、TOT では各作物の栽培全般を取り上げる講義を中心とした。例えば、通常、農家は生産量を多くするために必要以上の化学肥料（特に窒素肥料）を施用する事や農薬を散布する事が知られている。そのため、デモ圃場では各作物に適切な管理を行なう事で、収量を増やすのみならず、過剰な肥料や農薬の使用を禁止し生産費を削減する事も計画した。

②新しい栽培技術の導入では、IMAP でも実施したメイズとトマト等の野菜の混作技術の導入を行った。TOT においてメイズと他の作物の混作技術を講義内容として取り上げ、小規模農家の園芸作導入のための技術として紹介した。混作技術は、対象作物を被陰する作物を混作する事により、高温障害を防ぐ事が目的である。対象作物であるトマトやキュウリの圃場において、草丈が高くなるヒマワリやトウモロコシの混作を行なった。

③新しい品種の導入はトマト、キュウリ、メロンのデモ圃場にて行なった。エジプトにはアメリカやヨーロッパの種苗会社で生産された種子を委託販売する企業が数多くあり、新しい品種が次々と導入されている。そのため、農家からも新品種を使ってみたいという要望が多く、デモ圃場では農業研究所が推奨する品種に加え、近年販売が開始された新しい品種も導入する事とした。これらの品種はすべてハイブリッド種であり、高収性や耐熱性、耐病性などを備えている。

一方で、堆肥作成といったような、作物栽培全般に関わる技術については、ISMAP の前身である IMAP での検証技術を手持ち技術とし、更に他のプロジェクトで開発された技術についても確認を行った。エジプトでは、SATREPS のスキームで、筑波大学を中心としたグループが、カイロ大学および ARC をカウンターパートに「ナイルデルタ等の水利用・農業生産の効率化、小農の所得向上支援」（通称 WAT プロジェクト）を実施しており、このプロジェクトで開発された技術で、本プロジェクトで活用可能なものの適用を検討した。

WAT プロジェクトからは、大豆などの作物残渣や牧草の簡易サイレージ等による家畜栄養改善技術を、当該研究員をビジネスダイアログに招いて対象小規模農家に紹介した。この技術では、家畜の栄養バランスが改善され搾乳量が増加することが可能となり、ミルクやミルク加工品販売の増による農家の所得向上が期待できる技術であった。ビジネスダイアログにおいても農家から高い関心がはらわれたことから、TOT においても紹介技術として取り上げ、普及員に対し、当該研究員より講義を行った。

2.2.2 技術マニュアルのとりまとめ

このように、技術支援対象作物の選定、ARC や大学を中心とする研究者により蓄積されている既存技術や新品種導入などの栽培技術の研修実施（TOT やデモ圃での実地研修）、これら研修に使われた講義テキストをとりまとめて栽培技術のマニュアル・ガイドラインを作成、普及員・農家に配布、という手順で活動を行った。TOT 等で用いたこれらマニュアル・ガイドラインを最終的に取りまとめて ISMAP 栽培技術マニュアルを作成した。また、代表的な作物については、本邦研修において日本の普及教材から学んだ 1 枚で必要な情報を整理する栽培ポスターも作成し、現場普及員には好評を博している。

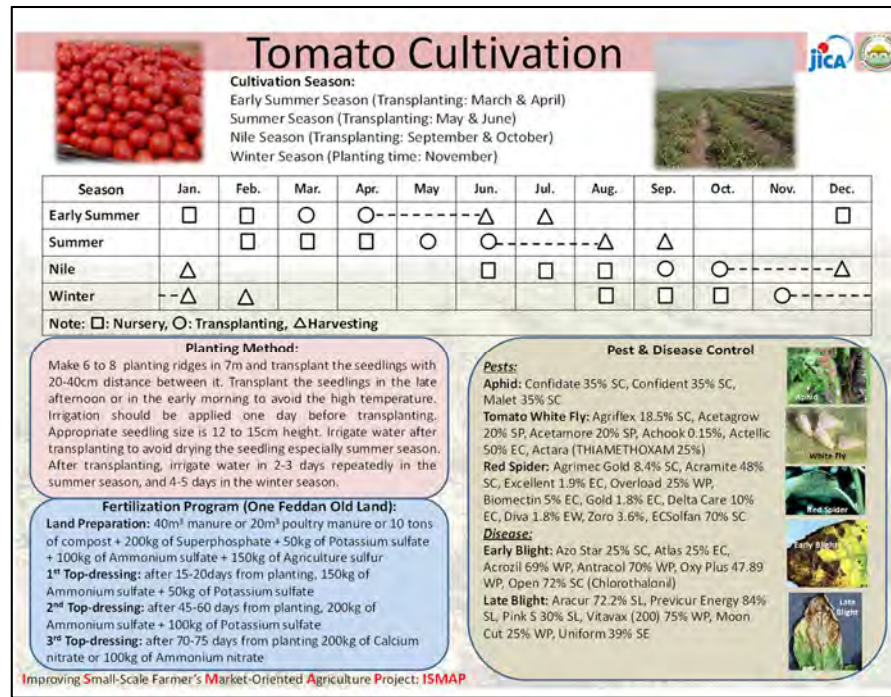


図 2.2.1 プロジェクトで作成した栽培ポスターの例

2.3 成果 3 に係る活動

2.3.1 農協の強み・弱みの把握

農協は主に、普及員から構成される”Agricultural Unit”と農業資材等の販売を行っている”Cooperation Unit”、そして農家の代表メンバーである理事会から構成されている。農業普及員を含む”Agricultural Unit”はおおよそ 2 名～14 名、”Cooperation Unit”は 2 名～4 名、理事会は 5 名～11 名で構成されていることが多い。”Agricultural Unit”と”Cooperation Unit”の職員は、政府から給与が支払われており、理事会メンバーは無給が基本となっている。

農業普及員が主である”Agricultural Unit”の主な活動は、県農業事務所で行われる研修への出席やデモ圃場の管理である。これらの研修やデモ圃場の多くは、伝統作物である小麦やメイズを中心に行われている。また、農地の管理や年に 2 回、農家の栽培作物と栽培面積の登録作業も行っている（これが農業統計の基礎データとなる）。一方で”Cooperation Unit”は、主にメイズ及び小麦の種子の販売、肥料の販売を担当している。これらの種子及び肥料は、政府の補助金により市場価格より安価で農家に提供されている。

農家の代表である農協の理事メンバーは 5 年ごとの選挙によって選出されている。通常、理事会は月に 1 回開催されており、農協の財務状況、肥料不足等の問題や農家同士の問題等に関する協議が行われている。理事会の最も大きな役割は、農協の支出等の承認である。農協職員によれば、農協活動に必要な費用は全て理事メンバーの承認が必要となるため、しばしば農協職員と理事メンバーとの対立の原因になるという。また、理事会のメンバーは高齢者が多く、村の名誉職という意味合いも強いため、理事メンバーの年長者が大きな影響力を持っている。

多くの農協は官製農協として、伝統作物を中心とした農家への最低限の農業サービスの提供にとどまっている。さらに、これらの活動は十数名の農協職員及び普及員が場合によっては数千人規模の農家を対象に行われている。言い換えれば、多くの対象農協は、農民組織というよりも、村役場のような機能を担っている行政組織として位置付けられる。実際、農村の寡婦に対する現金支給サービスを政府が実施した際も、農協がその実施場所となっていたケースも多い。

本プロジェクトでは、対象農協の強み・弱みを把握し、農協による小規模農家の所得向上に向けた活動計画策定・実施に係る研修が想定されていた。対象農協の強み・弱みの把握にあたっては、各農協で SWOT 分析を実施し、SWOT 分析の結果に基づき、農協の活動計画策定・実施の支援を行った。

SWOT 分析については、対象農協の役員、普及員、郡職員を対象にワークショップを開催し、特に各対象農協が考える強み・弱みについて明らかにした。本プロジェクト開始直後に実施したワークプラン作成 W/S にて、C/P を対象に SWOT を実施しているため、農協における SWOT 分析については、カウンターパート職員が中心となって SWOT 分析のファシリテーションを実施する“On the job”方式の研修とした。

各対象農協における SWOT 分析ワークショップは、第 1 サイクルから第 3 サイクルの各々の活動後半に各農協で 1 日のワークショップを開催した。ワークショップには、主に農協職員、普及員及び組合理事が出席した。

SWOT 分析ワークショップにて明らかになった農協の持つ主な強みは各農協によって若干の違いはあるものの、大きく“定期的な収入源を持っている”、“多額の資金を有している”、“倉庫等の施設を有している”、“立地場所が良い”といった点に集約できる。また、農協と農家が緊密に連携しており良好な関係を持っていることも農協の強みとして認識された。一方で、弱みについては、“普及員等スタッフの数が限られている”、“農協職員・農協役員が高齢の人しかいない”、“普及活動をするための交通手段を持っていない”が多くの農協が抱える共通の弱みになっている。但し、一部の農協では、普及員等の十分な数を強みに上げている。また、多くの農協に共通する弱みとして、農家へのマーケティング支援ができていない点が認識されている。

表 2.3.1 対象農協との W/S で出された農協の強みと弱み

| 項目 | 強み | 弱み |
|-------|--|--|
| 農協の資産 | <ul style="list-style-type: none"> 豊富な資金 倉庫を保有 農協の建物が大きい。 農業機械を保有 村内の農家情報が利用可能 | <ul style="list-style-type: none"> 農協が自身の建物を有していない 農業機械の不足 農協の活動予算が十分でない 農家への融資が不足 農業技術指導を行う際の交通手段がない 農協が多額の負債を抱えている |
| 農協の人材 | <ul style="list-style-type: none"> 十分な数の普及員及び農協スタッフ 経験豊富な普及員と農協職員 農協理事が活発 農家との良好な関係 農協の組合員数が多い | <ul style="list-style-type: none"> 普及員の技術が十分でない 普及員・農協職員の数が不足 農協職員・普及員・農協理事が高齢者ばかり 農協理事が活発ではない |
| 農協の活動 | <ul style="list-style-type: none"> 農家への融資を実施 種子および肥料の販売を実施 建物を所有して貸貸料、パン屋の営業といった定期的な収入源を持っている 家畜用飼料の販売を行っている | <ul style="list-style-type: none"> 最新の品種の種子が手に入らない デモ圃場が少ない 農業研究所とのコネクションがない マーケティングサポートが不十分 共同出荷が出来ていない 伝統作物以外の園芸作物等に関する経験不足 農協の予算を自由に活用することができていない 政府による農協支援が行われていない 政府による園芸作物資材への支援が限られている |
| 農村環境 | <ul style="list-style-type: none"> 農協の立地条件が良い 伝統作物以外の栽培経験が豊富。 総耕作面積が大きい | <ul style="list-style-type: none"> 適切な輪作が実施されていない 小規模農家が多い 耕作面積が広く、農協がカバーしきれっていない 農家が伝統作物しか栽培していない |

2.3.2 農協の活動計画の策定・実施に向けた研修実施

各農協では、SWOT 分析結果に基づき、適宜活動計画の作成を進めた。農協の活動計画は大きく3つの項目に集約できる。すなわち「農業資材販売の強化（園芸作物）」、「契約栽培の促進」そして「集荷場の運営」である。各農協の持つ強みと弱みと農協自身のやる気によってこれら3つの項目をベースにした活動計画を作成した。

「農業資材の販売強化（園芸作物）」については、戦略作物に関する肥料や種子販売を実施していること、立地場所が良く倉庫等の施設も有していること、といった強みを活かし、デモ圃場で実施する作物を対象に、農協が種子販売することを計画した。「契約栽培の促進」については、組合員数が多い農協や村の農地面積が大きいという強みを持つ農協にとっては、契約栽培が選択肢の1つに成り得る。そして、「集荷場の運営」については、農協の実施能力とやる気に大きく左右される活動だといえた。資産を有する一部の農協がこうした活動に興味を示した。

表 2.3.2 対象農協の活動計画

| 活動領域 | 活動内容 |
|-----------|--|
| 農業資材販売の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 資材販売の対象作物の決定 販売計画の策定 販促活動の実施 |
| 契約栽培の促進 | <ul style="list-style-type: none"> 企業リストのアップデート・配布 作物別農家リストの作成 企業へのコンタクト・売り込み |
| 集荷場の運営 | <ul style="list-style-type: none"> 対象作物・参加トレーダーの決定 集荷場トライアル実施 市場調査票の農家への配布 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> カイロの卸売市場での市場調査実施 TOT 講師の名前と連絡先一覧を作成、農家へ配布 |

2.3.3 農協の活動計画強化のフォローアップ

各対象農協の活動計画策定後のフォローアップを、計画策定後1年後を目途に行った。農協のフォローアップは、農協職員及び組合理事を対象とし、ワークショップにて実施した。W/Sでは、普及フローによる活動サイクルを終了後、農協が行ってきた活動を確認し、普及フローを展開するにあたって、農協がどのような活動を実施できるかについて議論を行った。

普及フローサイクルの終了後、多くの農協がビジネスダイアログに参加した企業にコンタクトを取っていたことが分かった。Manshet El Maghlka 村(Mallawe 郡)を除いて、コンタクトしたものの企業との取引には至らず、農協からは企業に真剣に取り合ってもらえなかったとの声も聞かれたが、多くの農協は引き続き企業へのコンタクトを継続する意向を見せていた。また、デモ圃場の活動は、農協がデモ圃場の結果を農家に共有することで園芸作物の栽培技術のみならず、その収益性を共有することで、市場志向型農業の有益性を広めるきっかけとなっていた。

2018年9月に、第1から第3サイクルまでの全対象農協関係者を集めたフォローアップワークショップを開催した。当該W/Sの目的は、1) これまでのISMAPの活動を振り返り、普及フローの再確認を行い、2) 各農協が立てた活動計画の進捗状況を自己評価し、3) 村内で今後ISMAPアプローチを普及していくための普及計画を策定することであった。当該W/Sには、各村から農協職員（普及員を含む）、理事メンバー、プロジェクトで形成したマーケティング協議会メンバーが出席した。

W/Sでは、最初にプロジェクトの広報ビデオを上映し、その後ISMAP普及フローを再度説明した。ISMAP普及フローの確認後は、各農協グループに分かれ、グループワークとしてそれぞれの

活動計画について、達成度合いを確認するレビューを行った。グループワークの最後には、農協の普及計画について、農協職員や理事メンバー/マーケティング協議会メンバーの役割を確認し、年間の普及ターゲット農家数の設定を行った。

各農協の活動計画のレビューについては、農協ごとに活動計画を記載したフォーマットを準備し、活動計画ごとに実際に行った活動を記入し、参加者自身の自己評価にて5段階で達成度合いの評価を行う参加型評価方式とした。①の0%については、何も活動を行わなかった場合で、活動計画そのものを取りやめていた場合は、評価の対象外とした。②25%については、アクションを起こしていたものの、計画の達成には程遠い場合、③50%は計画の半分程度は達成できた場合、④75%は概ね達成できた場合、⑤100%は達成できた場合とした。また、活動計画ごとの自己評価結果には、なぜそのような評価結果としたのかの理由も記載する方式とした。農協活動のレビューでは、多くの農協がビジネスダイアログや市場調査を通じて知ることができた企業等に実際にコンタクトを試みていた。また、実際に新たな販路を開拓できた農協も確認することができた。農協の自己評価は、平均70%の達成率であった。

表 2.3.3 農協活動計画のレビュー結果（例：Sanabo 村）

| Item | Action you took | Evaluation | Reason for Evaluation |
|--|---|---------------------------|--|
| Contact agri-business companies and support farmers marketing activity | we contacted with some companies like: Frozina and Bashayer company | Somehow complete (50%) | There aren't enough amount of production to cover all companies' needs . |
| Provide technical training to farmers | Provided technical training on the demo-farms | Complete (100%) | We already made a lot of seminars to the farmers the demo-farm |
| Plan for food processing activities | we implemented some of this item like: pickle the lemon and cheese | Little bit complete (25%) | lack of the budget and marketing outlets |
| Conduct training for poultry | we provided training about the poultry raising | Almost Complete (75%) | Farmers are still afraid bird flu disease. |

また、当該 W/S の最後には、村内の普及計画の策定を行った。普及計画は、普及フローの活動に沿って、農協が実施可能な活動を取り上げ、これらの活動ごとに農協職員と理事メンバー及びマーケティング協議会メンバーである農家の役割を明記する形となっている。普及計画については、各村共通のものとし、農協ごとに必要があれば、活動の追加、もしくは普及計画の修正を行った。普及計画の策定においては、各村で年間の対象とするターゲット農家数の設定も行い、どのくらいの期間をかけて当該普及計画を実施していくかについての議論も行った。多くの農協が、200～300 農家程度をターゲットとし、3～5 年程度の普及計画とした。

表 2.3.4 農協の普及計画

| Extension Flow | Coop. Activities | Role of Coop. Staff | Role of Marketing Committee/ Board Members | Month |
|----------------------|---|--|---|-------|
| Selection of Farmers | Information sharing about ISMAP approach by manuals, poster and leaflet | Explain the steps of ISMAP approach at a cooperative office | Support cooperative staff to explain Extension flow | 7 |
| Business Dialogue | Provide a list of traders and companies | Prepare a list and provide to farmers | Encourage farmers to contact companies and traders | 8 |
| Market Survey | Share the market survey format | Provide the market survey format to farmers | Help farmers how to use the survey format | 8 |
| Training of Trainers | Share the information about TOT lecturers and training materials | Provide contact information about TOT lectures and share the TOT materials | Encourage farmers to get information and contact to the lecturers | 9 |
| On-field Activity | Provide information about Demo-farmers | Share the name of demo-farmers | Encourage demo-farmers to share their experience with other farmers | 9 |

2.4 成果4に係る活動と中間レビューでの提言を受けての活動変更

2.4.1 中間レビューの実施と提言・活動の変更

2017年1月7日から1月27日にかけて、中間レビュー調査が実施された。プロジェクトチームは、事前に関係資料を整理し、また中間レビューミッションに現場同行し各種会議に参加した。中間レビューは、プロジェクトの進捗状況や目標達成状況の確認、評価5項目による評価、そして今後の取り組み改善への提言等を目的として実施された。当該中間レビューは、日本側の評価者とエジプト側の評価者の合同チームによって、C/Pへのインタビュー、ミニア県及びアシュート県での現場視察、農家へのインタビュー等を通じて行われ、2017年1月26日に開催された第5回JSC (Joint Steering Committee)会議に於いて、プロジェクト関係者への中間レビュー結果の共有が行われた。

中間レビューでは、プロジェクトの投入状況、成果の達成状況の確認、関係者へのインタビュー等を通じたプロジェクトの実施状況が確認された。一連のレビュー調査の結果は、「妥当性」、「有効性」、「効率性」、「インパクト」、「持続性」の5項目に沿ってまとめられ、残りのプロジェクト実施期間における改善すべき点等について提言がなされた。プロジェクトの「妥当性」は高いと判断された一方で、MALRによるプロジェクトの予算確保が困難であったため「持続性」はやや低いとの結果となった。

中間レビューチームからは、一連のレビュー調査及び上記の中間レビュー結果に基づき、残りのプロジェクト期間で、よりよい活動を実施していくための提言がなされた。これらの提言は、プロジェクトチーム、エジプト側、日本側、それぞれに向けてなされた。また、提言に伴いPDMの変更が提案された。PDMの変更点は下表のとおりである。

表 2.4.1 中間レビュー後におけるPDMの変更点

| 従前 | 変更 | 変更理由 |
|---|----------------------------|---|
| なし | 成果1: 女性活動に対する指標の追加 | 活動実態に即すよう指標を追加 |
| なし | 成果1: 周辺農家に対する指標の追加 | 活動実態に即すよう指標を追加 |
| なし | 成果1: 農家の行動変容に係る指標追加 | 所得増以外での効果を測る指標を追加 |
| 4-3 郡普及員が郡内の対象農協以外の農協に対して市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。 4-4 郡普及員による4-3の計画実施をモニタリングする。 | 成果4: 活動4-3 および4-4の削除と指標の削除 | 他村に広げていく活動が含まれていたが、既存対象村で集中的に活動し、成功事例を作っていく方針に変更となったため、活動を他村に広げていく内容は削除された。 |

大きな変更は、成果4にかかる活動であり、当初は第3サイクル終了後、各郡を中心に他の村へ普及活動を広げていく計画であったが、この計画は変更されることとなった。すなわち、より明確に成果を得られるよう、これまでに活動を実施してきた村から活発な村を選定し、更に普及活動を重ねることによって成功事例を作っていくこと、そのことによりMALR中央にもアピールして予算の確保に資するようにすること、という方針を取るようになった。

2.4.2 中間レビューの提言の実施 (第4サイクルの実施)

中間レビューの提言をプロジェクトチーム全体で共有し、今後の提言盛り込みと活動計画を協議して、プロジェクト活動改善を進めた。2018年11月に実施された終了時評価までに実施した中間レビュー提言の活動盛り込みを、下表に整理する。また、提言を受けてのPDM変更、それに伴い実施した活動の概要を2.4.3に整理する。

表 2.4.2 中間レビュー提言の実施状況 (2018 年 11 月)

| 提言内容 | 実施状況 |
|---|---|
| <p>(1. 今後のプロジェクト計画について)</p> <p>1.1 より多くの成功事例を生み出すために、これまで活動を実施した対象村から、比較的活発な対象村に焦点をあてて、集中的なフォローアップを実施すべきである。</p> | アシュート、ミニア各県から 3 村を既存対象村より選定し、第 4 サイクル活動を行っている。 |
| 1.2 デモ圃場の効果を最大限に引き出すために、より多くのデモ圃場を設置すべきである。また、看板が撤去されないよう固定を強化すべきである。 | デモ圃設置増に努めているが、デモ圃管理受け入れ者や設置場所が限られたりして、デモ圃数は顕著には増えていないが、デモ圃でのフィールド研修数を増やしている。また、看板の固定強化を行い、常時看板をデモ圃に掲示するようにした。 |
| 1.3 女性活動の実施プロセスの見直しを行い、女性が市場志向型活動をうまく実施していくことができる要因の分析が必要。 | 第 4 サイクルにおいて、活動初期にビジネスプラン作成研修を実施し、市場志向意識の醸成に努めた。また、対象女性は個別に活動を行うが、定例会を開いて対象女性が参集し、お互いが啓発できる場を設けている。 |
| 1.4 女性活動についても、優良モデル作りにむけて、これまでの活動から対象女性・対象地域を絞り込み、集中的なフォローアップを行う。 | アシュート、ミニア各県で 2 村を選定し、第 4 サイクル活動を行っている。 |
| <p>(2. モニタリング体制の強化)</p> <p>2.1 県の C/P と日本人専門家は、農家が自身の営農活動についてモニタリングを行うフォーマットを作成し、W/S を通じてそれらの情報を収集する（農家レベルのモニタリング）。</p> | モニタリングシートを作成し、第 4 サイクル対象農家に対して、2017 年冬作作付時に最初の情報収集を行った。 |
| 2.2 MALR にテクニカルコミティーを設置し、プロジェクト活動のモニタリングを強化すべき。テクニカルコミティーは、プロジェクトマネジャー、カイロの C/P、県の C/P リーダー、日本人専門家等で構成される。テクニカルコミティーの最初の仕事として、カイロの農協部及び普及局と合同で、1 日ないし 2 日程度のワークショップを開催する（成果/プロジェクト目標レベルでのモニタリング）。 | テクニカルコミティーを設置し、2017 年 4 月 23 日に農協部と普及部の第 1 回合同 W/S を開催してプロジェクトの情報共有を行った。2017 年 6 月 7 日に本邦研修結果情報共有 W/S も実施した。更に、テクニカルコミティーの Task となる四半期モニタリングの 1 回目のモニタリングを 2017 年 8 月 28 日、29 日にアシュート県で行い、テクニカルコミティーによるデモ圃モニタリングを実施した。2018 年 11 月までに 3 回のモニタリングを実施した。 |
| 2.3 県の C/P と日本人専門家は、共通のモニタリングシートを用い、現場での活動について、毎月モニタリングを行いテクニカルコミティーに報告を行う（活動レベルのモニタリング）。 | モニタリングシートを作成し、2017 年 3 月より報告を開始、継続している。 |
| <p>(3. MALR 普及業務への ISMAP 成果への活用)</p> <p>3.1 既存の農業技術指導マニュアル・普及マニュアルをどのように改善・整理し、活用するかについて協議を行う。</p> | 活動を進めつつ適宜協議を行っている。 |
| 3.2 プロジェクト終了後も ISMAP の成果が活用されるべく、既存の普及活動に ISMAP の成果を組み込むことが必要。県、郡、村レベルにおける行政による通常の普及活動について、情報を整理し、どのように ISMAP の成果を活用できるか検討する。 | MALR の普及体制を確認し、普及部との協議を開始して、ISMAP 成果の活用方法について検討を開始している。 |
| 3.3 プロジェクトチームは、徐々にプロジェクトによる介入を軽減し、農家自身の自助努力を醸成していくことを検討する。 | 活動の中で徐々に進めている。 |
| <p>(4. 円滑なプロジェクト実施に向けて)</p> <p>4.1 県の C/P は、プロジェクト予算確保のため、計画省に対して必要経費の具体的な提示、農業土地開拓省への月々のモニタリングレポートの提出を行う。また、日本人専門家はこれらの活動を支援する。</p> | 2017 年 5 月に農協中央部からプロジェクトに係る予算書を MALR 経済局に提出したが、予算は承認されなかった。 |
| 4.2 プロジェクトチームは、PDM の指標について見直しを行う。具体的には、実現可能な上位目標の再検討、簡易に収集可能な情報に基づく農業所得向上を測る指標の再検討、農家の行動変容を測るための指標の設定、女性活動に関する指標の設定が必要である。 | 指標について見直しを行い、2017 年 7 月 19 日の第 6 回 JSC にて PDM-3 として整理、承認されている。 |

2.4.3 PDM 変更による活動 (第4サイクル)

(1) 園芸作振興

2017年5月より第4サイクルの活動を開始した。これまでにプロジェクトが対象とした村から成功事例を作るのによりポテンシャルがあると思われる村を C/P と協議して、各県園芸作対象3村、女性活動対象2村を選定した。このうち1村は園芸作と女性活動を重複させているので、実質各県4村に絞り込んでの第4サイクル対象村とした。

表 2.4.3 第4サイクルの対象村

| 県 | 郡 | 村 | 活動 | 既実施サイクル |
|-------|------------|---------------------|----------|---------|
| ミニア | Beni Mazar | Gendaya | 園芸作、女性活動 | 第3サイクル |
| | Matai | Kom Matai | 園芸作 | 第2サイクル |
| | El Minia | Tala | 女性活動 | 第3サイクル |
| | Mallawe | Manshet El Maghalka | 園芸作 | 第1サイクル |
| アシュート | Dayrut | Sanabo | 園芸作 | 第1サイクル |
| | El Kosya | Tetalia | 園芸作 | 第2サイクル |
| | Man Floom | Man Floom | 園芸作、女性活動 | 第3サイクル |
| | Sadfa | Bany Mor | 女性活動 | 第2サイクル |

選定に当たっては、対象村の村農協の職員に活発な人がいるか、農家が新しい事に取り組む意欲があるか、また園芸作の経験のある農家がある程度いるか、といった点について、これまでのプロジェクト活動を実施した経験から、C/P と協議して最終的に選定を行った。

第4サイクルでは以下のような工夫を行い、活動を進めると同時に、これまでの活動による農家へのインパクトを調査するため、農家の聞き取りを村へ出かけるたびに実施し、農家の声を拾い上げて成功事例の蓄積を図った。プロジェクトでは、こういった農家の声を集めたブックレットを作成した(添付資料 8-4)。

- 第4サイクルでは、市場調査参加農家をできるだけ多くすることを目的に、市場調査研修を各村2回実施した。これにより当初オリエンテーションに参加した農家の多くが市場調査に参加することができた。ミニアについては、農家の強い要望によりカイロの Obour 卸売市場での市場調査を実施した。ミニア県北部は、カイロに近く砂漠道路に連結するナイル架橋等アクセス道路も整備されており、Obour 卸売市場への直接販売も可能性がある。ミニア対象村の農家は、Obour 卸売市場で有名な卸売業者がいることを把握しており、それらの卸売業者も探索して関係作りを試みていた。
- プロジェクトチームでは、この営農計画 W/S の結果を基礎に技術研修 (TOT+デモ圃設置) のプログラムを作成する手順となるが、本対象村は2回目のサイクル実施であることから、農家から挙げられてきた作物が前回のサイクルと同じであったりする場合も多かった。このため、技術研修プログラム作成においては、以下の点を留意することとした。
 - 技術研修対象作物に対しては、新たな技術や品種を紹介するようにする。
 - 前サイクルと同じ作物のデモ圃設置は、農家からの強い要望がない限り避ける。
 - MALR 推奨作物や技術があれば1村1作物に限り紹介のためのデモ圃設置を検討する。
- このような条件の下に技術研修内容を検討し、年3作の作付体系導入、混作、少量多品目栽培技術、減農薬栽培技術等の研修を盛り込んだ TOT プログラムを計画した。今回の営農計画 W/S におけるもうひとつの課題は、この W/S が技術研修を受けたい作物を選定する参加型の意思決定のプロセスとして機能しており、参加農家の営農計画作成能力の向上という面では弱いということである。このことから、TOT にこれまでも入れていた農業経営の講義を長時

間とって演習付きで行い、能力向上に資するよう強化した。

- 更に農家の行動変容を確認するためのモニタリングシートの記入も農家をお願いした。作付前と言うことで、モニタリングシートのうちプロジェクト活動から何をどのように学んだかを確認する項目を記載してもらった。収穫後にモニタリングシート記載を対象農家に行ってもらい、PDM 指標の Farming Style の変化を確認していった。

(2) ジェンダー主流化活動

第 4 サイクルのジェンダー主流化活動対象村はこれまでの対象村から 4 村を選定した。選定された村は、ミニア県は Gendaya 村および Tala 村、アシュート県は Man Floot 村および Bany Mor 村である。これらの村あるいはこれらの村の管轄郡には女性の普及員がおり、女性活動の支援が行いやすい環境があった。また、Tala 村および Bany Mor 村は、各々ミニア市およびアシュート市近傍の村であり、比較的多様な市場ニーズが近傍に見込まれるという優位性があった。

第 4 サイクルでは、以下の工夫や留意を行いながら活動を進め、対象女性の声を拾うとともに成果の発現の収集も努めて行った。

- 第 4 サイクルでは、特にビジネスプラン研修に力を入れた。市場調査実施前にビジネスプラン作成研修を実施し、市場調査後に実際の個別のビジネスプラン作成を支援した。ビジネスプラン研修では、対象女性たちがビジネスを開始する前に、ビジネスの概念、計画の立て方（支出、収入の記録の大切さや、利益を計算する方法）を学んだ。この研修には、第 4 サイクルの対象者をはじめ、第 2・第 3 サイクルから現在に至るまで活動を継続している女性たちも招待して実施した。これまで販売をしたことのある女性も「感覚」や「記憶」に頼っている点が見られるため、研修ではコストの考え方や収支の計算を演習し、記録をとることの重要性を学んでもらった。
- 市場調査に当たっては、対象女性に市場調査内容を記入する簡易なフォームを配布した。このフォームは、市場調査情報記入欄に加え、ビジネスプランフォーム、ビジネス開始後の記録帳も加えて一冊の冊子にした。市場調査では、従来のある週市での調査の他、アシュートでは最近オープンした大型スーパーマーケットでの市場調査も実施した。このスーパーでの調査で、Bany Mor 村の女性は、多くのパン加工品が高値で販売されていることを見つけ、自分たちは同じ製品をもっと安い値段で製造・販売できると思いつき、後述のように実践するに至っている。市場調査中に家禽を扱うトレーダーから連絡先を得て、村周辺のトレーダー以外に家禽を販売する可能性を探る女性もいた。
- 市場調査に続いて、対象女性がビジネスプランを作成する支援を行うワークショップを開催した。ビジネスプラン作成支援 W/S では、まず参加者と市場調査の結果を再度レビューし、各々が選択した商品について、プロジェクトで用意したフォームに沿ってビジネスプランを作成した。費用の見積もりや期待販売価格等の想定は難しい面もあったようであるが、あらかじめ研修を実施していたので、比較的スムーズに計画作りは進行した。多くの女性が家禽飼育を選択する中、上記市場調査の経緯から Bany Mor 村の女性は製パンや乳製品等様々な加工品の生産・販売を選択した。
- ビジネスプランを作成した対象女性全員がビジネスの実践に入った。プロジェクト側は定期的なモニタリングを実施すると共に、技術研修による支援を行った。第 4 サイクルからは、初期投資に係る補助金支援は一切行わないこととした。プロジェクトで提供した技術研修は、家禽（アヒル、ハト）の座学研修と女性の家庭巡回による実践研修、またアシュート大学の協力により実施したパン加工研修等である。Bany Mor 村の女性は、パン加工研修で習得した

ピザなどの製品を販売商品に追加している。プロジェクトでは、ビジネス実践女性の収支状況をモニタリングした。

以下に、第4サイクルの対象女性のビジネス実践状況について、特筆すべきところを整理する。

- Bany Mor 村でヨーグルトの作成・販売計画を立てた女性は、村内の小売店を巡って商品を置かせてもらえないか交渉したが、全ての小売店から商品のライセンスがないと扱えないと断られた。この女性はビジネスプランの再考が必要となったが、販売するために店を巡り歩くという意欲的な取り組みを行っていた。一方、自家製パンの製造・販売を計画した女性達は、先のヨーグルト作成・販売計画の女性の教訓も得て、ライセンスなしでも販売してもらえ先を探索し、県農業事務所長に掛け合い、県農業事務所の敷地内で直売をすることを許可された。公的機関の役所で食品等を販売することは一般的に行われている。



写真（左）が活動開始日（2017年11月1日）。写真（右）は2018年1月28日。品数やパッキングが大幅改善

- こうやって始まった Bany Mor 村の女性たちのパン加工・販売は、顧客からの事前予約の取り付け、毎回の収支計算とコストや販売価格の見直し、Social Club や National Council of Women の協力による販売場所の拡大など、ビジネスを拡大させた。一時、材料費が高騰して活動を中断したり、女性間で販売する商品が競合して問題となったりと、様々な困難にも直面したが、自ら所得を得ることにより女性たちは自信を付け、また夫からも協力を得ることができている。こういった成功事例をプロジェクトはブックレットに取りまとめた。
- 家禽類の飼育を開始し始めた女性達の活動からは、死亡する家禽類の数が減少し、アヒルなども短期間で太らせることができるようになっていくことがわかった。多くの女性たちはプロジェクト以前も家禽類の飼育をしていたが、プロジェクトの技術研修や定期的な獣医のモニタリングによって改善すべき点を定期的に指摘され、それまでのやり方を変えることに繋がり、結果として家畜が健康に育つようになった。

2.5 出口戦略とプロジェクト終了後の実施体制の構築

上述のように、第1サイクルから第3サイクルにかけてミニアおよびアシュート県の全20郡（20村）で活動を実施し、その後中間レビュー提言を踏まえ、既対象村から活発な村を選定して更なる普及フロー活動（第4サイクル）を2018年の夏作期まで実施した。プロジェクト期間内の2018/19年の冬作期については、プロジェクト終了後の活動展開計画（県普及計画）の策定と実施体制の構築を念頭に、下記に示す活動を進めた。

1. 終了時評価からプロジェクト終了までの2018/19年冬作期について、プロジェクト終了後の暫定実施体制および県普及計画を試行・検証する期間と位置づけ、2018年2月からプロジ

ェクトチームで協議を重ね、2018年6月末までにこの暫定計画を作成した。

2. 暫定実施体制および県普及計画は、農業サービスフォローアップ局長、農協中央部長および農協普及中央部長の3名により文書に署名を行い、新たな村を各県3村ずつ選定して普及フローを実施し（第5サイクル）、暫定実施体制と県普及計画の検証を行った。

表 2.5.1 第5サイクル選定村

| 県 | 郡 | 村 |
|-------|-------------|---------------|
| ミニア | Beni Mazar | El Shake Atta |
| | Beni Mazar | Ebshak |
| | El Edwa | Safania |
| アシュート | Assiut | El Matya |
| | Sahel Selem | El Awna |
| | Abnoub | El Sawalim |

3. 2018年10月に暫定実施体制および県普及計画の実施状況を検証し、県普及計画の補正と実施体制の見直しを行った。暫定実施体制は、農協局と普及局の通常業務の中に入れ込む形で体制案を作成していたが、複数部署にまたがる実施体制の困難性から各部署から職員をアサイン（専任ではない）して実施ユニットを設置する方が、複数部署局関与の困難や予算確保の観点からも好ましいということとなり、ISMAP 実施ユニットを設置して県普及計画を実施していく案が考案された。この実施ユニット設置案は、2018年11月に農業土地開拓大臣に承認され、中央およびミニア、アシュートの各県農業事務所にユニットが設置され、本プロジェクト終了後の活動を継続していくこととなった。

暫定実施体制の策定に当たっては、最初に農協中央部や農業普及中央部にどのような部署があり、職員が何名程度配置されているのかを明らかにすることから始めた。これは、プロジェクト終了後に、どの部署がどのような役割を担うことになるのかをより明確にするためには、まずC/P自身が自分たちの組織の現状をしっかりと認識することが重要であるためである。

次いで、これまでの活動の中で確立した 1) ローカル市場向け普及フロー、2) 輸出や契約栽培を念頭においた普及フロー、そして 3) ジェンダー主流化活動に係る普及フローの3つの普及フローの各活動に基づいて、活動の主体となる部署及びその役割について明確化した。ローカル市場向け普及フローでは、CAACのGeneral Management of Marketing セクションや Training Department が主に活動の管理やモニタリングを担うことが確認された。また、CAAEについては、Follow-up Department や Program Department が中心となって、活動のフォローアップを実施していく体制が提案された。この他、ジェンダー主流化活動に係る普及フローについては、CAAEのRural Development Department が中心となって、現場活動をサポートしていくことが話し合われた。

県普及計画の策定については、2030年までにどのように県内で普及フローを実施していくかを話し合った。アシュート県では、年間2郡を対象とし、1シーズンごとにそれぞれ1村ずつ、年2シーズンであることから、年間2郡、4村を対象とすることを基本とした。対象村数を決めるにあたっては、予算や職員数等の前提条件を踏まえて、可能な範囲での計画化を考え、年間4村を対象にすることとした。ミニア県においては、アシュート県よりも村の数が多いことから、年間3郡から5村を対象にする計画となった。

普及計画策定のプロセスにおいては、普及フローを実施するために必要な予算をどれだけ確保することができるかが度々議論となった。これまでの活動から、1村あたりに掛る費用はまともに見積もるとLE10,300程度と想定される。そのため、年間4村～5村を対象とした場合、毎年LE41,200～LE51,500程度の予算が必要なる。しかしながら、MALRの現状を考慮すると、これらの予算を毎年確保することができない懸念がある。C/P自身もこれらの点を憂慮しており、W/Sで

は、普及フローの実施において、いかに費用をかけずに実施するかを議論した。具体的な活動費用削減案を下記に示す。

表 2.5.2 活動費用の削減・検出策

| 活動項目 | 対応策 |
|---------|--|
| 市場調査の実施 | これまでの市場調査から、既にトレーダーや卸売業者のリストを策定している。これらのリストを農家に配布することで、農家自身が市場調査を行うような形とすることで、交通費等の費用を削減する。あるいは、交通費のかからない村近傍の市場で市場調査研修を実施する。 |
| 研修費用 | 農協の予算を活用して研修を実施することを基本とする。その他、ARC への無償での講師依頼やこれまでに TOT に参加してきた普及員を活用することで研修費用を削減する。 |
| デモ圃場の設置 | より積極的な農家を選ぶことで、技術指導のみを行う形とする（デモ圃場を特設せず、通常の農家の圃場を借りて技術指導を行う）。 |
| モニタリング | 県農業事務所長 (Undersecretary) にモニタリング費用 (交通費) の配分要請を積極的に行う。 |

予算確保の方法についても議論を行った。MALR の予算は限られており、実施体制を構築し、県普及計画を策定するだけでなく、これらを実効性のあるものにしていくためには、いかに予算を確保できるかが鍵となる。中央の予算は非常に限られることが認識された一方で、研修費用等に関しては、各農協がその費用を負担することで活動を実施するという計画とした。これは、農協法において、農協が得た収入の 5% を研修活動に充てるということが明記されており、実際にアシュートでは、農協が TOT 講師の費用を負担している。さらに、C/P からは、県知事事務所 (Governorate Office) からも、活動の効果をアピールすれば、研修費用やデモ圃場モニタリングのための交通費等の資金を得ることができるのではないか、というアイデアが出された。

2018 年 10 月、第 5 サイクルの冬作活動がデモ圃設置までたどり着くに当たり、C/P と実施体制へのフィードバックにつき協議したところ、特にカイロの C/P から、暫定実施体制で整理した、各活動を既存の普及局および農協局の通常活動の中に分割して組み込むよりも、ISMAP Implementation Unit を立ち上げて、この Unit が主体となって一連の活動を継続する方が良いとの提案が出された。役割を普及局と農協局で分担しても両局の Coordination を行う役割が必ず必要となってくることや、各局で予算取りして、そこから ISMAP アプローチの活動に配分するよりも、Unit を設置した方が予算取りもし易い、という利点があるとのことであった。

この提案について C/P 全体で協議を重ね、ISMAP Implementation Unit を立ち上げて、この Unit にこれまでのプロジェクトチームメンバーが参集して活動を継続する案が提案され、11 月 15 日に実施体制案が農業サービスフォローアップ局長に提出された。その後農業サービスフォローアップ局長が農業大臣に実施体制案を説明し、11 月 25 日に大臣承認のはこびとなった。その後、プロジェクトチームの Coordinator が Implementation Unit のリーダーとしてアサインされ、カイロの農協中央部、ミニアおよびアシュート県農業事務所に実施ユニットの執務室が各々用意されることとなった。2019 年 4 月 16 日に開催した本プロジェクト Completion Seminar にて、各執務室の Name Plate の授与式を行い、ISMAP アプローチの普及活動は、プロジェクトチームから ISMAP 実施ユニットに正式に移管された。

ISMAP Implementation Unit は、基本的にプロジェクトの実施体制をそのまま受け継ぐ構成となっている。中央に Steering Committee を設け、農業サービスフォローアップ局長が Director となり、その配下の農協中央部長が Manager となる。中央の実施ユニットのメンバーには、農協中央部および農業普及中央部の職員がアサインされる。ミニア県およびアシュート県においても、これま

でと同様、Undersecretary の指揮の下、農協局と普及局の双方からメンバーがアサインされ、活動を推進していく。

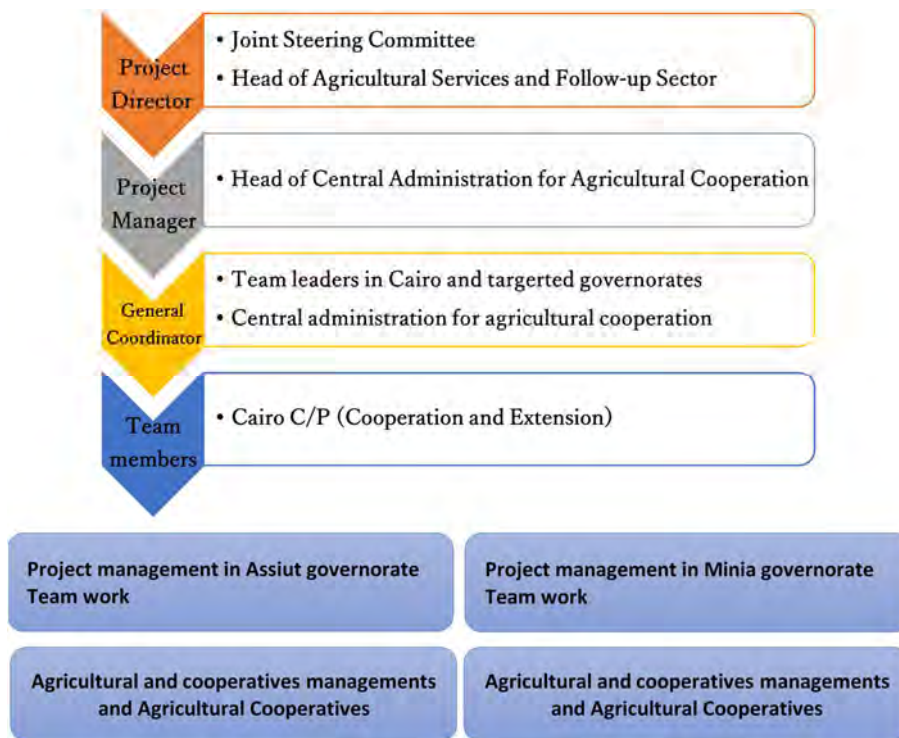


図 2.5.1 C/P 作成による ISMAP Implementation Unit Structure

2.6 その他の活動

2.6.1 本邦研修の実施

(1) 本邦研修プログラムの策定

本プロジェクトでは、C/P に対する本邦研修および在外研修（ケニア）の実施が予定されていた。在外研修は、SHEP アプローチが開発されたケニアにおいて、SHEP アプローチについて学ぶことが目的であったが、ケニア側の事情により、ケニア国における在外研修は中止とし、本邦研修のみ行うこととなった。但し、JICA 主催によるアフリカ行政官向け SHEP 推進研修プログラム（2014 年 11 月 17 日～12 月 5 日）に C/P の 1 名が参加し、JICA 関西およびケニア国での研修に参加した。

本邦研修プログラムは、2015 年から 2017 年にかけて 3 回にわたり実施した。2014 年 8 月より詳細計画策定作業を開始した。本邦研修プログラムの計画については、JICA 関西で実施されている行政官向け SHEP 推進研修のプログラムを参照し、日本の各事例において、需要者と供給者の間での市場情報の非対称性を緩和するために、行政や民間の関係者がどのような取り組みを行っているかを学ぶことを基本方針に計画を行った。

JICA 中部を拠点に、東海農政局および愛知県農林水産部はじめ、愛知県下の農協や農家の取り組み事例、中央卸売市場等の視察を計画し、これらの視察先を訪問し研修の実施を要請し了承を得た。第 1 回目の本邦研修では、三祐コンサルティングが農林水産省の委託で実施した沖縄県での地域農業振興業務で、SHEP のコンセプトと同様の活動を行っている経験があり、本地区を視察プログラムに組み込んだ。

更に、2014年11月17日から12月5日にかけて開催されたアフリカ行政官向け SHEP 推進研修プログラムにチームメンバーが参加した。チーフアドバイザーが JICA 関西での日本セッションに、農民組織担当団員がケニアセッションに各々参加し、本邦研修計画策定の参考とした。なおこの研修には、上述のようにカウンターパート1名が参加しており、カウンターパートへの研修支援も行った。このような経緯で第1回の本邦研修プログラムを策定して実施した。その後第1回の研修成果と教訓を踏まえて第2回、第3回とプログラムを改善していった。

(2) 本邦研修プログラムの実施

3回の本邦研修で総勢28名のC/Pが研修に参加した。各回の実施概要およびプログラムの概要を下表に整理する。

表 2.6.1 本邦研修実施概要

| 本邦研修 | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
|---------|--|--|--|
| 実施時期 | 2015年5月11日～5月26日 | 2016年5月16日～26日 | 2017年5月4日～19日 |
| 実施場所 | JICA 中部、愛知県、沖縄県 | JICA 中部、愛知県 | JICA 中部、愛知県 |
| C/P 参加数 | カイロ3名(男3、女0) ミニア4名(男3、女0) アシュート4名(男3、女0) | カイロ3名(男1、女2) ミニア3名(男1、女2) アシュート4名(男1、女3) | カイロ4名(男3、女1) ミニア1名(男0、女1) アシュート2名(男2、女0) |

表 2.6.2 研修プログラムの概要

| 講義・視察の目的 | 研修受け入れ先 |
|--|---|
| 全体ブリーフィング、演習1：全体工程とプロジェクトでの課題との摺り合わせ | JICA 中部 |
| 日本の農政、農業政策の概要を知ること、エジプトと日本の農政の構造的な違い、また末端の農業改良普及活動の基となる日本の農業を取り巻く社会経済的な状況を理解する。 | 東海農政局 |
| 地方行政の概要を学ぶと共に、視察先である愛知県が県特有の農業課題・営農環境に対しどのような方針を持っているかを理解し、視察先での内容の理解に資する。 | 愛知県農林水産部 |
| 農業普及の最前線である県地方事務所を訪問し、日本の農業普及の業務の在り方について学ぶ。 また、県普及行政が農協とどのように連携しているかも学ぶ。 (第1サイクルでは沖縄県を訪問) | 沖縄県北部農林水産振興センター、国営事業・羽地大川地区 愛知県知多農林水産事務所、田原市、田原農業改良普及課 |
| エジプトと日本の農協組織の成り立ち・機能の違いを理解したうえで、日本の農協が生産者組織を通じて資材調達・営農・販売の側面において果たす役割を理解する。 | JA あいち知多 JA 愛知みなみ |
| 農協による共選共販農家と対比し、個別販売において契約栽培を行う際の長短所、生産・販売上の工夫や取り組みを理解する | 畑作(施設・露地)農家 個選農家 |
| 観光農園は農産物の販売にレクリエーションを販売商品としており、その一つの農業経営類型としての農業経営の概要を理解する | 観光農園(いちご農園) |
| 1) 女性生産者の農産物加工・販売における生産過程および販売促進に係る工夫の視察を通して、消費者ニーズに応える農産物の高付加価値化の事例を学ぶ 2) 一般消費者への農産物直売の仕組みを理解する 3) 地元の青果物でおもてなしをしたい料理人と地元農家の意向が一致して創設された朝一を視察し、市場情報の非対称性の解消の実践例を学ぶ。 | げんきの郷 やんばる朝市視察、女性農業者の圃場視察、やんばる朝市かあちゃんの会とやんばる料理人会 |
| エジプトの農産物流通と日本の農産物流通の違いを理解したうえで、農産物の価格形成の仕組みや青果物の流通の仕組み、中央卸売市場が果たす役割を理解する | 名古屋市中央卸売市場 |
| 多様化する消費者ニーズに合わせた小売店の農産物の売り方の工夫を理解する | 小売店 |
| 演習(農業経営・流通販売の捕捉講義、研修振り返り、プロジェクト活動反映方法の検討) | JICA 中部 |

研修では、短期間の研修工程ながら日本の農業の構造を立体的に理解できる様、様々なレベル(国、県、市町)の農業政策や農業振興事業、農産物流通経路(農家からJA、卸売市場、小売店、直売所、観光農業)の研修を連続的に配置した。さらに各講義の前には、それらの組織の関係性

説明して、理解が深まるように工夫した。また研修生に目的意識を持って研修に参加してもらうため、出発前に上エジプト農業上の課題を研修生に整理してもらい、演習1にて発表・共有した。これら整理された各課題の解決策に資する情報が得られると考えられる視察先について、研修担当者が事前に伝え、本邦研修を通じて上エジプトの農業上の課題解決に結びつく発見ができるよう、意識付けを行なった。

第1回、第2回の本邦研修では、事前準備作業として、上エジプト地域における農業開発の課題を、研修参加者がとりまとめ、課題解決に向け本邦研修で学ぶべき視点を、研修開始前にあらかじめ整理したうえで本邦研修に臨んだ。第3回研修においては、第1回及び第2回本邦研修からの活動反映事項を踏まえ、準備作業の内容を若干変更した。まず、プロジェクト活動に反映すべきものとして第1回、第2回研修で整理された内容を、第3回の研修で更に掘り下げて学ぶための視察ポイントを事前に整理した。また、各研修参加者の日常業務と課題を整理してもらい、日常業務の改善のために本邦研修から学びたいことを各自に整理してもらった。

(3) 本邦研修の成果取りまとめとプロジェクト活動への反映

3回に亘って実施してきた本邦研修の教訓とプロジェクト活動への反映方法を取りまとめるため、カイロ、ミニアおよびアシュートのC/Pを集めたジョイントワークショップを2017年10月8日に開催した。これまでも、各年の本邦研修終了後に教訓および活動への反映方法を整理し、これまでも活動への反映は行われてきた。例えば、GAPや有機肥料活用といった技術関連で学んだことを、プロジェクト活動のTOTの講義に取り入れたり、日本の農協と県農業普及部が協力して実施している作物部会の活動を、マーケティング協議会を形成して生産部会のような活動につなげられるよう試行したり、といったことである。下表にW/Sの結果を取りまとめる。

表 2.6.3 本邦研修結果のとりまとめ

| 大項目 | 小項目 | プロジェクト期間の目標 | 将来目標 | 普及部の役割 | 農協の役割 | プロジェクトチームの役割 |
|--------------|---------------------|---|--------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 1. 研修プログラム作成 | GAP 有機肥料 農産加工 | 選果や包装の収穫後処理、農産加工、有機肥料作成にかかる研修を実施する。 農協理事に焦点を当て、近代農業技術の導入の重要性について研修する。 各村のデモ圃設置位置図を作成する。 | | 研修の提供 | 農協の研修センターの活性化 | |
| | 農協改善 | 作物毎の生産部会を形成するよう農協を活性化させる。 マーケティング協議会の役割を明確化する。 | 業務のコンピュータライズ | マーケティング協議会の監理 | 農協生産部会、マーケティング協議会の形成 | |
| | マーケティング協議会形成 | SWOT分析を実施し、土地調査で作物別作付け面積をより正確に行う。 | | SWOT分析の実施 | 土地調査の精緻化 | |
| 3. 農家の販路開拓支援 | 市場調査 | 小売りとの意思疎通も図り、直売の実現を支援する。 | | | | |
| | ビジネスダイアログ | フォローアップと結果の評価を実施し、継続的にダイアログを開催していく。 | | | | フォローアップと結果の評価、活動の継続 |
| | 直売 | 農協内や農業事務所にする1日市の形態で直売所を開設。 | | | 直売所の開設 | 小売との継続的意思疎通、直売所開設支援 |

W/Sでは、まず本邦研修の概要を日本人専門家がおさらいし、続いて第1回から第3回までの本邦研修参加者代表が、各回の本邦研修での学びについて報告を行った。これらを踏まえて、これまでに既に活動に取り入れている事項も含めて、今後プロジェクト活動に反映していくべき教

訓・活動を議論し、とりまとめた。これまでも活動に反映させてきた技術研修の充実、マーケティング協議会を通じた生産部会的な活動の強化・普及活動の改善、本邦研修で視察した農産物直売を取り入れるためのビジネスダイアログや農協・農業事務所内での直売所設置等がとりまとめられた。

2.6.2 エジプト国内の成功事例視察

2015年に第1回本邦研修を実施後、プロジェクト対象地域の現状と日本の事例とのギャップを埋めるものとして、エジプト国内において成功事例・先進事例を視察することが日本人関係者内で提案されていた。中間レビューの提言を受けて JICA 側による C/P への旅費・交通費負担の一時措置がおこなわれた機会に、この事例視察を C/P が自ら計画して、先進事例視察を 2017 年 10 月にニューバレー県およびアレキサンドリア県にて行った。国内での先進事例は、C/P にも刺激を与えるものとなったようである。下表に概要を示す。

表 2.6.4 エジプト国内の成功事例視察

| 視察先 | ニューバレー県のドイツ加工農協 | アレキサンドリアの先進農協 |
|--------|---|--|
| 視察日 | 2017 年 10 月 11 日～13 日 | 2017 年 10 月 17 日～19 日、29 日～31 日 |
| 参加 C/P | アシュートおよびミニア C/P | アシュート、ミニア、カイロ C/P、対象農協の職員、農協理事、日本人専門家 |
| 概要 | 農協がマーケティングを含むビジネスに取り組んでいる事例。ドイツ加工・販売を行っている農協の視察。民間企業と競争しつつ事業を行っている。農協は農家への支払いを遅滞なく行うことで競争性を獲得している。農協の理事が活発であることが成功要因であることを学ぶ。 | IFAD の SAIL プロジェクトによる融資を受け、アロエの加工・販売など農協によるビジネスを展開している。成功要因に、①農協理事がビジネスマインドを持ち、農協の利益を上げるための工夫を行っている事、②農家は高学歴の入植者であり、かつ経営面積が大きい事、③アレキサンドリアの街に近いために輸出業者を見つけやすく、輸送コストも低い事、④ムバラク政権時代に国策として入植者に対するサポートを行っていた事、⑤農業のポテンシャルのある地域として、様々な支援を受ける機会がある事などが確認された。 |

2.6.3 PDM の指標設定

PDM の指標の設定（農業所得の増加率）について、2015 年 3 月の運営指導調査団との協議の結果も踏まえ、目標農業所得増加率は、当事者のモチベーションを高めることを狙いとして、各対象村および郡の普及員に目標値の設定を行ってもらおうという方法が採用された。指標の算定方法は以下の通りとした。

- 各村のベースライン調査の農家別作物作付面積と農業所得の平均を算定。
- 現況の夏作を、選定作物（計画作物）の平均目標所得に置き換えて、各村の平均目標所得額を算定。ベースライン結果と比較して所得増加率を算定する。

各郡・村普及員による設定値が妥当なものとなるよう、プロジェクトチームも作業を支援し、最終的な各村の目標所得増加率を以下のように設定した。

表 2.6.5 PDM-3 における各対象村のプロジェクト目標の指標（農業所得増加率）

| Governorate | Cycle | District | Village | Target Increase (%) |
|-------------|-------|-------------|---------------------|---------------------|
| Minia | 1 | Abo Korkus | El Balad | 22 |
| | 1 | Mallawe | Manshet El Maghalka | 12 |
| | 1 | Dayr Muas | Manshet Semhan | 12 |
| | 2 | Matai | Kom Matai | 9 |
| | 2 | Maghagha | Aba El Balad | 26 |
| | 2 | El Edwa | Barmasha | 33 |
| | 3 | Minia | Tala | 37 |
| | 3 | Samallout | Hataha | 24 |
| | 3 | Beni Mazar | Gendaya | 15 |
| Assiut | 1 | Assiut | Mosha | 6 |
| | 1 | Abnoub | Abnoub | 9 |
| | 1 | Dayrut | Sanabo | 18 |
| | 2 | El Kosya | El Tetalia | 14 |
| | 2 | El Fath | Bany Mor | 28 |
| | 2 | Abo Teag | El Nekhelia | 24 |
| | 2 | El Badary | El Nawawra | 8 |
| | 3 | Man Floot | Man Floot | 21 |
| | 3 | Sadfa | Awlad Elias | 22 |
| | 3 | El Ghanayem | El Mashaya | 11 |
| | 3 | Sahel Selem | Sahel Selem | 25 |
| | | | Average | 19 |

2.6.4 普及フロー及び業務マニュアルの作成

2015年3月の運営指導調査時にこれまでの普及フローの課題を整理し、調査団と協議した。その後カウンターパートとも協議し、普及フローの改善を行い、マニュアルを作成した。第2サイクルの活動からの教訓を踏まえ、第3サイクルでの普及フロー改善案を策定した。この改善フローに基づき、業務マニュアルの改訂を行った。マニュアルは、ISMAP 普及フロー実施マニュアル、営農技術普及マニュアル、およびジェンダー主流化マニュアルに大別される。下表に作成マニュアル一覧を示す。これらを Annex に添付する。

表 2.6.6 プロジェクト作成マニュアル一覧

| 分類 | タイトル |
|---------------|---|
| ISMAP アプローチ全般 | Manual of Implementing ISMAP Approach (英語、アラビア語) |
| 栽培技術編 | Technical Manual for Horticulture Crops in Minia and Assiut Governorates (英語、アラビア語) |
| | Horticulture Crop Posters (6種類: 英語、アラビア語) |
| 女性の能力向上活動 | Manual for Women Empowerment Activities for Officers (英語、アラビア語) |
| | Manuar for Women Empowerment Activities for Female Participants (英語、アラビア語) |
| | Leaflet for Pigeon Raising (英語、アラビア語) |
| | Leaflet for Chicken Raising (英語、アラビア語) |
| | Leaflet for Rabbit Raising (英語、アラビア語) |
| | Leaflet for Mushroom Cultivation (英語、アラビア語) |

2.6.5 他ドナーや NGO 等との連携

プロジェクト実施期間中、上エジプト地域で市場志向型プロジェクトを実施している開発パートナーとの情報交換や連携を行ってきた。情報交換等を行った組織には News Letter を毎月送付した。下表に情報交換等を行った組織を整理する。UN Women とは、ジェンダー主流化活動の成果を共有するセミナーを Joint Seminar として開催し、UN Women のプログラムも発表してもらおうと共に共同パネル討議を行った。

表 2.6.7 主な開発パートナーとのコミュニケーション

| 開発パートナー等 | 関係 |
|---|---|
| AfDB/SFD RIEEP | 対象県が重なっており、進捗の情報交換を行った。News Letter 配信。2015 年 12 月に終了。 |
| FAO | 農協改革の TA を実施（2017 年 12 月に終了）。ISMAP のアプローチの紹介およびアプローチの活用のプロモートを行った。News Letter 配信。 |
| IFAD PRIME | 対象県が重なっており、進捗の情報交換を行った。News Letter 配信。 |
| UNIDO | UNIDO 主催コンファレンスにて ISMAP の発表を行った。UNIDO がミアで実施したプロジェクトサイトを視察。News Letter 配信。 |
| UN Women | ジェンダー主流化活動の経験を発信するセミナーをミア県にて共同開催した。News Letter 配信。 |
| USAID | 意見交換を行った。News Letter 配信。 |
| WFP | ISMAP のアプローチの紹介およびアプローチの活用のプロモートを行った。News Letter 配信 |
| Action Against Hunger | NGO。ISMAP の紹介、News Letter の配信。 |
| CEOSS | 上エジプトで小規模農家を支援している NGO。ISMAP のアプローチの紹介およびアプローチの活用のプロモートを行った。News Letter 配信。 |
| Green Economic Development Association (GEDA) | ミア県 Abo Korkus 郡を拠点に小規模農家の投入資材から農産物の販売までを支援する NGO。意見交換を行った。News Letter 配信。 |
| HEIA | エジプト青果物輸出業者の協会。共同の可能性を討議。News Letter 配信。 |
| Knowledge Economy Foundation (KEF) | Web や携帯を用いて農家に対して Quality Knowledge Promotion を行うことを目標に活動する NGO。彼らが主催するセミナーへの参加やビジネスダイアログへの招待などで連携。 |
| Agrofood | 民間食品企業。サツマイモの契約栽培を実施した。News Letter 配信。 |
| FROZNA | 民間食品企業。農家との契約栽培支援。News Letter 配信。 |
| Olam | 民間食品企業。News Letter 配信。News Letter の記事をきっかけにタマネギの契約栽培が実現した。 |

2.6.6 広報活動

(1) News Letter の発行

第 1 期から継続して News Letter を毎月発行し、上記 2.6.5 の開発パートナー、ビジネス協会、アグリビジネス企業その他、農業土地開拓省、National Council of Women といった関係省庁に配布した。通算で 52 号の発行となった。本 News Letter を読んでいたアグリビジネス企業から、小規模農家との契約栽培試行の依頼がくるといった成果が出ている。また、開発パートナーが集まる各種セミナー等でも ISMAP が認知されていることを確認できた。

(2) パンフレット等作成

プロジェクトを紹介するパンフレットを作成し広報に努めた。開始当初にプロジェクト概要をまとめたパンフレットを作成して適宜配布し、プロジェクト終了段階では、プロジェクトの成果を示したパンフレットおよびブックレット（園芸作振興とジェンダー主流化活動の 2 種類）を作成して、セミナーで配布するなどの広報を行った。

(3) 動画の公開

1) プロジェクトでの公開動画

研修教材や広報の目的で、プロジェクト活動を撮影し、動画を youtube にチャンネル名「ISMAP Minia&Assiut」でアップロードした。下記がアドレスである。

https://www.youtube.com/channel/UCBh1noEEfKG_FMBY7nt6P7A/videos

2) JICA 広報部による動画

2015年8月にJICA広報部によるプロジェクト視察が行われ、同視察結果が2016年5月にJICAのYoutubeに動画掲載された。

(4) セミナー等での発表

プロジェクト実施期間中に、他ドナー等主催を含む各種セミナー、研修で本プロジェクトの報告を行った。下表に参加したセミナー等を整理する。

表 2.6.8 各種セミナー等での発表

| イベント | 日時 | 概要 |
|---|---------------------|---|
| UNIDO の Conference | 2014年 12月 14日 | UNIOD が主催して開催された、「Celebrating the Africa Industrialization Day 2014, Egyptian Agro Industry for Food Security」にて、ISMAP の発表を行った。プロジェクト活動開始から半年程度しかたっていないため、プロジェクトのコンセプトや戦略を中心に発表した。 |
| 上智大学講義「国際開発コンサルティング：開発とジェンダー配慮」 | 2015年 5月 | 上智大学のシリーズ講義「国際開発コンサルティング」において、ジェンダー専門家が ISMAP のジェンダー主流化活動を紹介した。 |
| JICA 能力強化研修「市場志向型農業(SHEP)推進能力強化研修フォローアップ講座2」 | 2015年 7月 | 「市場志向型農業(SHEP)推進能力強化研修フォローアップ講座第2弾」にてジェンダー専門家が講師をつとめ、ISMAP ジェンダー主流化活動について説明した。 |
| Sahara Expo でのセミナー | 2015年 9月8日 | カイロで毎年開催されている、農業関連企業の展示会“Sahara Expo”において、NGO の Knowledge Economy Foundation (KEF)主催のセミナーに、チーフアドバイザーがパネリストとして参加し、プロジェクトの概要についてプレゼンを行った。他のパネリストは、USAID、AFD、EU、SFD および IDRC。 |
| JICA 能力強化研修「農業・農村開発とジェンダー」 | 2015年 12月 | 「農業・農村開発とジェンダー」にてジェンダー専門家が講師をつとめ、ISMAP ジェンダー主流化活動について説明した。 |
| 中東地域 JICANational Staff 向け研修 | 2017年 2月22日 | JICA エジプト事務所において、中東および近隣の JICA 在外事務所の National Staff 向けジェンダー研修が実施され、チーフアドバイザーは、ジェンダー主流化活動の事例紹介として ISMAP の事例紹介を行った。参加者は、シリア、イラク、イエメン、イラン、チュニジア、モロッコ、セルビア等に亘り、イスラム文化圏という類似状況の下での事例報告であった。 |
| Demonstration in Japan Food Biz in Egypt での展示 | 2017年 3月18日~19日 | 在エジプト国日本大使館が主催する Japan Food Biz in Egypt がカイロで開催された。同イベントは、日本の食料関連企業とエジプト企業等とのビジネスダイアログの場として開催された。当プロジェクトも展示ブースを設けて ISMAP の写真やポスター展示、またプロジェクト動画を紹介した。 |
| ジェンダー能力強化研修 (2017年度) | 2017年 12月8日 | JICA 主催ジェンダー能力強化研修において、ジェンダー担当専門家が ISMAP の事例報告を行い、現場での教訓を研修参加者に報告・共有した。 |
| ジェンダー能力強化研修 (2018年度) | 2019年 2月22日 | 能力強化研修「ジェンダー主流化」にてジェンダー専門家が講師をつとめ、ISMAP ジェンダー主流化活動について説明した。 |
| UN Women との Joint Seminar 開催 | 2019年 2月27日 | UN Women と共同で Approaches of Women's Economic Empowerment in Rural Upper Egypt と題するセミナーをミニア県にて開催した。 |
| Project Completion Seminar 開催 | 2019年 4月16日 | プロジェクトの締めくくりとして、実施体制のプロジェクトチームから実施ユニットへ Hand Over する式典を行うとともに、多くの Stakeholder を招待してセミナーを実施し、プロジェクトの成果の広報を行った。 |

(5) 投稿

カイロ日本人会 2016 年 3 月・4 月号の JICA 通信欄に本プロジェクトの紹介記事を掲載した。また、JICA ホームページの世界 Hot アングルコーナーへも投稿を行った。

(6) Media 報道

プロジェクト活動でビジネスダイアログや各種ワークショップ、セミナーを実施した際に、エジプトのメディアからの取材を度々受けた。取材された内容は、エジプトでの報道番組や新聞・雑誌等で紹介された。また、NHK ラジオ放送（番組名：ラジオ深夜便）において、当プロジェクトが取り上げられ、現地取材を受け入れた。取材模様は、2016 年 6 月 17 日に放送された。ラジオ担当者からの話では、「ヒマワリとキュウリの混作に驚いた（デモ圃で展示している混作技術について）」、「日本の活動に誇り」、といった声が寄せられたそうである。

第3章 プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓

3.1 プロジェクト実施運営上の課題と対策のまとめ

下表に課題と対策、およびプロジェクトのとった戦略の概要を取りまとめる。

表 3.1.1 プロジェクトの主要課題と対策

| 期間 | 主要課題 | 対策と結果 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 第1期：2014年5月～2015年6月（第1サイクル） | 選定した対象農家が継続的に参加せず、市場調査に基づく営農計画、技術支援、といった一連の活動の一貫性を保つことが出来ず、また一連の活動を通じて高めることのできる対象農家のモチベーション向上の効果が薄れてしまった。 上エジプトの農村女性の状況を調査したところ、圃場で働くことが許されず、また男女共同で活動することが難しい、男女隔離規範の強い村が多くあることが分かった。 | 運営指導調査での協議の結果、農家が継続的に参加する工夫をさらに検討していくことで合意。 女性活動については、営農の範疇を広げ女性が主体的に取り組める小規模家畜等による生計向上活動も支援することを決定。 | プロジェクト開始当初にC/Pと3日間のWSを実施し、R/DとPDMを一行一行読み合わせして、プロジェクトへの理解共有を図った。続いて更に3日間のWSを実施し、C/Pと共同でワークプランを作成して、C/Pのオーナーシップ醸成に努めた。 活動は、当初は試行錯誤でC/Pとも議論を重ねながら進めていった。 |
| 第2期前半：2015年7月～2017年1月（中間レビュー前）（第2サイクル、第3サイクル） | 参加農家にパスポートを配布、村農協の壁に普及フローを示すバナーを設置して、活動の全体とプロセスを分かり易く明示、毎回の活動の最初にフィードバックセッションを入れるなどの工夫を行ったが、農家の参加の継続性は顕著に改善されなかった。 女性活動では、女性を活動毎にグループ化し、ウサギやハトなどの小規模家畜の飼育の学びの場となるよう機材供与による飼育ユニットを導入した。しかしながら、グループワークがうまく機能せず、ユニットを管理する世帯が結果的に一人でユニットを管理するような状況となったりした。 | 多くの農家が継続的な活動参加していない中、各村数名の農家は意欲的に毎回活動に参加してくることが観察されたため、この数名の意欲的な農家を組織してマーケティング協議会を形成した。このマーケティング協議会が営農計画を作成し、技術支援を要請する作物の選定を行うようにしたことで、市場調査から技術研修までの活動の一貫性を保持できるようになった。作物選定後、改めて参加農家を募り、技術研修の裨益を高めるようにした。 女性活動では、グループ活動をより緩やかなものとした。対象女性は個別に活動をし、定期的にモニタリング会合を開いて情報交換をするといった形態にした。機材供与に関しては、第3サイクルは個別女生徒のコストシェアリングでの供与を実施し、第4サイクルでは、ビジネスプラン研修のみを行い、機材供与はなしとした。 | C/Pのアイデアを取り入れつつ普及フローの改善に努めた。 C/Pも活動の意義への理解が進み、C/Pの活動へのイニシアティブも高まっていた。 女性活動については、特にアシュート県では男性のC/P自身が女性活動に消極的であったが、活動を進める中でジェンダー配慮の意義を理解し、積極的に関与するようになった。 |
| 第2期後半：2017年2月～2017年12月（中間レビュー後）（第4サイクル） | 中間レビューの提言を踏まえて、対象村を広げず、より明確な成功事例を作るため、既存対象村から活発な村を選定して活動を継続した。 活動は順調に進んだ。 | 対象農家のモニタリングをより多く行い、農家の声を拾いながら成功事例の収集に努めた。 作期をずらして所得が向上したケース、売り先を変えて所得が向上したケース等の事例を得た。また女性活動では、スーパーマーケットの市場調査後、パン加工品を販売して生計向上に成功した村も出てきた。また家禽飼育でも順調に所得を得る女性も出てきた。 | 活動を進める中でC/Pからの提案が増加していった。 特にアシュート県のC/Pは、他地区の成功事例視察の提案や、本邦研修の学びを活かすための農協での直売活動の斡旋など積極的な提案と行動が見られた。 |
| 第3期：2018年1月～2018年10月現在 第4サイクル、第5サイクル | プロジェクト期間中での作期が限られる中、プロジェクト終了後の普及計画と実施計画を策定する必要があった。 MALRの予算が不足する中、活動をMALRのレギュラーワークに取り込むよう、より現実的な計画と実施体制を作る必要があった。 | 2018年6月末までに暫定の普及計画と実施体制案を策定し、2018年の冬作で試行することとした。試行の結果を踏まえて、普及計画と実施体制を確定し、プロジェクト終了後にMALRにより活動を継続する。 | プロジェクト後の実施体制をめぐっては、カイロのC/Pも積極的に取り組み、プロジェクト後も実施ユニットを省内に設置して活動を継続する案をC/P全体に提示し、大臣申請のプロポーザル作成を自ら行う計画となった。 |

表 3.1.2 プロジェクトの取った戦略のまとめ

| 戦略 | 背景 | 方法 |
|---------------|--|---|
| 活動の連結 | 上述のように、当初に活動に参加した対象農家の継続的参加を得ることが困難であり、また途中から活動に参加する農家も少なくなかった。 | 農家の継続的参加を促すため、活動の各々のステップの連結を分かり易くするように、各ステップのはじめに前回の振り返りセッションを設けたり、途中参加農家にも理解してもらうことを意図してフィードバック WS (前回活動の情報共有会) をステップの間に入れたりした。また、各ステップを記した普及フローの大きなバナーを作成し、対象農協の壁に掲示して、いつでもこのステップに来ているかが分かり易いようにした。 |
| マーケティング協議会設立 | 村の現状から、色々と工夫をしても農家の参加の継続を保つのは困難だった。 | 活動のステップを重ねる中で、意欲的で毎回活動に参加してくる農家が数名は確実にいることが分かってきたので、この意欲ある農家を集めて協議会を形成し、この協議会が営農計画や技術支援を要請する作物の選定を行う方式を導入した。この協議会は、将来にわたって村での活動のけん引役になることも期待している。 |
| ターゲット市場に即した活動 | 小規模農家に市場志向型農業をプロモートする際に、エジプトの農産物市場構造を把握し、市場構造に沿ってプロジェクト活動を改善することが効果的と考えられた。 | エジプト市場を、「ローカル市場」と「輸出市場及び大都市のスーパー等の特殊市場」に大きく分け、前者には市場調査研修を主体とする活動が効果的であり、後者については、ビジネスダイアログを主体とする活動が効果的であると考え、普及フローをそれぞれのターゲット市場に即した2つのフローに類型化することとした。これにより活動がより効率的になった。 |
| ジェンダー主流化 | 上エジプトでは保守的な農村が多く、女性は圃場に出て働くことが許されない村も多く見られた。また、男女共同で活動を行うということは、上エジプトの社会慣習上困難な状況にあった。このような状況下では、園芸作を主体とした活動を行っている女性と女性が活動から排除されてしまう危惧があった。 | 男女隔離規範が厳しく、女性が圃場での営農に就くことが困難な状況下では、活動を男女に分け、女性が主体的に携われる活動も支援することが必要と考えられた。ジェンダー主流化として、女性が主体的にできる活動を行うことによって家計に貢献し、夫の妻に対する意識が変わることを企図した。営農という概念を拡大し、小家畜や家禽、農産加工の活動もプロジェクト支援の対象とし、女性に対する普及フローの構築を行った。女性だけを集め、市場調査研修、ビジネスプラン研修を行い、女性が選択する活動に対して技術支援を行った。 |
| 情報共有・広報 | C/P がカイロ、ミア県及びアシュート県と3地区に分かれており、C/P 間での情報共有の必要性、また多くの他ドナーやアグリビジネス等の民間が活動しており、これらの組織にプロジェクトの存在を広報して連携の可能性を探ることも考えられた。 | 不定期ではあるが3地区の Joint WS を実施し、重要な課題の討議は3地区全体で行った。また、専門家が3地区の情報伝達を担い、情報を共有することでC/Pの活動に刺激を与えた。具体的には、アシュート県のC/Pの方がミア県のC/Pより活発であったため、アシュート県で活動を若干先行させ、アシュート県ではこのようにやった、ということを紹介し、ミア県のC/Pが奮起するよう仕向けたりした。広報においては、ニュースレターを関係者に配布し、広報に努めた。このニュースレターを見て民間食品企業が小規模農家との契約栽培の試行を相談に県農業事務所にコンタクトした事例も現れた。 |

3.2 プロジェクト実施上で得た教訓

3.2.1 目標の共有

対象農家に対し、本プロジェクトが、まず市場のニーズをつかむことから始めることを説明したが、売り先の確保について多くの農家が不安を表明する傾向が見られた。小麦は政府が確実に買い取るので、生産性向上の問題であるという意見もあり、これは売り先への不安の裏返しと言えよう。このような農家の意見に対して、「プロジェクト (MALR) は、小規模農家の所得を倍

増することを夢見ています。その夢の実現と一緒に考えていきたいということが我々のプロジェクトです」という説明を行ったところ、参加農家が頷く表情が見えた。プロジェクトが何を提供するか、ということ以前に、プロジェクト側と受益者側で目標を共有することが、受益者との共労関係を築いていく上で重要である。

3.2.2 参加の意味

C/P との協議の中で、農家への補償という考えが C/P の意見の大勢を占めた。JICA 専門家からは、プロジェクト活動への参加は、農民に負担を強いるのではなく、農民の投資であるという考えに立つこと、また、プロジェクトへの参加が自らの便益に繋がる、投資になるという考えを持つ農家を選定しているはずであること、それが意欲ある農家の意味ではないのかと議論を重ねた。小規模農家は貧しいので賃労働もしており、長時間の拘束は難しいというのが C/P の言い分であるが、実態としてそのような農家もあるであろうし、外部者である当方も聞く耳を持たなければならない。

農家が投資するにしても、投資する対象について十分な説明をすることが必要である。農家が自ら投資しよう（活動に参加しよう）と思いつくためには、活動がそれだけ魅力的でなければならない。村で説明会を実施してきたが、機会ある毎に丁寧に説明することが必要であろう。プロジェクトが負荷ではなく投資活動である、と農家が認識できるように説明を行う必要がある。プロジェクトでの成功事例の紹介を行い、普及活動において活用することが効果的であろう。

3.2.3 意思決定プロセスと能力向上プロセス

エジプトの農村では、農家は組織的行動を好まない傾向にある。また、本プロジェクトがエントリーポイントとする農協は、組合員である農家のお互いが顔の見えるような関係の組織ではなく、人口規模の大きな村において多数に亘る組合員農家へのサービスプロバイダー的位置づけにある。すなわち、農協を通じた活動であっても組織的な活動にはなっていない。

このような状況下で ISMAP 普及フローを進める際、活動が農家の能力向上というよりは、活動を進める意思決定の位置づけになる面があることが認識された。具体的には、普及フローにおける営農計画 W/S の実施である。市場調査の実施後に行われる営農計画 W/S は、農家が営農計画を作成するための能力向上のプロセスというよりは、技術支援の対象となる作物を選定する意思決定プロセスになっていることである。

ISMAP では、対象農家の参加の非継続性が大きな課題になり、この状況を前提に、活動に活発に参加している農家を集めたマーケティング協議会を形成し、このマーケティング協議会が市場調査の結果を踏まえつつ作付け候補に挙げた作物の収益性・市場性を検討して技術支援を受けたい作物の選定を行う方式とした。この選定作物を基礎にプロジェクトは TOT を企画し、またデモ圃を設置した。しかしながら、個々の農家は技術支援の対象となった作物以外にも含めて営農を行っており、この W/S を通してでは、個別農家の営農計画作成能力の向上への寄与としては弱いものとなっている。

意思決定プロセスとしては、現在の営農計画 W/S は参加型であり、農家の自律性欲求を支えるプロセスとして良いと思われる。すなわち、普及フローは、意思決定のプロセスと参加農家の能力向上の 2 重のプロセスとして機能していると言える。

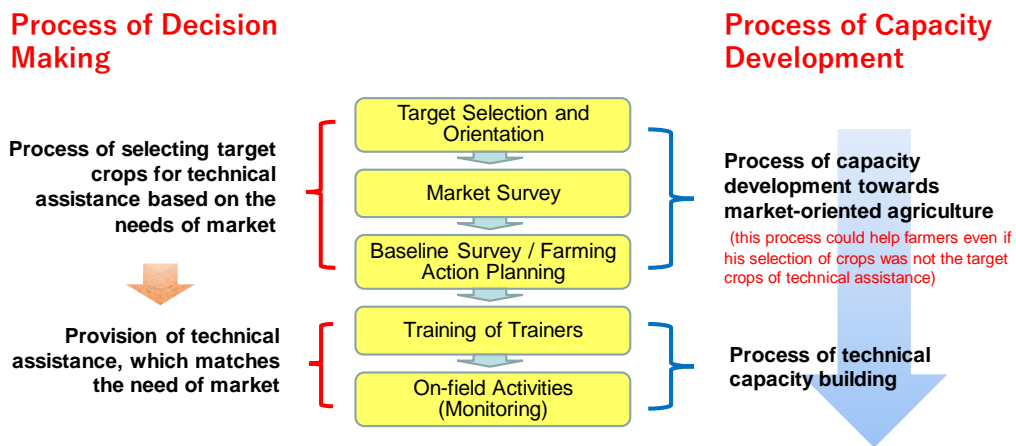


図 3.2.1 普及フローの意思決定・能力向上という 2 面性

しかしながら、上述のように選定作物は W/S で絞り込まれてしまうので、営農計画(農業経営)に関する能力向上については、別途研修を行う方がより効果的と考えられた。そこで、第 4 サイクルでは、TOT のこれまでの Farm Management の講義を改訂して演習付きの十分な時間を取る形式に変更したと共に、村毎にも講習を行った。市場調査に参加した農家は、選定作物以外にも市場調査の結果を個別の営農に活かすことが出来るので、たとえ、当初の営農計画 W/S で技術支援を受けられる作物以外の作物を栽培することを考えても、農業経営講義を個別に行うことにより、選定作物以外の作物を栽培する農家にも能力向上の機会を作ることが出来る。

普及フローにおける営農計画 W/S は、意思決定プロセスとしては、自律性欲求の充足を図るプロセスに位置づけられる。換言すれば参加型で行う意思決定のプロセスである。これに対し、農家の能力向上の側面は、市場調査、営農計画研修、技術研修といった活動を通じて有能感の充足を図るものとして位置づけられる(但し、意思決定プロセスも、判断力の向上、共労意識の向上等能力向上の要素を含んでいる)。

このように、ISMAP 普及フローでは、対象農家の自律性欲求を支える意思決定プロセスと共に有能感を得る欲求(コンピテンス欲求)を支える能力向上プロセスを意識して組み立てることにより農家のモチベーションをより高めていく工夫を行った。

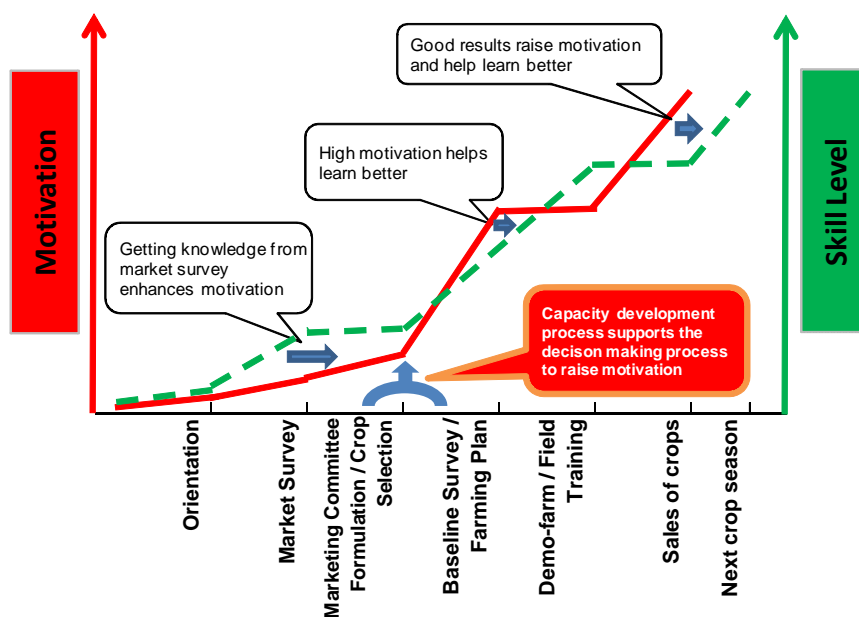


図 3.2.2 意思決定と能力向上のプロセスを意識したモチベーションを高める工夫

3.2.4 エジプト国の農業協同組合の位置づけ

農協の選定に際しては、意欲のある農協が手を上げてもらうことを意図し、プロジェクト活動参加に関心がある農協のみに質問票（Application Form）を提出してもらうという方式を採用していた。しかしながら、アシュート県の C/P は、全ての農協に質問票の提出を義務付けることとした。その場合、農協のプロジェクト活動参加意欲について質問する項目を質問票に入れることを提案したが、C/P の一部から、農協は意欲があるかないかにかかわらず、上からの指示事項は、業務として果たさなければならない、従って意欲を問う必要はないとの意見が出された。

1952 年のナセル革命以後、エジプトの農業協同組合は、農家の生産から流通までを統制する政府の末端機構としての役割を果たしていた。政府により作付けが統制され、農産物も農協を通して政府が買い上げる方式であった。1980 年代から農業自由化政策が本格的に導入され、1982 年に農協法も制定されて、農協は農民の組織として明確に規定され農民代表による理事会で運営されることになっている。しかしながら、実務を担当する農協の職員の給与はいまだ政府から支払われており、農協は民間の組織であると同時に政府の末端機構的な役割も引き続き負っているのが実情である。農協は農協法に基づいて自由に経済活動を行える組織である一方で、職員に対する政府からの給与補填なしには運営が困難な状況である。

MALR 職員（C/P）にも、農協はいまだ自分たちの下部組織であり、組織運営の観点から、上位部署からの指示には従わなければならないといった考えがあり（実際給与補填を行っているので、農協は農業事務所の指示に従う義務があるのも事実であろう）、関心ある農協に手を上げてもらうという方式に違和感を唱える背景になったものと言える。

エジプト国では、2015 年に農協法が改正されて、農協が民間企業と共同投資してビジネスを展開することが可能になった。本邦研修に参加したカウンターパートは、日本の農協の多面的な経済活動を目の当たりにし、エジプト農協法の改正と合わせて、エジプト国の農協の役割について、改めて考えていくきっかけとなったようである。農協を行政の末端機構にとらえるのではなく農村の経済主体としての農協が担える役割から、農協の支援を検討していく必要がある。

3.2.5 エジプトの農業市場構造を踏まえた戦略の検討

小規模農家の所得向上という目標に向かって試行錯誤を重ねてきたが、戦略的なストーリーを組み立てていくことが重要である。このため、エジプトの農産物市場構造を大枠で規定しつつ、それに対応した ISMAP の戦略ストーリーを整理して、普及フローの改善を行った。エジプトの農産物市場構造は、概略下記のように規定した。

- エジプトの市場構造を考えた場合、品質で勝負する場合は輸出市場および都市高所得者層向けの特許市場（有機栽培等）が主たる対象となる。輸出市場や都市特許市場への農産物販売は、アグリビジネス企業との取引（契約栽培等）が主たる流通経路となる。個別小規模農家では、組織化しない限り容易にアクセスできない市場である。
- 一方、ローカル市場では、品質は大きさや色などで差別化している部分もあるが、大半は作物の規格で大きく価格差を付けるような取引になっておらず、量的な取引が主体となっているように見受けられる。このため、農家も一つの籠に大小大きさの違う青果物を取り交ぜて、全部売り切るといった販売戦略を取りがちになっている。結果、作物の取引価格は、多くの供給者と多くの需要者が競う単一的な市場となり、需要と供給に大きく依存することになる。このような状況下では、作期をずらして端境期を狙った販売が有力な販売戦略となり得る。

表 3.2.1 エジプト農産物市場構造と活動の対応の明確化

| 市場構造と流通形態 | 普及フローの対応 | 技術支援の対応 |
|---|----------------------------------|---|
| 品質で勝負する場合は、輸出市場と都市の特殊市場。 これらの市場にアクセスするには農業ビジネス会社との取引（契約栽培やそれに準じた取引）が必要。 農家がグループとなってロットを作る必要がある。 | 品質勝負＝ビジネスダイアログ ＝官民連携 | 農協等が企業との調整を行い、参加農家を募る。官民連携による技術支援を行う。 官：農民組織化、調整、技術指導 民：資材提供・技術指導・買取り |
| ローカル市場では、品質差よりも販売時期による勝負がよりポテンシャルがある（端境期出荷）。 ローカル市場に直接あるいは仲買人を通して、農家が個別に販売。 | 主として出荷時期調整で勝負＝ 市場調査＝デモ圃場による展開 | TOT 実施後、デモ圃場を設置して普及員による技術指導。 デモ圃場に関わる農家をグループ化して、技術指導の機会を増やす。 |

このような市場構造を踏まえ、普及フローは、ローカル市場をターゲットとする、市場調査研修を主体とした普及フローと、ビジネスダイアログを、小規模農家との契約栽培に関心がある企業が現れた場合に、随時実施するフローの2つのフローに区分することとした。これに女性活動の普及フローと合わせ、ISMAPの普及フローは3つの独立したフローを形成することとなった。

経営面積の限られた小規模農家にとって、小麦のように政府が安定して買い取る仕組みのある作物と比較して、野菜といった園芸作物は、栽培の経験が少なく、かつ費用や手間がかかるが、変動の大きな市場を買い手とするとリスクが高いと捉えられる傾向がある。

一方で、デモ圃などの技術的な支援を享受した農家は多く、デモ圃の運営に関わった農家は野菜などの園芸作物への栽培を継続することに意欲を示している。また、対象農家のみならず周辺農家への波及効果も認められている。こうした実際に目に見える形での成功体験は農家の保守的な姿勢を解く鍵になると考えられる。

農家の市場リスクを回避しようとする不安感を軽減し、より積極的な市場志向の取り組みを促すためには、マーケティングに係る活動（市場調査やビジネスダイアログ）と、それに基づいた戦略的な営農のストーリーを、農家にも最終的な収益向上につながる道筋までが見える形で共有することが重要である。それぞれの農家が目指す戦略（目指す売り先別、例えば、輸出業者との契約栽培であれば品質管理技術、ローカル市場であれば端境期を狙った栽培技術など）、栽培する作物に応じたデモ圃場での栽培研修という関連した流れを作る必要がある。

3.2.6 対象農家の参加の非継続性とマーケティング協議会の形成

第1サイクルの実施過程で、最も大きな課題として認識されたのは、対象農家の参加の非継続性であった。当初から参加した対象農家213名のうち約半数の46%は、第1回目のワークショップ（ベースライン調査）以降の活動に参加しなかった。第1サイクルでは、営農計画作成ワークショップまでに、6回の活動を行っているが、6回全てに参加した農家は、合計で11名（5%）に過ぎなかった。5回以上参加した農家でみても33名（15%）に過ぎなかった。

SHEPアプローチにおいて、各活動のリンケージを考慮した積み重ねが、モチベーションとスキルアップの相乗効果を高めていくことになる。対象農家の継続的な参加が得られない状況では、この活動の積み重ねによるモチベーションとスキル・知識の相互作用による向上が期待できず、成果の発現に影響を及ぼすことが懸念された。

対象農家の参加の継続性が確保されない要因の一つは、農協の管理能力の脆弱性と考えられた。農協職員は、基本的に農家の代表である農協理事を通じて対象農家への連絡をとっているが、農

家に必ず来るようには強制できないと述べていた。また、農家が活動に関心を持てば、自ずと継続的に参加するはずであるが、プロジェクトがどのような活動を行っていくかを、継続的に説明を行ってきたものの、参加してきた農家の思惑と必ずしも一致しなかった、あるいは十分に理解されなかった、という点もあるであろう。これは、活動のサイクルが若干長過ぎたため、農家への継続的参加への意識を弱めた可能性も考えられる。また、農家側も農作業も含め様々な活動をしており、同日に一同が常に集まることは困難であったとも言える。

2015年3月6日から13日にかけて実施された運営指導調査においてもこの課題について協議し、農家の継続参加を促す対策を強化する方針で、第2サイクルに臨む方針とした。継続的参加の強化対策として、以下の改善点を考え、第2サイクルで実施した。

- 第2サイクル実施郡での村農協代表への説明会や、選定農協での農家への説明会において、第1サイクルの活動写真を用い、活動をより分かり易く伝えられるように工夫した。
- 普及フローの大きなパネルを作り、各選定村農協に設置し、活動全体の流れが判り易くなるようにした。毎回のW/Sでも、このパネルを用いて説明を行った。
- W/Sでは、前回の活動のレビューを最初に行うようにし、活動の継続性が認識され易いようにした。
- 農家選定においては、能力向上のポテンシャルが高い若い層を多く募ることを農協に要請した。また、女性枠を設け、女性参加者を10人は募ることを要請した。結果、第1サイクルより第2サイクルの方が、参加農家の平均年齢は下がり、また参加農家の妻ではなく、参加当事者としての女性も各村で10名前後が集まった。
- 当初選定された農家にパスポートを発給し、活動参加記録が農家の手元に残るようにすることで農家の継続的参加意欲を促すことを狙った。パスポートは、最初のW/S時に参加農家の写真を撮影し、パスポートとして用いるノートに貼り付けた。写真撮影は農家に好評であった。
- 途中から参加する農家も容認し、ベースライン調査+営農計画W/Sを実施する際に、途中から継続参加する農家も含めて対象に含めることとした。実際に、途中から参加して継続的に参加する農家も出てきた。
- 普及サイクルの実施の迅速化を図り、対象農家の活動参加への意識が途絶えないようにした。これは、C/Pが第1サイクルで実施方法や、農業ビジネス関係者の情報等を蓄積できていたので、第2サイクル以降の迅速な実施が可能となった。

しかしながら、これらの改善策の効果も限定的であり、参加の継続性を十分に担保できなかった。このため、より抜本的な改善が必要となった。プロジェクトの実施体制においては、県→郡→農協→対象農家という体制で、農協部と普及部の連携で活動を実施してきた。市場志向型農業のコンセプトの共有は、行政側、すなわち県、郡、および農協職員まではなされていたが、農家の参加の非継続性の課題から示唆されるように、対象農家レベルへのコンセプトの共有ができていない事が課題であった。

エジプト国農村では、集団活動を好まない傾向があり、また村農協も元は全国一律に各村に設置された官制農協であるため、農民自らの組合という意識も低い。しかしながら、40世帯を対象農家として選定し活動を共にすることから、言わば40人のグループを組織した形にもなり、活動が集団行動化していたとも言える。この点がエジプト農民の気性もあって、継続的参加が困難であった一因とも考えられる。

そこで意欲ある少数農家が農協と協力して、彼らを村の代表者として扱い、研修等を通じて得られた情報・知識を他の農家へ伝えてもらうという方法に転換し、意欲ある農家の継続的参加を確保し、コンセプトの農家レベルまでの共有の基礎とすることを考えた。また、第1サイクルの

デモ圃場での活動の教訓により、5人程度の農家であれば協同作業を実施できたように、明確な目的の下に適切な人数とやり方を工夫すれば、ある程度のグループ活動も実施可能であることが示唆された。

他国の事例として、ルワンダ国の技術協力プロジェクト（SMAP）では、園芸作農業協同組合（農協）を対象とし、この農協の代表者に対し研修を実施している。ルワンダ国の農協は、メンバーのお互いの顔が見える農民組織であり、農民が自ら組織した組合になっている。すなわち、代表に研修を実施したらその内容が組合員に伝わる土台がある。さらに農協は共同圃場を有しており、そこで研修を実践するようにプロジェクト活動をデザインしているため、代表に伝えた情報・知識がメンバーに共有され易い。

翻って、エジプトの農協は、上述のように官制農協の根を有し、しかも規模が大きいので組合員全員が全員を知っているようなお互いの顔が見える組織ではない。このため、農協をエントリーポイントとしつつも、サービスプロバイダーとして、ある程度農民との調整役としての役割を担うことが期待されるため、本プロジェクトの成果3で農協の強化も活動に含まれた所為であろう。

農協の能力や職員あるいは農協理事の意欲もまちまちである。このため、農協関係者に加えて、少数に絞った参加農家（篤農家やビジネスとしての農業に強い関心のある農家であることが想定される）を交えての、村で核となるグループを組織することが考えられた。核となるグループを組織する際、参加する農家については、このグループの正式メンバーであるという地位を認定するため、このグループをマーケティング・コミティー（協議会）、という名称を付けて活動を推進することが考えられた。内発的動機に基づいて活動を進める人材を、少数ではあるが確実に村内に作っていくという戦略である。

ここで課題となるのは、この意欲あるメンバーをどのように見出すかであった。第2サイクルまでの経験から、活動を進めていくとその過程で毎回参加してくる意欲ある農家が見えてくるので、まずはこれまでと同様に幾つかの活動を実施し、その過程で見えてくる意欲ある農家を集めてマーケティング協議会を形成することが考案された。このようなプロセスで、意欲ある農家を絞り込み、加えて継続参加が可能な農協職員や農協理事と合わせて、推進協議会（マーケティング協議会）を村ごとに設置し、この協議会が営農計画や契約栽培計画を立てる。そして、協議会が改めて村に計画参加を呼び掛け、関心のある農家を募ると言う方式を採る。県→郡→農協→対象農家という体制から、県→郡→推進協議会→農家への伝搬という体制への変更を行った。

1. 当初の活動（オリエンテーション、ビジネスダイアログ、市場調査の3回分ぐらい）は、これまでどおり40人程度の関心ある農家を募って実施する。
2. この活動を通して、意欲的で活発な農家が見えてくるのが期待できるので、この意欲的な農家（10人程度）を集めて協議会（マーケティング協議会）をコアグループとして形成する。
3. このコアグループが主導して、技術支援を受ける作物や契約栽培を試みる作物を選定する。
4. これらの対象作物が決まった時点で、再度村で各作物の栽培に関心がある農家を募り、これらの農家をリストアップする。
5. 対象作物毎にリストアップされた農家を作物部会とし研修や契約栽培支援を実施する。

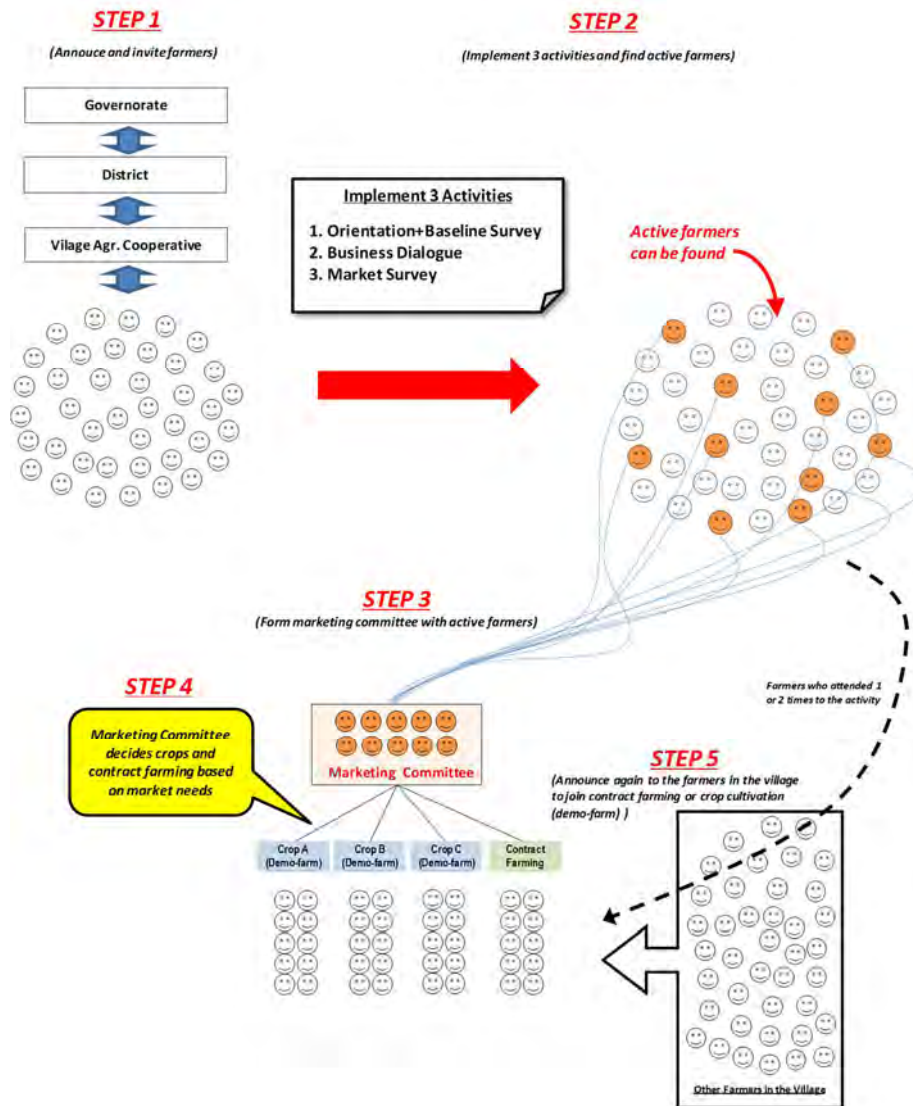


図 3.2.3 マーケティング協議会の導入と活動のステップ

3.2.7 デモ圃活動によるマーケティング協議会活動推進の仕掛けの検討

第3サイクルから導入したマーケティング協議会は、将来的には村の農業振興で中心的な役割を果たすよう継続的な組織になることを展望するところでもある。しかしながら、プロジェクト活動への継続参加農家は、プロジェクト活動に関心があり意欲的に参加してくれてはいるものの、必ずしも村全体の利益や将来の発展を常々考えている農家とは限らない。そのため、協議会が村の振興を担う中核組織に育つかどうかは、この協議会結成の背景としては十分にそれを胚胎しているとは言えない。

当初の対象農家から、継続的活動参加を指標に絞り込まれた農家の集まりである協議会は、この協議会のみがプロジェクトの対象受益者であると誤解されないようにする必要があった。そして、協議会が村のリーダー組織として機能し、そのように育つような工夫を検討する必要があった。この点について、契約栽培の推進と営農計画に基づく技術研修活動を活用して、協議会と村の農家との連携－利害の共有の仕掛けを検討した。

従来のように、相当規模（1feddanが基本単位）のデモ圃を設立し、一人または少数の農家が管理者となって、デモ圃による研修を実施する場合、不特定な展示効果は望めるものの、デモ圃で

の研修に関心を示す農家とデモ圃活動を主導する協議会の関連は気薄になり、あるいは協議会だけがデモ圃活動を独占してしまうという危惧も考えられる。デモ圃活動を巡って協議会と他の農民が関心を共有して効果的な活動となるよう、以下のアレンジを検討した。

- 研修実地の場としてのデモ圃を設け、当該作物栽培に関心のある農家の研修参加を募る。
- 参加する農家には、1karat (約 420m²) 程度の栽培方法を試すのに十分な程度の少量の資材 (種子、肥料等) を提供する。参加農家は、この小片の農地でデモ圃を見て来期に試すのではなく、すぐにトライアルを行えるようにする (この参加農家の試行圃場をトライアル圃と呼称する)。
- 参加農家が試みる面積はごく少量であることから、個別での販売は困難であることが想定される。そこで、協議会が、各参加農家のトライアル圃からの収穫物を集めて出荷することを試みる。これは共同出荷の試みであり、プロジェクトとしては、協議会の活動活性化のための試みにもなる。そして、協議会と他の農家の利害の共有を図るものである。

このデモ圃活動のアレンジは、いわゆる農家への補助金付与施策という考え方ではなく、研修活動の一環としての資材供与という位置づけである。例えば一人 1feddan といった規模で資材を供与すると農家の所得補填といった意味合いが実質的に強まり、資材を供与されなかった農家からは嫉妬を買う懸念も出てくる。また、MALR も補助金付与の施策を広域的に行える能力はない。

ここでは、参加農家に供与する資材を極少量にすることによって、それが大きな金銭的利益をもたらすものにはならないようにコントロールする。このことで、他の農民から嫉妬を買うようなレベルでもなくなる。農村での資材投入では、周囲の農家による嫉妬ということが活動展開の阻害要因になっていることがこれまでの活動からも看取されるところであり、このような村の状況も勘案し、協議会という村のリーダー組織の牽引により、限られた投入で研修の効果を最大限高めるため、デモ圃活動にトライアル圃を加えて試行した。

プロジェクト活動の実施結果としては、実際の試行農家の数は少数にとどまり、共同出荷の試みにも至らなかった。しかしながら、こういった取り組みの有効性は、マーケティング協議会の意義を高めていくうえでも、引き続き検証していく必要がある。

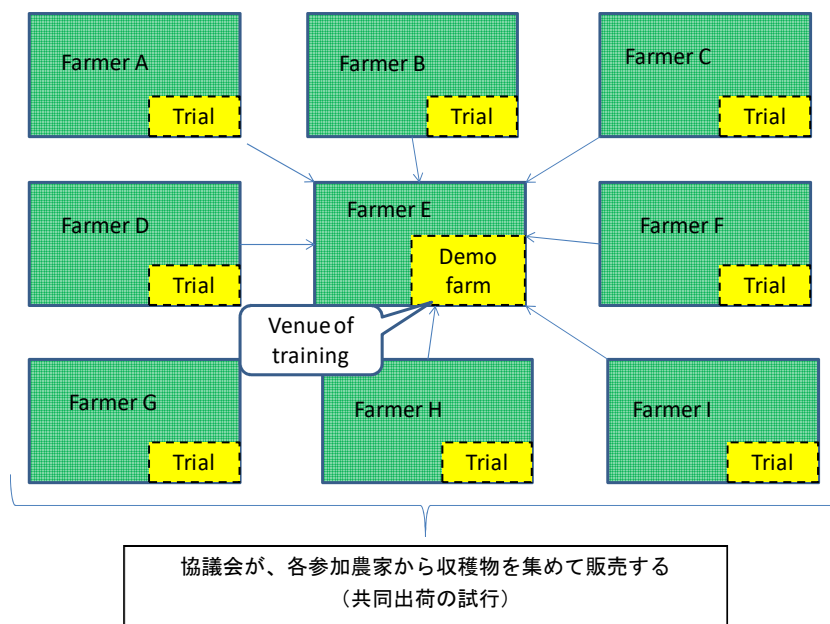


図 3.2.4 トライアル圃場の位置づけ

3.2.8 デモ圃場の運営

プロジェクト活動を通して、技術の伝播に効果的であると判断されたデモ圃場設置による圃場研修の運営について得た教訓を下記に整理する。

- 本邦研修で C/P が学んだ様に地域の経験豊富な農家にデモ圃場を設置し、多くの周辺農家がデモ圃場を見学を訪れているケースもあり、今後地域の篤農家に設置したデモ圃場を活かした技術普及も選択肢の一つとなろう。
- デモ圃場を開設する場合は参加する小規模農民ではなく、農地利用に余裕のある大規模農家の農地の一部活用も有効である。
- 初めて園芸作物（トマト、キュウリ）を栽培する農家がデモ圃場を運営する場合、農協の普及員から毎週或いは隔週技術指導を受けられるデモ圃場は、自分だけで初めて新しい作物を栽培する場合に比較して、失敗するリスクを最小化することが可能となり、当該農家にとって極めて有益と考えられる。ただし、その場合は裨益者数になるべく多数となる様、グループ運営のデモ圃場にする等の工夫や仕掛けも重要になると考えられる。
- デモ圃場の設置が遅れたことに起因して、凶らずもトマトの収穫期が端境期に重なって高値で販売されたケースもあり、思わぬ効用も見られた。デモ圃場設置時期を故意に後ろ倒しとし、同様の効果を当初から意図することも考えられる。しかし、思惑通りに作物価格が推移するとは限らず、失敗するリスクを勘案の上実施の可否を検討する必要がある。デモ圃の前作との兼ね合いなども考慮する必要がある。

3.2.9 女性の生計向上活動における課題

第2サイクルでは、女性がグループで管理を行うモデルユニットの作成（家畜の配布、薬剤や飼料等の飼育費用は女性が負担）を行った。男性を対象とした栽培技術の普及の場としての展示圃場への資材の一部提供と同様、女性が行う家畜飼育の技術普及・展示の場としての機能を期待したものである。この点につき、第2サイクルでは、モデルユニットが屋内にあり、人目に付きにくいことや、女性が外部者に家畜を見ることに消極的であったため、結果としてプロジェクトが意図した技術普及の場としての機能が働きにくい状況であった。

この点については、女性活動の技術普及モデルとなる対象女性を中心とした周囲の女性への波及を狙うという考え方から、農村女性ができる経済活動を支援するに際し、外部ドナーがどのようなアプローチをとるべきか再検討することとなった。

再検討に当たっては、村の貧しい女性には資材を無償提供して下駄をはかせてあげるべきであるといった社会福祉的支援の思考からの発想転換が一つの課題であった。モデルからの波及という方向が機能しない場合、村で社会福祉的支援により裨益を拡大するためには、予算を増やしていくしかない、ということに帰結してしまう。しかし、これは政府の負担を増大させることになり必ずしも可能な方法ではないと考えられた。

検討の結果、プロジェクトからは資金的投入を行わず研修のみを実施し対象女性農家が自ら調達に係る経費を支出する、と言う方向で進めるに至った。多くの村では女性達がお金を少しずつ出し合い、それを一人に集めてその人が家禽用ケージ購入等の投入を行い、これを順々に行っていく、いわゆるメリーゴーランドを行う村もある。こういった頼母子講的な慣習が村にはあるので、こういった慣習も合わせる形で普及活動を行うことが検討された。

技術支援のみで、金銭的支援を得られないと分かると活動から脱落する女性もみられたが、残っている女性達は、技術研修だけでも価値のあるものであったようであり、ビジネスプランを作

成後、随時活動を自己資金で開始した。女性支援活動においては、市場調査+ビジネスプラン作成+技術研修+定期的なモニタリングの組み合わせで、対象女性の内発的動機付けに働きかけることができる。

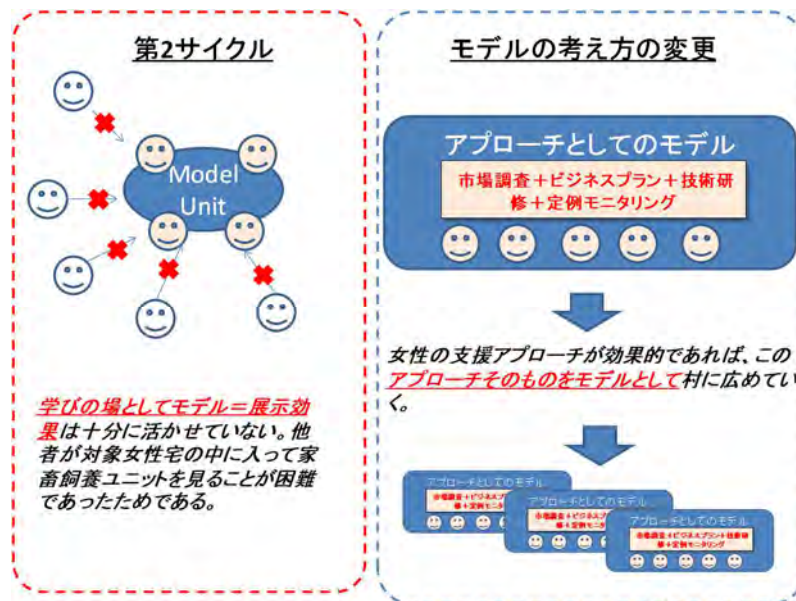


図 3.2.5 モデル：展示効果を狙うデモ圃からアプローチのモデル化へ

第4章 プロジェクト目標の達成度

4.1 プロジェクト目標の指標達成度

終了時評価に先立ってプロジェクトチームで指標の検証を行った。結果を下表に示す。詳細は、添付資料のエンドライン調査報告書に取りまとめている。

表 4.1.1 プロジェクト指標達成状況

| 項目 | 設定指標 | 達成状況 |
|--|---|---|
| <p>[プロジェクト目標]:</p> <p>Agricultural incomes of the small-scale farmers and surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased.</p> | <p>a. The agricultural incomes of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased by 6% - 37% by household and village.</p> <p>b. At least 30% of the women who practice the ISMAP Approach have made a business plan and practiced the market-oriented activity based on the plan.</p> <p>c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased.</p> <p>d. More than a half of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach changed their farming style toward market based.</p> | <p>a. 計 20 対象村のうち各村の所得増加率目標値と比較し、18 村は、事業実施後の 2 年間でいずれか 1 年は目標率を達成している。農業所得は価格の乱高下などにも左右されるため、事業実施後翌年に目標を達成していても、翌々年に目標を下回った村もある。ミニア及びアシュートで各々 1 村、計 2 村のみ 2 年間で目標達成に至らなかった。</p> <p>b. ビジネスプラン研修に参加した 66 人の女性のうち、実際にビジネスプランを作成して実践している女性は 52 人 (79%) にのぼり、指標は達成されている。</p> <p>c. 第 1 サイクル対象村で平均約 55% の農家 (調査対象 16 農家)、第 2 サイクル対象村で平均約 60% (調査対象 20 農家)、第 3 サイクル対象村で平均約 70% (調査対象 14 農家) の農家がプロジェクト参加後の農業所得が向上したと回答。</p> <p>d. 指標は達成している。ミニアでは調査農家 166 人中、141 農家 (約 84.9%)、アシュートでは調査農家 259 人中 230 農家 (88.8%) が ISMAP アプローチに基づく営農計画を取り入れていた。</p> |
| <p>成果 1</p> <p>Market-oriented extension approach is established.</p> | <p>a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated.</p> <p>b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders.</p> <p>c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).</p> | <p>a. 作成済み</p> <p>b. 回答者 18 人の平均が 4.33 (5 が 6 名、4 が 12 名) となり、指標は達成されている。</p> <p>c. 承認済み。</p> |
| <p>成果 2</p> <p>Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.</p> | <p>a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made.</p> <p>b. More than 70% of the examined and developed agricultural</p> | <p>a. 作成済み</p> <p>b. C/P 機関はすでに多くの普及教材を有しており、これらを基本的にプロジェクトの教材として採用し TOT を実施した。</p> |

| 項目 | 設定指標 | 達成状況 |
|--|---|---|
| | techniques are included to the Training of Trainers for extension staff. | プロジェクトで整理した教材も TOT 教材をベースに作成し TOT でも活用しているのではほぼ 100%活用したものとみなされる。 |
| 成果 3 Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented. | a. プロジェクト対象村 20 村において活動計画を作成済み b. ミニア県全体の平均達成率は 69%、アシュート県全体の平均達成率 72%。両県を合わせた全体平均は 70.5%となり、指標は達成された。 |
| 成果 4 Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives. | a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. | a. 各村共通の普及計画を策定し、年間のターゲット農家数を対象ごとに設定したものを作成済み。 b. 対象村農協内においては、プロジェクトでの学びを取り入れ市場志向型農業を実践する小規模農家（対象農家及び周辺農家）が存在している。 |

4.2 終了時評価の実施

2019 年 11 月 4 日から 21 日に亘り、日エ合同評価チームによる終了時評価が実施された。日本側 4 名、エジプト側 2 名によりなる評価チームは、関係者インタビュー、現地調査、資料確認等を実施し、評価報告書を作成した。評価結果および提言は、11 月 21 日に開催された第 8 回 Joint Steering Committee にて発表された。終了時評価の結果は以下の通りであった（原本英語を意訳）。

表 4.2.1 プロジェクト終了時評価の結果概要

| | |
|-------|--|
| 全般 | プロジェクト目標は、プロジェクト終了までに達成される見込みであり、本プロジェクトは所期の目標が達成されたとみなされるため、予定通り終了すべきである。 |
| 妥当性 | 高：エジプト、日本双方の政策と整合、農村部の貧困削減のニーズに適合 |
| 有効性 | 高：プロジェクト目標の指標はほぼ達成されている。プロジェクトの波及は当初の期待以上である。 |
| 効率性 | 中：プロジェクトの成果自体は出ているものの、エジプト側の費用負担がなされなかった。また C/P の管理職の頻繁な交代があった。 |
| インパクト | 正のインパクトが期待される：正のインパクトは観察され、負のインパクトは観察されていないが、上位目標の達成には MALR 予算の不足が懸念事項である。 |
| 自立発展性 | 比較的低い：政策的支援は期待されるものの、MALR の予算不足と普及員の不足が自立発展性への阻害要因である。 |

4.3 終了時評価後のフォローアップ

4.3.1 終了時評価からの提言の実施

終了時評価チームによるプロジェクトへの提言に対し、プロジェクトチームは、カイロ、ミニアおよびアシュートで各々共有し対応策を協議した。プロジェクトへの提言と対処状況を下記に整理する。

表 4.3.1 終了時評価における提言とプロジェクトチームによる対処

| 提言 | 対処状況 | 時期 |
|--|--|--|
| 1.プロジェクトチームへの提言 | | |
| 1.1 全対象村のフォローアップ Marketing Committee の再活性化等のフォローが必要 | 各村の農協職員および Marketing Committee を招聘した W/S を開催した。ここで Marketing Committee の役割を明確化するとともに、第 | 2018 年 12 月 17 日 (ミニア)、24 日 (アシュート) で実施。 |

| 提言 | 対処状況 | 時期 |
|---|---|--|
| | 1 及び第 2 サイクル対象村では Marketing Committee の設立指導をおこなった。結果、全ての対象村で Marketing Committee が設立された。 | |
| 1.2 Marketing Committee Marketing Committee の重要性や役割、アグリビジネスとのリンクなどでリーダーシップをとるべきことを Committee メンバーが理解する必要がある。 | 上記 1.1 の W/S で Marketing Committee の目的や役割、活動等を明確化、共有した。また普及マニュアルに Marketing Committee の役割を明記した。 | 同上 |
| 1.3 契約栽培の支援 農協や県農業事務所に契約栽培における農家のリスクを最小にするよう支援する技術的法的支援機能を持たせるべきである。 | 中央に設置されている契約栽培 Center と県農業事務所の農協局 Marketing Management 部が契約栽培の農家支援でコミュニケーションをとるように県農業事務所で協議した。 | プロジェクト終了まで継続して伝達 |
| 1.4 更新技術の普及 第 1 サイクルや第 2 サイクルの対象村では、プロジェクト活動で更新した技術が伝えられていない状況なので、全対象村に対し技術の更新情報の伝達が必要である。 | 郡及び対象村の職員を集めたセミナーを開催し、最新の普及マニュアルの内容を伝達し、情報のアップデートを行った。 | 2019 年 2 月 4 日（ミニア）及び 2 月 5 日（アシュート）で開催。 |
| 1.5 モニタリングの強化 Technical Committee の定期的モニタリングを継続すべきである。 | 1.4 のセミナー開催時に合わせてモニタリングを実施した。 | 2019 年 2 月 4 日、5 日に実施。 |
| 1.6 女性活動のフォローアップ 女性活動のマニュアルの最終化、現場普及員ヘジェンダーTOT、ステークホルダー向けの知識共有セミナーの実施。 | アニュアルを最終化した。 現場普及員への TOT を実施した。 知識共有セミナーを現場で開催した。 | 2019 年 3 月最終化。 2018 年 12 月 10 日（アシュート）、11 日（ミニア）実施 2019 年 2 月 27 日開催 |
| 2. エジプト側への提言 | | |
| 2.1 予算の確保 プロジェクト活動予算の確保への努力継続 | カイロ C/P は予算執行手続きを継続して行う。 | プロジェクト終了後も継続 |
| 2.2 農協の予算活用 農協からの予算支弁も継続的に働きかけていく。 | 中央レベルおよび県レベルで引き続き農協の予算活用を働きかけていく。 | プロジェクト終了後も継続 |
| 2.3 ISMAP 実施ユニットの設立 実施ユニットは承認されるべきである。 | 2018 年 11 月 25 日に大臣承認がなされ、ISMAP 実施ユニットが正式に立ち上がった。 | 2018 年 11 月 25 日大臣承認 |
| 2.4 普及員の対象村へのアサイン 普及員が定年で不在となった村への普及員配置が必要である。 | プロジェクトダイレクターから大臣に課題解決の協議を行う。 | プロジェクト終了後も継続 |
| 2.5 IT 技術の活用 普及の促進を図るため、IT 技術の活用を検討すべきである。 | ARC が Vodafone と提携して SMS で技術情報を流している実績がある。MALR の Web site を活用する。C/P は IT 技術活用の情報を収集し活用を検討する。 | プロジェクト終了後も継続 |
| 2.6 周辺村のベースラインデータの収集 上位目標の事後評価実施を念頭に置き、周辺農家のベースラインデータを収拾すべきである。 | ISMAP 実施ユニットはベースラインデータの収集を行う。普及フローのステップにベースライン調査も含まれるので、普及フローの実施でベースラインデータも収集される。 | プロジェクト終了後に実施となる |
| 2.7 ジェンダー主流化の促進 ジェンダー主流化を促進する普及メカニズムを中央レベルから構築していくべきである。 | プロジェクトでは、中央レベルの職員を対象としたジェンダーW/S を実施した。 | 2019 年 1 月 27 日実施 |
| 3. 日本側への提言 | | |
| 3.1 中東での SHEP 研修 ISMAP の経験や成功事例を共有する研修プログラムを中東諸国対象に実施すべきである。 | 2019 年 3 月 5 日の JSC 会議にて、JICA エジプト事務所より、ISMAP 実施ユニットの稼働状況をモニタリングして、近隣国を招待した W/S の開催を判断すること説明。 | |
| 4. エジプト側評価者の提言 | | |
| 4.1 成功事例の記録 デモ圃の経済分析も含め、プロジェクトの成功事例をより多く記録すべきである。 | 成功事例を集めた冊子を作成した。 | 2019 年 2 月冊子作成 |
| 4.2 Marketing Committee の登録 農協法の枠組みで Marketing Committee の政府登録を進めるべきである。 | 1.1 の Marketing Committee 対象 W/S 開催時に登録について農協に説明し、農協下での登録がなされた。 | 2018 年 12 月 17 日（ミニア）、24 日（アシュート）で実施 |
| 4.3 収穫後処理の研修 収穫後処理に関する研修にも焦点を当てるべきである。 | 冬作のデモ圃での収穫時での研修に含めた。 | 2019 年 1 月 13 日ミニア県での研修等で実施 |

4.3.2 ジェンダー主流化活動に係るセミナーの実施

2019年2月27日に、UN Women との共同セミナー、「Seminar on Approaches of Women's Economic Empowerment in Rural Upper Egypt – Field Experiences of ISMAP (MALR-JICA) and WEPP (UN Women)」をミニア市において開催した。本セミナーは、終了時評価の提言の一つ（上表 4.3.1 の 1.6）に応えるものでもあった。セミナーの目的は、ISMALP の成果を広く外部の組織と共有して参照してもらうとともに、今後の連携も含めたネットワーキングも目的とした。

セミナー開催に当たっては、ジェンダー関連支援活動において、ドナー間で主導的な役割を果たしている UN Women と共同した。UN Women の Country Director が JICA エジプト事務所を訪問された際、チーフアドバイザーも同席して本セミナーについて説明したところ、共同を快諾いただき、共同セミナーの運びとなった。双方の経験を共有することにより、より厚みのあるセミナーにすることができた。

セミナー開催場所は、プロジェクト地域であるミニアで行うこととした。カイロで実施してより多くのドナー参加を促すことも検討したが、プロジェクトの受益女性が参加しやすくすることで、女性たちの声を直接セミナー参加者に届けることができること、現場の雰囲気や少しでも感じつつ討議することも有益であろうこと、また現在ミニアやアシュートで活動する NGO 等も参加しやすくすること、等のメリットを考慮して最終的にミニアで実施することとした。

招待状は、MALR の C/P 部署以外の ARC 等にも招待状を送ったほか、ISMALP の News Letter を配信している組織、またジェンダー専門家が広く持っているネットワークを使って、エジプトでジェンダー関連プロジェクトに携わる組織に招待状を送付した。招待状送付先は約 30 の組織（DP、政府組織および NGO）および約 10 の民間企業に送付した。

セミナー参加者は 100 名を超える人数が集まった。カイロや他県（Fayoum）からも JICA 関係者を除いて十数名が参加された。IFAD、FAO、WFP、Italian Cooperation Fund、Climate Change Project 等の国際機関及びそれらが実施するプロジェクトに従事しているコンサルタント、CARE International、Assiut Business Women Association 等の NGO が参加された。そしてエジプトのジェンダー関連の National Machinery である National Council of Women（NCW）からもミニアおよびアシュートの県事務所から参加いただいた。

UN Women のプロジェクトである WEPP（Women's Employment Promotion Program）は、食品企業などの雇用女性の労働環境を改善して、農村女性が雇用労働に出る事への理解を促すこと、また労働環境の改善が企業の利益にもつながることを示すプロジェクトを行っていたことから、ミニア県やアシュート県でビジネスダイアログに参加していた地元の企業も招待した。ミニアの食品企業がセミナーに参加した。

プレゼンテーションへの関心は高く、パネル討議においても多くの質問が出された。パネル討議では、本セミナーに日本から参加していただいた国際協力専門員に、まず 2 つのプレゼンテーションへのフィードバックを行っていただき、論点の整理を頂いた。また、他国の JICA の取り組みも紹介いただき、討議の視点を提供いただいた。

時間の関係もあり、ステークホルダーをどのようにつなぐかということと、プロジェクトが終了した後の持続性に焦点が当てられて議論が進められた。この議論にそって、ジェンダー関連支援のエジプト政府中核である NCW にフロアーから発言が求められ、NCW の代表は、政府の中心機関としての連携の役割と自らのコミットメントを強調した。また、MALR 関係者も他機関との協力について言及した。更に持続性に関連して、MALR の農協中央部長は、ISMALP のプロジェクト終了後は実施ユニットが設立されて活動を引き継ぐことを力強く表明した。

また、興味深い議論として、参加者の一人から、「みんなでどうやって女性をエンパワーするかと議論しているが、女性は既に力を持っているのだ」という虚を突くコメントが出て会場が沸き、討議に清々しさが流れ込んだ。様々な視点から柔軟に考える糸口が参加者に与えられた良い場面であったと考える。

最後のセミナーのとりまとめでは、チーフアドバイザーから、パネル討議を踏まえ、「農村女性は既に力がある。我々のような外部者ができることは、女性たちが力を発揮できるように環境を整える支援を行うことである」という言葉で本セミナーを締めくくった。セミナー結果は Proceedings としてとりまとめを行った（添付資料 8-2）。

4.3.3 プロジェクト最終セミナーの実施

2019年4月16日に、カイロにてプロジェクトの最終セミナー（Project Completion Seminar）を開催した。本セミナーは、プロジェクトを終了するにあたり、プロジェクトの経験と成果を対外的に発表すると共に、プロジェクト終了後に活動を継承する ISMAP 実施ユニット（ISMAP Implementation Unit）の立ち上げを記念する引継ぎ式を行うことを目的とした。

本セミナーでは、プロジェクトチームを含め 106 名が参加した。C/P 以外を含むカイロ、ミニアおよびアシュートからの MALR の職員および対象農家（女性含む）の代表で約 80 名の参加があり、開発パートナーや民間企業等から約 20 名の参加があった。開発パートナーでは、AFD、USAID、Italian Cooperation Fund 等の開発援助機関、また Knowledge Economy Foundation（KEF）、CARE、FAODA といった NGO が参加された。更に日系商社も 2 社参加された。

当初は、MALR 大臣の出席が予定されていたが、直前に大臣に海外渡航の予定が入り、大臣代行として ARC 所長が出席された。セミナーのオープニングでは、ARC 所長、農業普及局長、プロジェクトダイレクターである農業サービスフォローアップ局長及び JICA エジプト事務所長からスピーチを頂いた。スピーチ後に、C/P に対し、Certificate の授与が行われ、記念撮影が行われた。

休憩をはさんで、プロジェクトチームから ISMAP の概要、経験と成果、および実施ユニットの立ち上げについて発表を行った。まず、チーフアドバイザーがプロジェクトの背景、目的、SHEP アプローチ等について説明した。続いて C/P メンバーから園芸作プロモーションおよびジェンダー主流化活動の経験や成果を発表し、最後にプロジェクト終了後に活動を継承する ISMAP 実施ユニットについての説明を行った。実施ユニットは MALR 大臣にその設立を承認され、農業サービスフォローアップ局長を中央の Coordination Committee の議長として、カイロ、ミニアおよびアシュートに Project Management Unit が設立されることが報告された。更に、新たにソハグ県を追加して活動を拡大していくことも報告された。県普及計画も報告され、MALR の Sustainable Agricultural Development Strategy が目標年とする 2030 年までに対象県の約 20% の農村をカバーすることが報告された。

Open Discussion では、MALR 職員、NGO、農民代表等各関係者から有用なコメントが出された。農業サービスフォローアップ局長が、専門農協の活性化の必要性を唱え、農家が専門農協は機能していないことを訴えるなど、農家から実情に基づいた MALR への要請が訴えられる一幕もあり、活発な討議がなされた。また、挙げられたコメントは、実施ユニットの活動に反映することを C/P がフロアーに約束した。下記に主要なコメントを記す。

- 農民を組織化し契約栽培などの販路を拡大していくためには農協を強化していく必要がある。
- 予算を確保するために農民から技術支援のための費用を少額でも徴収していくことも考えられる。

- 普及局が有するトレーニングセンターを活用していくべきである。
- 契約栽培においては、企業側が契約条件を途中で彼らに有利なように変えてくるといった農家からの現状説明に対し、MALR 中央で契約栽培センターが設立されたので、そういった課題に対処していく旨が、同センターの責任者から説明された。
- ISMAP 活動で設立された Marketing Committee が農民組織化で活用されるべきである。
- 普及員に対する活動早期での研修実施が必要である。
- 農産物のマーケティング改善のために、各県で作物毎に設立されている専門農協を活性化して役割を持たせる（上述のように農家から現状は十分機能していない状況が訴えられた）。

Open Discussion 後、Concluding Remarks を農協中央部長、農業普及中央部長および JICA エジプト事務所次長より頂いた。ここにおいても、農協中央部長から、ISMALP Implementation Unit による活動の継続が力強く宣言され、同日はプロジェクトの最終セミナーであるが、実施ユニットの開始の式典であることも説明された。最後に、プロジェクトチームから ISMAP 実施ユニットに活動を引き継ぐ標として、ISMALP 実施ユニットが入るオフィス（プロジェクトオフィスが実施ユニットに引き継がれる）のドアに付ける Name Plate の授与式を行った。これをもってプロジェクト最終セミナーを終了した。

第5章 上位目標達成に向けての提言

プロジェクト終了後の活動主体となる MALR に向けて、下記を提言する。

5.1 ISMAP 実施ユニットの予算確保と確実な活動実施

プロジェクト終了後に活動を継続していくための実施体制として、C/P が主導して ISMAP Implementation Unit (実施ユニット) の立ち上げ提案書を作成し、2018 年 11 月 25 日に農業土地開拓大臣に承認された。カイロの農協中央部、ミニアおよびアシュート県農業事務所に各々実施ユニット執務室が設けられ、プロジェクトチームの Coordinator が実施ユニット責任者として正式に任命された。また、2019 年 4 月 16 日に開催したプロジェクトの Completion Seminar において、実施ユニットの執務室に掲げるプレートの授与を行い、正式に活動がプロジェクトチームから実施ユニットに引き継がれた。

上位目標達成に向けては、この実施ユニットを確実に機能させ、プロジェクト期間中に策定した県普及計画を実施していく必要がある。また、そのための MALR の予算確保も確実に進めていく必要がある。プロジェクト期間中より予算確保のための手続きは、専門家も支援を行いつつプロジェクトチームとして進めてきたので、その手順は認知されており、また農業サービスフォローアップ局長によれば、実施ユニットの予算も承認されているとのことである。しかしながら、プロジェクト期間中も、予算が承認されながら結局執行されないという事態が続いた。このため、実施ユニットは、予算の承認のみならず、執行までの手続きをしっかりと行い、またプロジェクトより移転された機材を活用して、活動が円滑に行えるよう対処していく必要がある。

5.2 MALR 内での普及人材の育成

実施ユニットは、プロジェクトチームのメンバーが主体となって構成されている。このため、実施ユニットメンバーは、ISMAP アプローチの適用には熟知しており、活動の推進は円滑に行われるものと確信する。しかしながら、ISMAP アプローチによる普及活動を広範に展開していくためには、アプローチに習熟する人材を育成していく必要がある。MALR は、今後とも ISMAP アプローチを展開していくための人材を確保し、実施ユニットは、それら人材にプロジェクトで作成した各種マニュアルを活用しながら、アプローチのコンセプトや実施方法について指導し、人材を育成していく必要がある。

5.3 普及フローの継続的な改善

プロジェクト期間中の試行錯誤を通じて、ISMAP アプローチによる普及フローは、SHEP アプローチを基礎としつつ、マーケティング協議会の導入や、ローカル市場向け、輸出市場向けおよび女性の経済活動向けの 3 本立てのフローにより構成される普及パッケージとして確立された。しかしながら、農業農村を取り巻く情勢は、将来に亘り変化していくものと考えられ、アプローチも状況の変化に応じてより効果的になるよう改善していく必要がある。実施ユニットは、プロジェクトで確立された普及パッケージを適用して普及活動を進めつつも、常にモニタリングを行い、必要に応じてアプローチの改善を図っていく必要がある。

5.4 他の組織との連携

プロジェクトでは、国際機関や NGO、National Council of Women 等の政府機関に対し、プロジェクトの成果を発表するセミナーの開催や、News Letter の発行などによる情報共有活動を行い、ISMAP の認知に努めてきた。今後 ISMAP アプローチの展開を図っていくために、こういった他組織との連携を模索することを推奨する。そのため、ISMAP アプローチや成功事例の積極的な広報を行っていく必要がある。

エジプト・アラブ共和国 小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト

完了報告書 添付資料

添付資料 1 PDM（最新版および変遷経緯）

添付資料 2 業務フローチャート

添付資料 3 詳細活動計画

添付資料 4 専門家派遣実績

添付資料 5 研修員受け入れ実績

添付資料 6 供与機材・携行機材実績

添付資料 7 合同調整委員会議事録等

添付資料 8 その他活動実績

<添付資料 8 その他活動実績>

1. エンドライン調査報告書
2. Proceedings of the Seminar on Approaches of Women's Economic Empowerment
3. 広報資料：リーフレット
4. 広報資料：冊子
5. 業務マニュアル

添付資料 1 PDM（最新版および変遷経緯）

添付資料 1 PDM (最新版および変遷経緯)

最新版である PDM version 3 及び PO version 1 を各々下記に添付する。PDM および PO の変遷を下記に整理する。

PDM の変遷

| PDM Version | 1 | 2 | 3 |
|-------------|--|---|---|
| 日付 | 2015年6月20日 | 2017年5月30日 | 2017年7月19日 |
| 変更内容 | 上位計画とプロジェクト目標の所得増加率の指標を記入。 | <ul style="list-style-type: none"> 女性活動に対する指標の追加 周辺農家に対する指標の追加 農家の行動変容に係る指標追加 成果4の活動削減と指標の削減 | 所得増加率の変更 |
| 背景 | PDM0 では、上位目標とプロジェクト目標の農家の所得増加率目標は未設定となっており、ベースライン調査実施3か月以内に増加率を設定することとなっていた。これに従い、ベースライン調査後増加率を決定し、設定した。 | 2017年1月に実施された中間レビュー調査の提言を受け、PDMの改定を行った。指標については、活動実態に即すよう、女性活動及び周辺農家に対する指標を追加し、また所得増だけでなく行動変容に関する指標も追加した。また、成果4は、活動を他村に広げていく活動が含まれていたが、既存対象村で集中的に活動し(第4サイクルの実施)、成功事例を作っていく方針に変更となったため、活動を他村に広げていく内容は削除された。 | プロジェクト目標の所得増加率の設定は、対象村毎に設定している。毎年対象村を変えており、対象村の所得増加率目標を PDM に反映できていなかった村を追加して、増加率の指標を最終化した。 |

PO の変遷

| PO Version | 1 |
|------------|--|
| 日付 | 2017年7月19日 |
| 変更内容 | 第4サイクル活動の追加と成果4活動の一部削除 |
| 背景 | PDM 1 から PDM2 及び 3 への改定に当たっては、中間レビュー調査提言による第4サイクルの実施と成果4に係る活動に変更があったため、PDM の改定に即して PO を改定した。 |

Project Design Matrix (PDM3)

Project Title: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Project Duration: 2014-2019 (5 years)

Project Sites: Minia, Assuit Governorate

Target Group: Small-scale farmers in the agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of July 19, 2017

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption |
|---|---|---|--|
| [Overall Goal] Agricultural incomes of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages*1 in Minia and Assiut Governorates are increased. | a. Average agricultural income of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages in Minia and Assiut Governorates are increased by 19% . | a. Sample survey (included by the baseline surveys) | |
| [Project Purpose] Agricultural incomes of the small-scale farmers and surrounding small-scale farmers*2 who practice the ISMAP Approach are increased. | a. The agricultural incomes of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased by 6% - 37% by household and village. b. At least 30% of the women who practice the ISMAP Approach have made a business plan and practiced the market-oriented activity based on the plan. c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased. d. More than a half of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach changed their farming style toward market based. *3 | a. Baseline surveys*4 b. End-line survey c. Sample survey | - Necessary budget of MALR for implementing extension activities based on the market-oriented approach is secured. |
| [Outputs] 1. Market-oriented extension approach is established. | a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated. b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders. c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC). | a. Draft of extension flow based on the market-oriented approach b. Interview with the relevant stakeholders c. Approved extension flow based on the market-oriented approach | - Counterpart personnel (C/P) who received trainings by the Project will continuously work. |
| 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed. | a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made. b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff. | a. Guidelines and manuals of agricultural techniques b. Training materials of ToT | |
| 3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented. | a. Action plans of the target agricultural cooperatives b. Project progress report | |
| 4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives. | a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. | a. Project progress report b. End-line survey | |

| Activities | Input | | |
|---|--|--|---|
| <p><Output 1></p> <p>1-1 Build the consensus of the draft plan of extension flow*5 based on the market-oriented approach between stakeholders</p> <p>1-2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method</p> <p>1-3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers</p> <p>1-4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders</p> <p>1-5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning</p> <p>1-6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans</p> <p>1-7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff*6 regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6</p> <p>1-8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers</p> <p>1-9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers</p> <p>1-10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity</p> <p><Output 2></p> <p>2-1 Identify agricultural techniques*7 need to be examined and developed based on the study of IMAP*8 and the action plans made by the target small-scale farmers</p> <p>2-2 Examine and develop the techniques identified in 2-1</p> <p>2-3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7</p> <p>2-4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow</p> <p><Output 3></p> <p>3-1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans</p> <p>3-2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes</p> <p>3-3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2.</p> <p><Output 4></p> <p>4-1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives.</p> <p>4-2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans.</p> <p>4-5 Facilitate the target agricultural governorate to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach.</p> | <p style="text-align: center;">[Japanese side]</p> <p>(1) Dispatch of Experts - Leader/Market-oriented agriculture - Appropriate agriculture techniques and extension - Agricultural cooperative - Project coordinator/Training management - Other short-term experts as per necessity</p> <p>(2) Provision of equipment (Ex. Equipment and materials necessary for Output 2 and 3)</p> <p>(3) C/P Training in Japan and/or third country</p> <p>(4) Local cost shared by Japanese side - A part of operational costs for implementing the activities (Ex. Costs for experts' activities)</p> | <p style="text-align: center;">[Egyptian side]</p> <p>(1) C/P Project Director Project Manager Other counterparts</p> <p>(2) Office space and facilities for the Project - Necessary working space and facilities for JICA experts</p> <p>(3) Necessary Arrangement - Acquisition of the permission for the work in the field</p> <p>(4) Local cost shared by Egyptian side - Operational cost for the Project implementation (Ex. Training cost, personnel expenses and traveling cost for C/Ps)</p> | <p>- Personnel transfer of executive management will not affect the implementation of the Project.</p> <p>[Pre-condition] The Egyptian political situation is stable.</p> |

(Notes: PDM including the indicators and PO are reviewed and revised in the JSC, if necessary.)

*1) Definition of the "surrounding villages" is two surrounding villages per one target village in the Project. The Overall Goal aims at disseminating the ISMAP Approach to increase the farmers' incomes at the village level.

*2) Definition of the "surrounding small-scale farmers" is two surrounding farmers per one targeted farmer. The Project Purpose aims for the ISMAP Approach to be effectively applied to the targeted farmers and also aims for the surrounding small-scale farmers to understand its effectiveness and apply this approach.

*3) Changes in farmers' farming style is monitored using monitoring sheet.

*4) Scope of the baseline survey is focused on the target agricultural cooperatives and small-scale farmers selected by the Project. Farmer's survey of the baseline survey is recommended to refer to a sample of the crop production and income analysis data sheet used in other JICA projects.

*5) The draft plan of extension flow includes process of extension, roles and responsibilities of relevant organizations, and so on.

*6) In principal, target extension staffs for the ToT are extension staffs at village and district levels, and other target participants will be selected in the Project, according to the situation of each governorate.

*7) The techniques tentatively include improving cultivation techniques, for example, adjusting cropping season, improving pattern, new varieties, intercropping and using organic fertilizer, improving postharvest.

*8) The Project for the Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (IMAP)

Target Income Increase of the Household Farm Income by Village

Target income: 6% - 37% (PDM1 was 6% - 22%)

Overall goal target income: 19% (PDM1 was 13%)

| Governorate | Cycle | District | Village | Target Increase (%) |
|-------------|-------|-------------|---------------------|---------------------|
| Minia | 1 | Abo Korkus | El Balad | 22 |
| | 1 | Mallawe | Manshet El Maghalka | 12 |
| | 1 | Dyre Muas | Manshet Semhan | 12 |
| | 2 | Matai | Kom Matai | 9 |
| | 2 | Maghagha | Aba El Balad | 26 |
| | 2 | El Edwa | Barmasha | 33 |
| | 3 | Minia | Tala | 37 |
| | 3 | Samallout | Hataha | 24 |
| | 3 | Beni Mazar | Gendaya | 15 |
| | 1 | Assiut | Mosha | 6 |
| | 1 | Abnoub | Abnoub | 9 |
| | 1 | Dyrout | Sanabo | 18 |
| Assiut | 2 | El Kosya | Tetalia | 14 |
| | 2 | El Fath | Bany Mor | 28 |
| | 2 | Abo Teag | Nekhelia | 24 |
| | 2 | El Badary | Nawawra | 8 |
| | 3 | Man Floot | Man Floot | 21 |
| | 3 | Sedfa | Awlad Elias | 22 |
| | 3 | El Ghanayem | Mashaya | 11 |
| | 3 | Sahel Selem | Sahel Selem | 25 |
| | | | Average | 19 |

Indicator Setting: Income increase by Crop (Updated 20th June 2015)

Abnoub Village, Abnoub District, Assiut Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|----------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1,438 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.5 | 1.8 | 3.6 | 3.6 | 6,480 | 1,921 | 4,559 | 80% |
| Cucumber | 4.0 | 1.5 | 6,000 | 2,800 | 3,200 | | 6.0 | 5.0 | 2.0 | 1.5 | 7,500 | 2,800 | 4,700 | 47% |
| Basil | 5.0 | 2.0 | 10,000 | 5,000 | 5,000 | | 6.0 | 5.5 | 3.0 | 2.5 | 13,750 | 5,000 | 8,750 | 75% |
| Average | | | | | | | | | | | | 6,003 | | |

Mosha Village, Assiut District, Assiut Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|----------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1,438 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.5 | 1.8 | 3.6 | 3.2 | 5,760 | 1,921 | 3,839 | 51% |
| Tomato | 12,286 | 0.8 | 9,829 | 4,167 | 5,662 | | 25.0 | 12.5 | 1.5 | 1.0 | 12,500 | 4,167 | 8,333 | 47% |
| Cucumber | 4.0 | 1.5 | 6,000 | 2,800 | 3,200 | | 6.0 | 5.0 | 2.0 | 1.55 | 7,750 | 2,800 | 4,950 | 55% |
| Average | | | | | | | | | | | | 5,707 | | |

Sanabo Village, Dyrout District, Assiut Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1,438 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.5 | 2.0 | 3.6 | 3.5 | 7,000 | 1,921 | 5,079 | 100% |
| Cucumber | 4.0 | 1.5 | 6,000 | 2,800 | 3,200 | | 6.0 | 5.0 | 2.0 | 1.7 | 8,500 | 2,800 | 5,700 | 78% |
| Cabbage (Unit/fed) | 3,535 | 3.2 | 11,312 | 5,493 | 5,819 | | 5,000 | 4,200 | 4.0 | 3.25 | 13,650 | 5,493 | 8,157 | 40% |
| Average | | | | | | | | | | | | 6,312 | | |

Manshut Semhan Village, Dayr Mawas District, Minya Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1,438 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.0 | 1.8 | 4.0 | 3.5 | 6,125 | 1,921 | 4,204 | 66% |
| Tomato | 12,286 | 0.8 | 9,829 | 4,167 | 5,662 | | 25.0 | 14.0 | 2.0 | 1.1 | 14,700 | 4,167 | 10,533 | 86% |
| Cabbage (Unit/fed) | 3,535 | 3.2 | 11,312 | 5,493 | 5,819 | | 6,000 | 4,100 | 5.0 | 3.8 | 15,580 | 5,114 | 10,466 | 80% |
| Cantalope | 9,091 | 0.8 | 7,273 | 3,000 | 4,273 | | 15.0 | 11.0 | 1.3 | 1.0 | 11,000 | 3,000 | 8,000 | 87% |
| Average | | | | | | | | | | | | 8,301 | | |

Manshat el-Maghalka village, Malawi District, Minya Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1.4 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.0 | 2.0 | 4.2 | 3.3 | 6,667 | 1,921 | 4,746 | 87% |
| Tomato | 12,286 | 0.8 | 9,829 | 4,167 | 5,662 | | 30.0 | 14.0 | 3.0 | 1.1 | 14,700 | 4,167 | 10,533 | 86% |
| Eggplant | 8.3 | 0.6 | 5,000 | 2,000 | 3,000 | | 10.0 | 9.0 | 0.8 | 0.8 | 7,200 | 2,000 | 5,200 | 73% |
| Cabbage (Unit/fed) | 3,535 | 3.2 | 11,312 | 5,493 | 5,819 | | 5,000 | 4,100 | 5.0 | 3.8 | 15,580 | 5,114 | 10,466 | 80% |
| Sesame | 0.57 | 12.3 | 7,011 | 1,300 | 5,711 | | 0.8 | 0.8 | 12.0 | 12.0 | 10,080 | 1,300 | 8,780 | 54% |
| Cantalope | 9 | 0.8 | 7,273 | 3,000 | 4,273 | | 13.0 | 10.0 | 1.5 | 1.0 | 10,000 | 3,000 | 7,000 | 64% |
| Average | | | | | | | | | | | | 7,787 | | |

Abo Korkas el-Balud Village, Abo Korkas District, Minya Governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | Target | | | | | | | |
|-----------|-----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------------|--|-----------|---------------|-----------|---------------|--------------|---------------|---------------------|------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | | Potential | Yield (t/fed) | Potential | Price (LE/kg) | Gross Income | Cost (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | % increase |
| | | | | | | | | Target | | Target | | | | |
| Soybean | 1,438 | 3.1 | 4,458 | 1,921 | 2,537 | | 2.0 | 2.0 | 3.6 | 3.4 | 6,800 | 1,921 | 4,879 | 92% |
| Tomato | 12,286 | 0.8 | 9,829 | 4,167 | 5,662 | | 25.0 | 14.0 | 3.0 | 1.05 | 14,700 | 4,167 | 10,533 | 86% |
| Sesame | 0.57 | 12.3 | 7,011 | 1,300 | 5,711 | | 0.60 | 0.60 | 20.0 | 15.0 | 9,000 | 1,300 | 7,700 | 35% |
| Cantalope | 9,091 | 0.8 | 7,273 | 3,000 | 4,273 | | 10.0 | 9.1 | 1.5 | 1.0 | 9,091 | 3,000 | 6,091 | 43% |
| Average | | | | | | | | | | | | 7,301 | | |

Indicator setting: Farm Income (Minia) (Updated 20th June 2015)

Manshet Semhan Village, Dyre Muas District, Minia Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 0.55 | 2,452 | 2.7 | 3,641 | 2,746 | 1,510 | 2,131 |
| sugar cane | 0.76 | 29,583 | 0.5 | 11,242 | 7,311 | 5,566 | 5,685 |
| soybean | 0.15 | 1,500 | 3.0 | 675 | 942 | 141 | 534 |
| sesame | 0.03 | 0.48 | 11.67 | 168 | 2,700 | 81 | 87 |
| potato | 0.05 | 10,000 | 1.5 | 750 | 4,500 | 225 | 525 |
| maize | 0.16 | 2,271 | 2.1 | 763 | 2,705 | 433 | 330 |
| cabbage (unit) | 0.05 | 2,169 | 3.6 | 390 | 5,415 | 271 | 120 |
| berseem | 0.12 | 15,833 | 0.5 | 855 | 2,533 | 304 | 551 |
| Total | 1.87 | | | | | | 9,963 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 0.55 | 2,452 | 2.7 | 3,641 | 2,746 | 1,510 | 2,131 |
| sugar cane | 0.76 | 29,583 | 0.5 | 11,242 | 7,311 | 5,566 | 5,685 |
| potato | 0.05 | 10,000 | 1.5 | 750 | 4,500 | 225 | 525 |
| maize | 0.16 | 2,271 | 2.1 | 763 | 2,705 | 433 | 330 |
| berseem | 0.12 | 15,833 | 0.5 | 855 | 2,533 | 304 | 551 |
| target Crops | 0.23 | | | | | | 1,909 |
| Total | 1.87 | | | | | | 11,131 |

(Average income of the target crops: 8,301 LE/fed: 8,301 LE x 0.23 feddan = 1,909 LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crops

(11,131-9,963)/9,963 = **12%**

Manshet El Maghalka Village, Mallawe District, Minia Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.14 | 2,485 | 2.8 | 7,932 | 2,088 | 2,380 | 5,552 |
| tomato | 0.11 | 10,75 | 0.8 | 946 | 3,800 | 418 | 528 |
| Sugarcane | 0.78 | 16,393 | 0.3 | 3,836 | 1,880 | 1,466 | 2,370 |
| Sugarbeet | 0.55 | 19,081 | 0.3 | 3,148 | 2,648 | 1,456 | 1,692 |
| Sesame | 0.08 | 0.600 | 12.5 | 600 | 833 | 67 | 533 |
| Onion | 0.08 | 11,692 | 1.5 | 1,403 | 14,737 | 1,179 | 224 |
| melon | 0.29 | 9,091 | 0.8 | 2,109 | 3,364 | 976 | 1,134 |
| maize | 0.6 | 1,908 | 1.8 | 2,061 | 1,492 | 895 | 1,165 |
| garlic | 0.01 | 6,000 | 3.0 | 180 | 13,400 | 134 | 46 |
| eggplant | 0.09 | 8,333 | 0.6 | 450 | 2,000 | 180 | 270 |
| cabbage (unit) | 0.01 | 3,448 | 1.0 | 34 | 2,207 | 22 | 12 |
| berseem | 0.36 | 43,333 | 0.1 | 1,560 | 1,018 | 366 | 1,194 |
| Total | 4.1 | | | | | | 14,720 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.14 | 2,485 | 2.8 | 7,932 | 2,088 | 2,380 | 5,552 |
| tomato | 0.11 | 10,75 | 0.8 | 946 | 3,800 | 418 | 528 |
| Sugarcane | 0.78 | 16,393 | 0.3 | 3,836 | 1,880 | 1,466 | 2,370 |
| Sugarbeet | 0.55 | 19,081 | 0.3 | 3,148 | 2,648 | 1,456 | 1,692 |
| Onion | 0.08 | 11,692 | 1.5 | 1,403 | 14,737 | 1,179 | 224 |
| maize | 0.6 | 1,908 | 1.8 | 2,061 | 1,492 | 895 | 1,165 |
| garlic | 0.01 | 6,000 | 3.0 | 180 | 13,400 | 134 | 46 |
| berseem | 0.36 | 43,333 | 0.1 | 1,560 | 1,018 | 366 | 1,194 |
| target Crops | 0.47 | | | | | | 3,660 |
| Total | 4.1 | | | | | | 16,430 |

(Average income of the target crops: 7,787 LE/fed: 7,787 x 0.47 feddan = 3,660 LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crops

(16,430-14,720)/14,720 = **12%**

El Balad Village, Abo Korkus District, Minia Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.24 | 2,321 | 2.7 | 7,771 | 3,710 | 4,600 | 3,170 |
| sugar beet | 0.18 | 54 | 0.3 | 2,916 | 6,000 | 1,080 | 1,836 |
| soybean | 0.44 | 1,347 | 3.5 | 2,074 | 2,900 | 1,276 | 798 |
| sorghum | 0.06 | 1,772 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| potato | 0.39 | 5,818 | 1.4 | 3,177 | 6,545 | 2,553 | 624 |
| maize | 0.5 | 1,785 | 1.4 | 1,250 | 3,439 | 1,720 | -470 |
| carrot | 0.19 | 18,889 | 0.6 | 2,153 | 3,398 | 646 | 1,508 |
| berseem | 0.02 | | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Total | 3.02 | | | | | | 7,466 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.24 | 2,321 | 2.7 | 7,771 | 3,710 | 4,600 | 3,170 |
| sugar beet | 0.18 | 54 | 0.3 | 2,916 | 6,000 | 1,080 | 1,836 |
| potato | 0.39 | 5,818 | 1.4 | 3,177 | 6,545 | 2,553 | 624 |
| maize | 0.5 | 1,785 | 1.4 | 1,250 | 3,439 | 1,720 | -470 |
| carrot | 0.19 | 18,889 | 0.6 | 2,153 | 3,398 | 646 | 1,508 |
| berseem | 0.02 | | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Selected Crops | 0.5 | | | | | | 2,440 |
| Total | 3.02 | | | | | | 9,108 |

(Average income of the target crop (soybean): 4,879 LE/fed: 4,879 x 0.5 = 2,440 LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crop (soybean)

(9,108-7,466)/7,466 = **22%**

Indicator setting : Farm Income (Assiut) Updated 20th June 2015)

Abnoub Village, Abnoub District, Assiut Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.26 | 2.445 | 2.8 | 8,626 | 2,972 | 3,745 | 4,881 |
| sorghum | 0.86 | 1.632 | 2.2 | 3,088 | 2,096 | 1,803 | 1,285 |
| onion | 0.04 | 10,667 | 0.9 | 384 | 5,513 | 221 | 163 |
| maize | 0.33 | 1,534 | 2.0 | 1,012 | 2,955 | 975 | 37 |
| cotton | 0.11 | 1,580 | 5.4 | 939 | 7,034 | 774 | 165 |
| berseem | 0.43 | | | 0 | 2,632 | 1,132 | -1,132 |
| Total | 3.03 | | | | | | 5,400 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.26 | 2.445 | 2.8 | 8,626 | 2,972 | 3,745 | 4,881 |
| sorghum | 0.86 | 1.632 | 2.2 | 3,088 | 2,096 | 1,803 | 1,285 |
| onion | 0.04 | 10,667 | 0.9 | 384 | 5,513 | 221 | 163 |
| maize | 0.33 | 1,534 | 2.0 | 1,012 | 2,955 | 975 | 37 |
| berseem | 0.43 | | | 0 | 2,632 | 1,132 | -1,132 |
| target crops | 0.11 | | | | | | 660 |
| Total | 3.03 | | | | | | 5,895 |

(Average income of the target crops: 6,003 LE/fed: 6,003 x 0.11 feddan =660LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to target crops (5,895-5,400)/5,400 = **9%**

Mosha Village, Assiut District, Assiut Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|--------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.27 | 2,460 | 2.8 | 8,748 | 3,116 | 3,957 | 4,790 |
| sorghum | 0.81 | 1,998 | 2.0 | 3,237 | 2,569 | 2,081 | 1,156 |
| onion | 0.04 | 16,000 | 1.0 | 640 | 8,200 | 328 | 312 |
| maize | 0.46 | 2,289 | 2.1 | 2,211 | 3,865 | 1,778 | 433 |
| green fodder | 0.03 | 0,000 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| cumin | 0.06 | 0,400 | 27.5 | 660 | 4,000 | 240 | 420 |
| cotton | 0.04 | 1,263 | 5.7 | 288 | 3,567 | 143 | 145 |
| chick peas | 0.05 | 0,750 | 6.7 | 251 | 2,260 | 113 | 138 |
| cauliflower (unit) | 0.01 | 4,800 | 1.5 | 72 | 3,300 | 33 | 39 |
| cabbage (unit) | 0.01 | 6,000 | 3.0 | 180 | 7,400 | 74 | 106 |
| berseem (kirat) | 0.46 | 24 | 80.0 | 883 | 2,722 | 1,252 | -369 |
| Total | 3.24 | | | | | | 7,171 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.27 | 2,460 | 2.8 | 8,748 | 3,116 | 3,957 | 4,790 |
| sorghum | 0.81 | 1,998 | 2.0 | 3,237 | 2,569 | 2,081 | 1,156 |
| onion | 0.04 | 16,000 | 1.0 | 640 | 8,200 | 328 | 312 |
| maize | 0.46 | 2,289 | 2.1 | 2,211 | 3,865 | 1,778 | 433 |
| cumin | 0.06 | 0,400 | 27.5 | 660 | 4,000 | 240 | 420 |
| cabbage (unit) | 0.01 | 6,000 | 3.0 | 180 | 7,400 | 74 | 106 |
| berseem (kirat) | 0.46 | 24 | 80.0 | 883 | 2,722 | 1,252 | -369 |
| target crop | 0.13 | | | | | | 742 |
| Total | 3.24 | | | | | | 7,591 |

(Average income of the target crops: 5,707 LE/fed: 5,707LE x 0.13 feddan = 742LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to target crops (7,591-7,171)/7,171 = **6%**

Sanabo Village, Dyrout District, Assiut Governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.2 | 2,245 | 2.8 | 7,543 | 2,259 | 2,711 | 4,832 |
| sugar beet | 0.3 | 32,486 | 0.3 | 2,924 | 5,370 | 1,611 | 1,313 |
| sorghum | 0.06 | 2,067 | 1.9 | 236 | 3,370 | 202 | 33 |
| maize | 1.18 | 1,849 | 1.8 | 3,927 | 2,332 | 2,752 | 1,176 |
| berseem | 0.27 | | | 0 | 1,634 | 441 | -441 |
| Total | 3.01 | | | | | | 6,913 |

Target

| Target | | | | | | | |
|----------------|-----------------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield (t/fed) | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income (LE) |
| wheat | 1.2 | 2,245 | 2.8 | 7,543 | 2,259 | 2,711 | 4,832 |
| sugar beet | 0.3 | 32,486 | 0.3 | 2,924 | 5,370 | 1,611 | 1,313 |
| sorghum | 0.06 | 2,067 | 1.9 | 236 | 3,370 | 202 | 33 |
| maize | 0.94 | 1,849 | 1.8 | 3,129 | 2,332 | 2,192 | 936 |
| berseem | 0.27 | | | 0 | 1,634 | 441 | -441 |
| selected crops | 0.24 | | | | | | 1,515 |
| Total | 3.01 | | | | | | 8,189 |

(Average income of the target crops: 6,312 LE/fed: 6,312 x 0.24 feddan = 1,515LE)

Assumption: 20% of maize is converted to selected crops (8,189-6,913)/6,913 = **18%**

Indicator setting: Farm Income (Minia) (Updated November 2016)

Barmasha village, El Edwa district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|---------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 1.43 | 2.57 | 2.7 | 9,923 | 3845 | 5,498 | 4,425 | 4,425 | |
| Maize | 0.36 | 2.60 | 1.8 | 1,685 | 4098 | 1,475 | 210 | 210 | |
| Sorghum | 0.17 | 1.40 | 2.4 | 571 | 1000 | 170 | 401 | 401 | |
| Berseem | 0.07 | 0.19 | 10.0 | 133 | 3000 | 210 | -77 | -77 | |
| Garlic | 0.49 | 10.21 | 1.9 | 9,506 | 10360 | 5,076 | 4,430 | 4,430 | |
| Tomato | 0.19 | 5.42 | 2.0 | 2,060 | 10000 | 1,900 | 160 | 160 | |
| Onion | 0.06 | 12.00 | 0.6 | 432 | 7750 | 465 | -33 | -33 | |
| Sesame | 0.40 | 0.49 | 7.0 | 1,372 | 4267 | 1,707 | -335 | -335 | |
| Marjoram | 0.10 | 0.02 | 400.0 | 800 | 4667 | 467 | 333 | 333 | |
| Cucumber | 0.02 | 15.00 | 1.5 | 450 | 6000 | 120 | 330 | 330 | |
| Swallow /bitr | 0.44 | 0.35 | 3.2 | 493 | 1000 | 440 | 53 | 53 | |
| Total | 3.73 | | | | | | 9,897 | 9,897 | |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|--------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 1.43 | 2.57 | 2.7 | 9,923 | 3,845 | 5,498 | 4,425 | 4,425 | |
| Maize | 0.36 | 2.6 | 1.8 | 1,685 | 4,098 | 1,475 | 210 | 210 | |
| Sorghum | 0.17 | 1.4 | 2.4 | 571 | 1,000 | 170 | 401 | 401 | |
| Berseem | 0.07 | 0.19 | 10 | 133 | 3,000 | 210 | -77 | -77 | |
| Garlic | 0.49 | 10.21 | 1.9 | 9,506 | 10,360 | 5,076 | 4,430 | 4,430 | |
| Target crops | 1.21 | | | | | | 3,760 | 3,760 | |
| | 3.73 | | | | | | 13,148 | 13,148 | |

33%

Aba El Balad village, Maghagha district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|-----------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 1.01 | 2.38 | 2.7 | 6,490 | 3,513 | 3,548 | 2,942 | 2,942 | |
| Maize | 0.79 | 2.10 | 1.7 | 2,820 | 2,256 | 1,782 | 1,038 | 1,038 | |
| Potato | 0.34 | 11.10 | 0.8 | 3,019 | 6,000 | 2,040 | 979 | 979 | |
| Berseem | 0.09 | 0.00 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| Sugarbeet | 0.22 | 18.40 | 0.4 | 1,619 | 5,500 | 1,210 | 409 | 409 | |
| Onion | 0.13 | 7.00 | 0.8 | 728 | 2,833 | 368 | 360 | 360 | |
| Total | 2.58 | | | | | | 5,728 | 5,728 | |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|-------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 1.01 | 2.38 | 2.7 | 6,490 | 3,513 | 3,548 | 2,942 | 2,942 | |
| Maize | 0.40 | 2.10 | 1.7 | 1,410 | 2,256 | 891 | 519 | 519 | |
| Berseem | 0.09 | 0.00 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| Sugarbeet | 0.22 | 18.40 | 0.4 | 1,619 | 5,500 | 1,210 | 409 | 409 | |
| Target crop | 0.87 | | | | | | 3,320 | 3,320 | |
| | 2.58 | | | | | | 7,191 | 7,191 | |

26%

* Half of maize is assumed to change to target crops

Kom Matai village Matai district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|-----------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 0.23 | 2.69 | 2.7 | 1,670 | 4,423 | 1,017 | 653 | 653 | |
| Maize | 0.11 | 2.59 | 1.8 | 513 | 3,337 | 367 | 146 | 146 | |
| Potato | 0.23 | 12.05 | 0.4 | 1,109 | 5,135 | 1,181 | -72 | -72 | |
| Berseem | 0.05 | 0.00 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| Sugarbeet | 0.14 | 26.08 | 0.8 | 2,921 | 5,200 | 728 | 2,193 | 2,193 | |
| Soybean | 0.15 | 1.24 | 3.1 | 577 | 2,835 | 425 | 152 | 152 | |
| Tomato | 0.04 | 3.28 | 3.3 | 433 | 4,624 | 185 | 248 | 248 | |
| Peanuts | 0.01 | 17.14 | 0.4 | 69 | 5,143 | 51 | 18 | 18 | |
| Total | 0.96 | | | | | | 3,338 | 3,338 | |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|-------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | | | |
| Wheat | 0.23 | 2.69 | 2.7 | 1,670 | 4,423 | 1,017 | 653 | 653 | |
| Maize | 0.06 | 2.59 | 1.8 | 256 | 3,337 | 184 | 72 | 72 | |
| Potato | 0.23 | 12.05 | 0.4 | 1,109 | 5,135 | 1,181 | -72 | -72 | |
| Berseem | 0.05 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| Sugarbeet | 0.14 | 26.08 | 0.8 | 2,921 | 5,200 | 728 | 2,193 | 2,193 | |
| Soybean | 0.15 | 1.24 | 3.1 | 577 | 2,835 | 425 | 152 | 152 | |
| Target crop | 0.11 | | | | | | 646 | 646 | |
| | 0.96 | | | | | | 3,644 | 3,644 | |

9%

Target crops are all summer crop. Therefore, potato was maintained. Instead reduced maize area to 1/2.

Indicator setting : Farm Income (Assiut) Updated November 2016)

Bany Moor village, El Faith district, Assiut governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.09 | 2.32 | 2.6 | 6,575 | 2,641 | 2,879 | 3,696 |
| Maize | 0.35 | 1.36 | 2.0 | 952 | 1,552 | 543 | 409 |
| Sorghum | 0.50 | 1.59 | 2.2 | 1,749 | 1,229 | 615 | 1,135 |
| Berseem | 0.21 | 0.00 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Bean | 0.02 | 1.55 | 5.8 | 180 | 2,700 | 54 | 126 |
| Turnip | 0.02 | 8.00 | 0.7 | 112 | 1,000 | 20 | 92 |
| Sesame | 0.02 | 0.62 | 6.5 | 81 | 2,600 | 52 | 29 |
| Cucumber | 0.06 | 2.00 | 1.5 | 180 | 2,000 | 120 | 60 |
| Cabbage (piece) | 0.10 | 5.840 | 3.0 | 1,752 | 7,220 | 722 | 1,030 |
| Sugarcane | 0.13 | 10.00 | 0.3 | 390 | 5,000 | 650 | -260 |
| Total | 2.50 | | | | | | 6,316 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.09 | 2.32 | 2.60 | 6,575 | 2,641 | 2,879 | 3,696 |
| Maize | 0.35 | 1.36 | 2.00 | 952 | 1,552 | 543 | 409 |
| Sorghum | 0.50 | 1.59 | 2.20 | 1,749 | 1,229 | 615 | 1,135 |
| Berseem | 0.21 | 0.00 | 0.00 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Target crops | 0.35 | | | | | | 2,853 |
| | 2.50 | | | | | | 8,092 |

28%

El Tetalia village, El Kosya district, Assiut governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 0.83 | 2.43 | 2.5 | 5,042 | 4,052 | 3,363 | 1,679 |
| Maize | 0.16 | 2.40 | 1.9 | 730 | 3,950 | 632 | 98 |
| Sorghum | 0.82 | 2.39 | 1.9 | 3,724 | 3,652 | 2,995 | 729 |
| Potato | 0.02 | 10.67 | 0.4 | 85 | 5,333 | 107 | -21 |
| Berseem | 0.01 | 0.12 | 30.0 | 36 | 2,563 | 26 | 10 |
| Soybean | 0.02 | 0.80 | 3.6 | 58 | 2,500 | 50 | 8 |
| Bean | 0.05 | 1.60 | 5.0 | 400 | 5,000 | 250 | 150 |
| Alfalfa | 0.01 | | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Cheek pea | 0.02 | 0.78 | 7.8 | 122 | 3,600 | 70 | 52 |
| Eggplant | 0.03 | 11.20 | 1.0 | 336 | 5,960 | 179 | 157 |
| Total | 1.97 | | | | | | 2,861 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 0.83 | 2.43 | 2.5 | 5,042 | 4,052 | 3,363 | 1,679 |
| Maize | 0.08 | 2.4 | 1.9 | 365 | 3,950 | 316 | 49 |
| Sorghum | 0.82 | 2.39 | 1.9 | 3,724 | 3,652 | 2,995 | 729 |
| Berseem | 0.01 | 0.12 | 30 | 36 | 2,563 | 26 | 10 |
| Alfalfa | 0.01 | | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Target crop | 0.22 | | | | | | 786 |
| | 1.97 | | | | | | 3,253 |

14%

* 1/4 of maize is assumed to change to target crops

El Nekheila village, Abo Teag district, Assiut governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.56 | 2.27 | 2.6 | 9,207 | 3,339 | 5,209 | 3,998 |
| Maize | 1.36 | 2.04 | 2.0 | 5,549 | 2,754 | 3,745 | 1,803 |
| Sorghum | 0.11 | 1.03 | 2.7 | 306 | 1,350 | 149 | 157 |
| Berseem | 0.04 | 0.00 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Bean | 0.04 | 2.33 | 5.2 | 485 | 1,500 | 60 | 425 |
| Sugarcane | 0.03 | 53.33 | 0.3 | 480 | 6,667 | 200 | 280 |
| Total | 3.14 | | | | | | 6,664 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.56 | 2.27 | 2.6 | 9,207 | 3,339 | 5,209 | 3,998 |
| Maize | 1.02 | 2.04 | 2 | 4,162 | 2,754 | 2,809 | 1,353 |
| Sorghum | 0.11 | 1.03 | 2.7 | 306 | 1,350 | 149 | 157 |
| Berseem | 0.04 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Target crop | 0.41 | | | | | | 2765 |
| | 3.14 | | | | | | 8,273 |

24%

* 1/4 of maize is assumed to change to target crops

El Nawawra village, El Badarey district, Assiut governorate

| Baseline Survey | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.45 | 1.63 | 2.5 | 5,909 | 2,861 | 4,148 | 1,760 |
| Maize | 0.43 | 1.80 | 2.0 | 1,548 | 3,113 | 1,339 | 209 |
| Sorghum | 0.58 | 1.30 | 2.5 | 1,885 | 1,993 | 1,156 | 729 |
| Berseem | 0.04 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Bean | 0.02 | 0.66 | 7.1 | 94 | 1,800 | 36 | 58 |
| Peanuts | 0.04 | 1.24 | 3.6 | 179 | 1,100 | 44 | 135 |
| Total | 2.56 | | | | | | 2,891 |

Target income increase per household

| Target Income Increase per Household | | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| Crop | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | Total Cost (LE) | Net Income |
| Wheat | 1.45 | 1.63 | 2.50 | 5,909 | 2,861 | 4,148 | 1,760 |
| Maize | 0.43 | 1.80 | 2.00 | 1,548 | 3,113 | 1,339 | 209 |
| Sorghum | 0.58 | 1.30 | 2.50 | 1,885 | 1,993 | 1,156 | 729 |
| Berseem | 0.04 | 0 | 0.00 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Target crops | 0.06 | | | | | | 410 |
| | 2.56 | | | | | | 3,109 |

8%

Indicator Setting: Income increase by Crop (Updated July 2017)

Gendaya village, Beni Mazar district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Cucumber | 6.3 | 1.3 | 8,190 | 4,417 | 6.3 | 2.0 | 12,600 | 4,000 | 8,600 | 128% | | | | |
| Irish Potato | 8.6 | 2.2 | 18,920 | 10,311 | 10.0 | 2.5 | 25,000 | 11,500 | 13,500 | 31% | | | | |
| Onion | 2.4 | 4.0 | 9,600 | 2,160 | 15.0 | 2.0 | 30,000 | 14,500 | 15,500 | 108% | | | | |
| Tomato* | 5.4 | 2.0 | 10,800 | 5,397 | 6.0 | 3.0 | 18,000 | 7,500 | 10,500 | 94% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 12,025 | | | |

Hatnaha village, Samallout district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|----------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Cucumber | 6.3 | 1.3 | 8,190 | 4,417 | 6.3 | 2.0 | 12,600 | 4,000 | 8,600 | 128% | | | | |
| Onion | 2.4 | 4.0 | 9,600 | 2,160 | 15.0 | 2.0 | 30,000 | 14,500 | 15,500 | 108% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 12,050 | | | |

Tala village Minia district, Minia governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|----------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Carrot | 25.0 | 0.5 | 12,500 | 6,000 | 25.0 | 0.7 | 17,500 | 5,500 | 12,000 | 85% | | | | |
| Cucumber | 6.3 | 1.3 | 8,190 | 4,417 | 4.0 | 2.0 | 8,000 | 4,000 | 4,000 | 6% | | | | |
| Tomato* | 5.4 | 2.0 | 10,800 | 5,397 | 7.0 | 2.5 | 17,500 | 6,800 | 10,700 | 98% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 8,900 | | | |

Man floot village, Man floot district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Cucumber | 10.0 | 1.1 | 11,000 | 6,026 | 10.0 | 1.5* | 15,000 | 6,026 | 8,974 | 80% | | | | |
| Garlic | 6.4 | 2.5 | 16,000 | 10,360 | 10.0 | 2.5 | 25,000 | 10,304 | 14,696 | 161% | | | | |
| Irish Potato | 11.7 | 2.3 | 26,910 | 13,914 | 15.0 | 2.0 | 30,000 | 13,354 | 16,646 | 28% | | | | |
| Onion | 16.6 | 1.1 | 18,260 | 9,333 | 20.0 | 1.0 | 20,000 | 7,154 | 12,846 | 44% | | | | |
| Canaloupe** | 10.0 | 0.5 | 5,000 | 3,000 | 11.0 | 0.55 | 6,050 | 3,000 | 3,050 | 63% | | | | |
| Tomato | 5.3 | 3.4 | 18,020 | 10,153 | 15.0 | 2.0 | 30,000 | 10,474 | 19,526 | 148% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 12,623 | | | |

Awlad Elias village, El Sadfia district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Garlic | 6.4 | 2.5 | 16,000 | 10,360 | 10.0 | 2.5 | 25,000 | 10,604 | 14,396 | 155% | | | | |
| Irish Potato | 11.7 | 2.3 | 26,910 | 13,914 | 14.0 | 2.0 | 28,000 | 11,504 | 16,496 | 27% | | | | |
| Onion | 16.6 | 1.1 | 18,260 | 9,333 | 20.0 | 1.0 | 20,000 | 6,800 | 13,200 | 48% | | | | |
| Sesame | 0.3 | 10.0 | 3,000 | 2,050 | 0.50 | 10.0 | 5,000 | 3,723 | 1,277 | 34% | | | | |
| Soybean | 1.1 | 4.4 | 4,840 | 3,333 | 11.0 | 0.6 | 6,050 | 2,504 | 3,546 | 135% | | | | |
| Tomato | 5.3 | 3.4 | 18,020 | 10,153 | 10.0 | 3.0 | 30,000 | 12,254 | 17,746 | 126% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 11,110 | | | |

Sahel Selem village, Sahel Selem district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Garlic | 6.4 | 2.5 | 16,000 | 10,360 | 6.0 | 2.5 | 20,000 | 11,904 | 8,096 | 44% | | | | |
| Irish Potato | 11.7 | 2.3 | 26,910 | 13,914 | 15.0 | 3.0 | 45,000 | 13,304 | 31,696 | 144% | | | | |
| Sesame | 0.3 | 10.0 | 3,000 | 2,050 | 0.5 | 10.0 | 5,000 | 2,793 | 2,207 | 132% | | | | |
| Soybean | 1.1 | 4.4 | 4,840 | 3,333 | 11.0 | 0.6 | 6,050 | 3,393 | 2,657 | 76% | | | | |
| Tomato | 5.3 | 3.4 | 18,020 | 10,153 | 10.0 | 3.0 | 30,000 | 11,024 | 18,976 | 141% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 12,726 | | | |

Mashaya village, El Ghanaem district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | Target | | | | Net Income (LE/fed) | Cost (LE/fed) | Gross Income (LE/fed) | % Increase | | |
|---------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------|--------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-----------------------|------------|-----------------------|---------------------|
| | Present Yield (t/fed) | Present Price (LE/kg) | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) | Potential | Target | Yield (t/fed) | Price (LE/kg) | | | | | Gross Income (LE/fed) | Net Income (LE/fed) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| Onion | 16.6 | 1.1 | 18,260 | 9,333 | 20.0 | 1.0 | 20,000 | 7,054 | 12,946 | 45% | | | | |
| Peanuts | 2.3 | 3.8 | 8,740 | 8,000 | 2.5 | 4.0 | 10,000 | 8,000 | 2,000 | 170% | | | | |
| Sesame | 0.3 | 10.0 | 3,000 | 2,050 | 0.5 | 10.0 | 5,000 | 2,793 | 2,207 | 132% | | | | |
| Soybean | 1.1 | 4.4 | 4,840 | 3,333 | 1.5 | 5.0 | 7,500 | 4,067 | 3,433 | 128% | | | | |
| Average | | | | | | | | | | | 5,147 | | | |

* from 2nd Cycle

Indicator setting : Farm Income (Assiut) Updated July 2017)

Man flood village, Man flood district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.59 | 1393 | 1.39 | 3892 | 4.432 | 2,615 | 1,277 |
| Maize | 2.24 | 6357 | 6.36 | 26,536 | 4,546 | 10,183 | 6,353 |
| Sorghum | 0.48 | 1157 | 1.16 | 3,364 | 3,990 | 1,915 | 1,449 |
| Berseem | 0.37 | 1.14 | 0.00 | 17,000 | 2,188 | 810 | 1,128 |
| Fava bean | 0.50 | 857 | 0.86 | 7.4 | 6,364 | 4,455 | 4,137 |
| Chick bean | 0.64 | 514 | 0.51 | 10.1 | 5,151 | 4,263 | 2,423 |
| Potato | 0.79 | 13357 | 13.36 | 3.5 | 46,760 | 20,000 | 30,960 |
| Total | 5.61 | | | | | | 47,727 |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.59 | 1.39 | 2.80 | 3,892 | 4,432 | 2,615 | 1,277 |
| Maize | 1.12 | 6.36 | 2.60 | 16,536 | 4,546 | 5,092 | 11,444 |
| Sorghum | 0.24 | 1.16 | 2.90 | 3,364 | 3,990 | 958 | 2,406 |
| Berseem | 0.37 | 1.16 | 17,000.00 | 1,972 | 2,188 | 810 | 1,162 |
| Target crops | 3.29 | | | | | | 41,530 |
| Total | 5.61 | | | | | | 57,820 |

* assumed: half of maize and sorghum transfers to target crops

21%

Awlad Elias village, El Sadfa district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 1.54 | 2817 | 2.82 | 8,460 | 4,728 | 7,281 | 1,179 |
| Maize | 1.62 | 4106 | 4.11 | 11,097 | 5,204 | 8,430 | 2,667 |
| Sorghum | 0.15 | 234 | 0.23 | 0 | 4,381 | 657 | -657 |
| Berseem | 0.54 | 3.5 | 0.00 | 4,200 | 1,997 | 1,078 | 3,122 |
| Green fodder | 0.05 | 1 | 0.00 | 0 | 3,590 | 180 | -180 |
| Fava bean | 0.13 | 206.3 | 0.21 | 7.0 | 1,470 | 390 | 1,080 |
| Groundnuts | 0.13 | 281.3 | 0.28 | 3.8 | 1,064 | 8,000 | 1,040 |
| Mandarinne | 0.25 | 1875 | 1.88 | 1.3 | 2,444 | 6,000 | 1,500 |
| Total | 4.41 | | | | | | 8,178 |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 1.54 | 2.82 | 3.0 | 8,460 | 4,728 | 7,281 | 1,179 |
| Maize | 1.62 | 4.11 | 2.7 | 11,097 | 5,204 | 8,430 | 2,667 |
| Sorghum | 0.15 | 0.23 | 0.0 | 0 | 4,381 | 657 | -657 |
| Berseem | 0.54 | 3.50 | 12,000.00 | 4,200 | 1,997 | 1,078 | 3,122 |
| Green fodder | 0.05 | 1.00 | 0.0 | 0 | 3,590 | 180 | -180 |
| Mandarinne | 0.25 | 1.88 | 1.3 | 2,444 | 6,000 | 1,500 | 944 |
| Target crop | 0.26 | | | | | | 2,889 |
| Total | 4.41 | | | | | | 9,963 |

* assumed: half of maize and sorghum transfers to target crops

22%

Sahel Salem village, Sahel Salem district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.67 | 1467.0 | 1.47 | 2,7 | 3,969 | 3,746 | 2,510 |
| Maize | 0.45 | 878.0 | 0.88 | 2.6 | 2,288 | 3,079 | 1,366 |
| Sorghum | 0.17 | 222.0 | 0.22 | 1.5 | 330 | 1,667 | 283 |
| Berseem | 0.65 | 4.3 | 0.00 | 2,500.0 | 10,750 | 2,306 | 1,499 |
| Green fodder | 0.21 | 2.4 | 0.00 | 0 | 2,191 | 460 | -460 |
| Soybean | 0.28 | 300.0 | 0.30 | 4.4 | 1,320 | 3,833 | 1,073 |
| Sesame | 0.05 | 14.4 | 0.01 | 10.0 | 100 | 720 | 36 |
| Onion | 0.06 | 888.9 | 0.89 | 1.3 | 1,157 | 6,000 | 360 |
| Garlic | 0.11 | 955.6 | 0.96 | 2.8 | 2,688 | 6,000 | 660 |
| Cucumber | 0.06 | 686.7 | 0.67 | 1.3 | 1,005 | 3,000 | 180 |
| Mandarinne | 0.06 | 333.3 | 0.33 | 1.0 | 330 | 3,000 | 180 |
| Total | 2.77 | | | | | | 15,310 |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.67 | 1.47 | 2.7 | 3,969 | 3,746 | 2,510 | 1,459 |
| Maize | 0.45 | 0.88 | 2.6 | 2,288 | 3,079 | 1,366 | 902 |
| Sorghum | 0.17 | 0.22 | 1.5 | 330 | 1,667 | 283 | 47 |
| Berseem | 0.65 | 4.30 | 25,000.00 | 10,750 | 2,306 | 1,499 | 9,251 |
| Green fodder | 0.21 | 4.30 | 0.0 | 0 | 2,191 | 460 | -460 |
| Target crop | 0.62 | | | | | | 7890 |
| Total | 2.77 | | | | | | 19,089 |

* Assumed: Half of maize is transferred to target crops

25%

Mashaya village, El Ghanaem district, Assiut governorate

| Crop | Baseline Survey | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|-------------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.87 | 1473 | 1.47 | 3.1 | 4,557 | 3,061 | 1,894 |
| Maize | 0.48 | 1068 | 1.07 | 2.7 | 2,889 | 3,388 | 1,626 |
| Sorghum | 0.32 | 544 | 0.54 | 3.4 | 1,836 | 2,943 | 894 |
| Berseem | 0.45 | 4 | 0.00 | 0 | 2,448 | 1,102 | -1,102 |
| Green fodder | 0.51 | 3.8 | 0.00 | 14,000.00 | 5,320 | 3,482 | 3,544 |
| Tomato | 0.10 | 523 | 0.52 | 3.4 | 1,768 | 9,867 | 987 |
| Eggplant | 0.02 | 227 | 0.23 | 1.0 | 230 | 200 | 30 |
| Pepper | 0.05 | 364 | 0.36 | 1.3 | 468 | 6,000 | 300 |
| Onion | 0.02 | 409 | 0.41 | 1.0 | 410 | 16,000 | 320 |
| Garlic | 0.05 | 91 | 0.09 | 5.0 | 450 | 4,000 | 200 |
| Cabbage/cauliflow | 0.05 | 273 | 0.27 | 5.0 | 1,350 | 3,000 | 150 |
| Total | 2.92 | | | | | | 9,013 |

Target income increase per household

| Crop | Target Income Increase per Household | | | | | Total Cost (LE) | Net Income |
|--------------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------------|------------|
| | Cultivated Area | Present Yield | Present Price | Gross Income | Cost (LE/fed) | | |
| Wheat | 0.87 | 1.47 | 3.1 | 4,557 | 3,061 | 2,663 | 1,894 |
| Maize | 0.24 | 1.07 | 2.7 | 2,889 | 3,388 | 813 | 2,076 |
| Sorghum | 0.32 | 0.54 | 3.4 | 1,836 | 2,943 | 894 | 894 |
| Berseem | 0.45 | 0.00 | 0.0 | 0 | 2,448 | 1,102 | -1,102 |
| Green fodder | 0.51 | 3.80 | 14,000.00 | 5,320 | 3,482 | 1,776 | 3,544 |
| Target crop | 0.53 | | | | | | 2,728 |
| Total | 2.92 | | | | | | 10,035 |

* Assumed: Half of maize is transferred to target crops

11%

ER
Date 10/10/17

Tentative Plan of Operation - 1
 Project Name : Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project
 Duration : 2014-2019 (5 years)
 Target sites: Minia, Assut Governorate
 Target Group: Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

| Activities | 2014 | | | | | | | | | | | | 2015 | | | | | | | | | | | | 2016 | | | | | | | | | | | | 2017 | | | | | | | | | | | | 2018 | | | | | | | | | | | | 2019 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 1. Market-oriented extension approach | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.1 build the reviews of the target plan of extension activities based on the market-oriented approach between stakeholders. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.3 Conduct baseline survey of the target farmers | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.4 Identify the opportunities for dialogues between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.7 Identify the extension staff (10) for agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.8 Implement technical trainings for the target small-scale farmers*1 | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers*1 | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.1 identify agricultural techniques*1 need to be examined and developed based on the study of IMAP and the action plans made by the target small-scale farmers | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.2 Examine and develop the techniques identified in 2-1 | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.3 Field examined and developed techniques to be applied in agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2 | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed in the target agriculture cooperatives and in district. | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make accesses for developing market-oriented farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.3 Facilitate the district agricultural offices to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the districts | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.4 Monitor the district agricultural office to implement the above plans | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.5 Facilitate the target agricultural directorates to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Other related activities | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Joint Steering Committee | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | |
| Mid-term Review (if necessary arises)*2) | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | |
| Terminal Evaluation | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | | [Gantt bars] | | | | | | | | | | | |

*1) Activities of 1, 8 and 1-9 will be implemented at appropriate time according to the progress of the Project.
 *2) Instead of the mid-term review, the Project consultation mission will be conducted to facilitate smooth implementation of the Project responding to the project progress.

添付資料 2 業務フローチャート

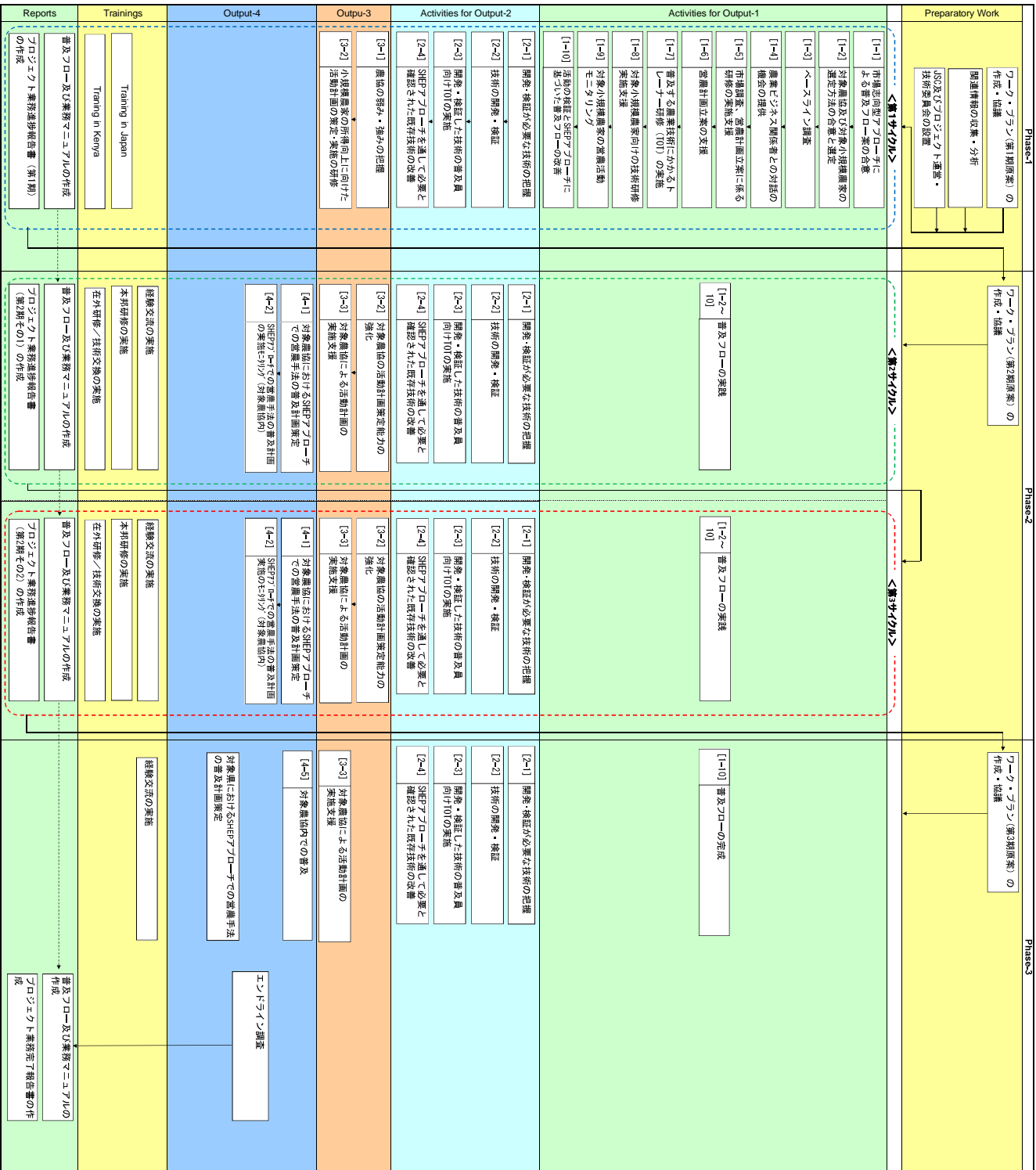
添付資料 3 詳細活動計画

添付資料 4 専門家派遣実績

添付資料 5 研修員受け入れ実績

添付資料 6 供与機材・携行機材実績

添付資料2 業務フローチャート



添付資料3: 詳細活動計画(第2期)

Project Name : Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Duration: 2014-2019 (5 years)

Target Group : Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

Target sites: Minia, Assiut Governorate

As of May 2015

| Activities | 2015 | | | | | 2016 | | | | | 2017 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|----|------|---|---|---|---|------|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--|
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| Output 1. Market-oriented extension approach is established. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.1 Build the consensus of the draft plan of extension flow based on the market-oriented approach between stakeholders | (Consensus of Improvement of Extension Flow was made in the end of Phase 1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Select 3 districts in Minia and 4 districts in Assiut from each block of the Governorate. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Select one target agricultural cooperative in each district according to selection criteria. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Select 40 target small-scale farmers (30 men and 10 women) in each cooperative according to selection criteria. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) Hold orientation meeting to the selected farmers and carry out gender mainstreaming dissemination and gender survey | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Collect the data of local traders, and arrange meetings with these traders and target cooperatives/farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Carry out the dialogues for local agri-business stakeholders and the ones from Cairo (nation-wide stakeholders) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Provide information on agribusiness stakeholders to women | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Study village and district markets and arrange the visit by farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Visit markets near the target village with the farmers and conduct the market survey training. (Learn from traders about harvesting periods, quality, size, etc.) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Analyze the survey result with the target farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) Facilitate possible market survey for women. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers (include women) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Prepare questionnaire sheet for the survey, which farmers can understand easily. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Conduct the questionnaire survey with target farmers and village extension staff. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Prepare the format for women and carry out the baseline survey for women activity | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Summarise and share the results of business dialogues and market survey among the target farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Based on the baseline survey, assist the target farmers to set their target income increase. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Make action plans at the village cooperative office. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) Facilitate women to identify the activity to engage and make plan. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1.6. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Select training programs on appropriate skills development of extension staff (May cover topics such as soil preparation (before sowing), after growing, and before harvesting.) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Arrange trainers in consultation with Central Administration for Agriculture Extension, Agriculture Research Centers and Extension Department. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Conduct trainings for extension staff from governorate, districts and villages at the extension hall of the Agriculture Directorate. (If possible, marketing trainings can be included, and female extension staff should attend the trainings.) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers*1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Try some methods such as farmer field school, demonstration farms, exchange visits, etc. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Carry out trainings for women. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers*1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Establish a monitoring committee consisting of village extension staff for daily monitoring. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Establish a district extension committee for weekly monitoring. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) Establish a governorate extension committee for monthly monitoring. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) Females extension staff at district may join the district monitoring committee to monitor the technical training progresses. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Analyze the above monitoring results to check appropriateness of the extension flow. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Improve the extension flow in consultation with the stakeholders. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.1 Identify agricultural techniques need to be examined and developed based on the study of IMAP and the action plans made by the target small-scale farmers | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Other relevant information (including IMAP results, action plans made by the target small-scale farmers, the MALR's experiences, the current cultivation practices, etc.) are collected and sorted out. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) With reference to the collected relevant data, identify agricultural techniques to be examined and developed. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.2 Examine and develop the techniques identified in 2.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Prepare the fields for examination and development of techniques (demonstration farms, farmers' fields). | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Evaluate effectiveness of these techniques in comparison with past and present practices. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Collect and analyze the activity results of 2.2. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Feed back the appropriate techniques for the target small-scale farmers to the ToT in 1.7. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Compare and evaluate existing and newly practiced/introduced agricultural techniques. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Prepare new materials for improved agricultural techniques that are beneficial for the target small-scale farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Conduct SWOT analyses with the target agricultural cooperatives' members. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Identify appropriate training subjects/topics for making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Arrange trainers to conduct the trainings. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) Visit the target agricultural cooperatives and monitor their activities regularly. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) Give advice on implementation of the action plans to village extension staff. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed in the target agriculture cooperatives and in district. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.3 Facilitate the district agricultural offices to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the districts | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.4 Monitor the district agricultural office to implement the above plans | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.5 Facilitate the target agricultural directorates to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Other related activities | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Joint Steering Committee | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Mid-term Review (if necessity arises)*2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Terminal Evaluation | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

*1) Activities of 1.8 and 1.9 will be implemented at appropriate time according to the progress of the Project.

*2) Instead of the mid-term review, the Project consultation mission will be conducted to facilitate smooth implementation of the Project responding to the project progress.

添付資料 4 専門家派遣実績

第1期 現地業務

| 氏名 (担当業務) | 格付 | 渡航 回数 | 2014年 | | | | | | | | | | | | 2015年 | | | | | | 人・月 | | | | |
|-----------------------------------|----|----------|-------|---------------|---------------|--------------------|---------------|-------------------|--------------|--------------|------------------|--------------|-----------------|--------------------|-------------|---------------------|----------------------------|---------------|---------------|------------|------|-------|------|--|------|
| | | | 第1期 | | | | | | | | | | | | 第1期 | | | | | | 現地 | 国内 | | | |
| | | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | | | | | | |
| 畑 明彦 (チーフアドバイザー/マーケティング (農産物)) | 2 | 計画 | 3 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 10.00 | | | |
| | 実績 | 3 | | 5/16 (9) | 6/1 (75) | 8/19,23,30 (14) | 7/20 (8) | 8/3, 8/21 (24) | 8/28 (18) | 9/15 (18) | 10/11,28 (22) | 11/1 (22) | 7,10,15 (14) | 12/8,19,26 (14) | 1/17 (8) | 2/16, 21, 28 (8) | 3/3, 7, 14, 21, 28 (18) | 4/1, 8 (6) | 5/10 (23) | 6/1 (9) | 6.57 | | | | |
| 飯塚 恵治 (営農/普及 (1)) | 3 | 計画 | 3 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 6.00 | | | |
| | 実績 | 3 | | 5/28 (60) | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 6.00 | | |
| 足達 慶向 (営農/普及 (2)) | 4 | 計画 | 1 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 1.20 | | | |
| | 実績 | 1 | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 1.20 | | | |
| 平山 康太 (農民組織強化/業務調整/研修計画 (1)) | 4 | 計画 | 3 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 5.00 | | | |
| | 実績 | 3 | | 5/26 (34) | 6/28 (7) | 9/8 (7) | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 4.60 |
| 山本 麻起子 (ジェンダー/農村社会) | 4 | 計画 | 2 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 4.00 | | | |
| | 実績 | 2 | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 4.23 | | | |
| 原 律子 (業務調整/研修計画 (2)) | 6 | 計画 | 2 | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 3.20 | | | |
| | 実績 | 2 | | 5/30 (60) | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 3.20 | | |
| | | | | 現地業務 小計 | | | | | | | | | | | | 計画 | | | | | | 29.40 | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | 実績 | | | | | | 25.80 | | | |

第1期 国内業務

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|----|----|--|---------------|-----------------------------|---------------------|-------------|------------|-------------|--------------|-------------|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------------------|----------------|----------------|--------------|------|--|-------|------|
| 畑 明彦 (チーフアドバイザー/マーケティング (農産物)) | 2 | 計画 | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 0.00 | |
| | 実績 | | | 5/27 (3) | 8/3, 12, 15, 22, 29 (10) | 7/15, 24, 27 (5) | 8/24 (2) | 9/7 (2) | 10/6 (6) | 10/29 (4) | 11/6 (4) | 11/9, 26 (6) | 12/15, 24 (6) | 1/11, 25 (7) | 2/18, 26 (3) | 3/1, 12, 18, 24, 31 (9) | 4/5, 14 (2) | 5/7, 31 (4) | 10/15 (3) | 3.27 | | | |
| 飯塚 恵治 (営農/普及 (1)) | 3 | 計画 | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 0.20 | |
| | 実績 | | | 5/19 (4) | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 0.20 |
| 平山 康太 (農民組織強化/業務調整/研修計画 (1)) | 4 | 計画 | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 0.00 | |
| | 実績 | | | [Gantt Chart] | | | | | | | | | | | | [Gantt Chart] | | | | | | 0.40 | |
| | | | | 国内業務 小計 | | | | | | | | | | | | 計画 | | | | | | 0.20 | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | 実績 | | | | | | 3.87 | |
| | | | | 合計 | | | | | | | | | | | | 計画 | | | | | | 29.60 | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | 実績 | | | | | | 29.67 | |

業務従事計画： [Grey Bar]
 業務従事実績： [Black Bar]
 自社負担： [Hatched Bar]

| | | | |
|------|------------------|---------------|---------------|
| 報告書等 | 業務進捗報告書 (4/9/14) | 7-77 ラン (第1期) | 業務進捗報告書 (第1期) |
|------|------------------|---------------|---------------|

- (注) 1. 畑は現地参加であるため、カイロでの業務を国内作業、カイロ外および日本国での業務を現地作業とする。渡航については、カイロ-東京を3回計画している。
 2. 畑は、8月13日～8月24日の期間で日本国へJICA進捗報告業務等で渡航した。ただしこの期間中、8月18日～8月20日の3日間は研修に参加したので、この期間はアサイン対象外となる。
 3. 原は、第1回渡航で、5月30日～9月14日(自社負担含む)とするが、8月13日～9月12日の期間はザンビア国の他業務に従事する。
 4. 平山は、9月8日～9月14日に現地業務を行ったが、エジプト国で他業務に従事中に同期間のみ本業務に従事したため、同期間での航空賃は発生しない。
 5. 原は、第2回目の現地アサインで自社負担追加を当初計画していたが、現地業務は正規アサインのみとし、帰国後国内にて本邦研修計画の準備作業に従事する。
 6. 畑(2等級)のアサイン5日間を山本(4等級)に振りかえる。等級差を考慮し契約額の範囲内で山本のアサインを7日間増とする。
 畑のアサイン減(5/30)+山本のアサイン増(7/30)： -5/30+7/30=+0.07となり、アサインの合計は29.67MMとなる。
 7. 平山は、4月1日から10日の間に土日を除く8日の国内作業(本邦研修プログラムの準備作業)実施に対し、現地アサインから振り替える。

添付資料 4 専門家派遣実績
第3期 現地業務

| 氏名 (担当業務) | | 2018 | | | | | | | | | | | | 2019 | | | | | 人・月 | |
|----------------------------------|--------|---|----------------------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------|-----------------------|---------------------|------------------------|--------------------------|----------------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|------------------|-----------------|--------|-------|------|------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 第3期 | |
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 現地 | 国内 |
| 畑 明彦 (チーフアドバイザー/マーケティング(農産物)) | 計画(変更) | [Gantt chart showing planned activities from Jan to Dec 2018] | | | | | | | | | | | | | | | | | 4.85 | 注2 |
| | 実績 | 1/28 31 (4) | 2 11 26 7 12 27 (10) | 6 10 18 25 8 12 19 27 (11) | 16 22 29 19 24 30 (12) | 22 23 (2) | 20 23 21 24 (4) | 30 1 6 14 (6) | 5 12 2 9 17 (16) | 2 8 23 3 11 24 (8) | 4 12 27 9 16 28 (14) | 9 22 11 24 (6) | 20 29 21 31 (5) | 3 18 26 5 19 (7) | 26 27 (30) | 17 24 (6) | 3.60 | | | |
| 足達 慶尚 (営農/普及(2)) | 計画(変更) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.30 | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.30 | |
| 平山 康太 (農民組織強化/業務調整/研修計画(1)) | 計画(変更) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.80 | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.80 | |
| 山本 麻起子 (ジェンダー/農村社会) | 計画(変更) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.90 | |
| | 実績 | 1/29 (30) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.90 |
| 原 律子 (業務調整/研修計画(2)) | 計画(従前) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.00 | |
| | 実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2.00 | |
| 現地業務 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 計画(変更) | 18.85 | | |
| 現地業務 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 実績 | 17.60 | | |

第3期 国内業務

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|---|---------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------|-------------------|-----------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|---------------|------|--|--|--------|-------|------|
| #REF! | 計画(変更) | [Gantt chart showing planned activities from Jan to Dec 2018] | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.45 |
| | 実績 | 1/17 21 18 22 (4) | 6 8 13 28 15 15 (6) | 4 13 22 24 15 13 22 29 (17) | 10 15 26 12 15 26 (5) | 2 24 25 3 24 29 (4) | 10 19 11 19 (3) | 2 7 2 9 (4) | 12 13 (2) | 4 7 14 22 25 4 7 14 22 25 (6) | 11 18 21 25 11 19 22 26 (7) | 15 22 27 15 23 28 (5) | 5 5 (1) | 2.70 | | | | | |
| 国内業務 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 計画(変更) | 1.45 | |
| 国内業務 小計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 実績 | 2.70 | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 計画(変更) | 20.30 | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | 実績 | 20.30 | |

業務従事計画: [Grey bar]
業務従事実績: [Black bar]
自社負担: [Hatched bar]

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|--------|-----|---|---|---|---|---------|-----|---|---|---|---|---------|---|---|---|
| 報告書等 | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| | 業務計画書 | ワークプラン | 第3期 | | | | | 業務進捗報告書 | 第3期 | | | | | 業務完了報告書 | | | |

(注) 1. 畑は現地参加であるため、カイロでの業務を国内作業、カイロ外および日本国での業務を現地作業とする。渡航については、カイロ-東京を1回計画している。
2. 畑の計画(変更)欄に示しているMMのうち1.45MMは、国内業務(カイロでの業務)の方に振り分けてある。

添付資料5 研修員受入実績 (第三研修会)

| Name | Period of Participation (From / To) | Field / Name of the Course | Content | Implementing Institution | Position at that time | Current Position, Date of turnover |
|--------------------------------------|--|--|-----------------------------|---------------------------|--|---------------------------------------|
| OSAMA Saad ELIthy Shabaan | 16 Nov, 2014 29 Nov, 2014 | Group and Region Focused Training: Market-Oriented Agriculture Promotion for Executive Officer in Africa (B) | Market-oriented agriculture | JICA | CAAC, General Coordinator | CAAC, General Coordinator |
| GABR Mohamed Mohamed Mohamed Abdalla | 11 May, 2015 26 May, 2015 | Country focused Training: Learning Lessons from the development of market-oriented agriculture in Japan | " | JICA / ISMAP Project Team | CAAC, Head | Retired |
| MOSTAFA Mostafa Roshdy Fahim | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Assist. Agriculture Directorate, Undersecretary | Retired |
| HANA Waged Nesim Labeb | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Minia Agriculture Cooperation Dept. Agronomist | |
| BADAWI Kamaladin Ahmed Ibrahim | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Minia Agr. Extension Dept. General Director | |
| BOULES Rany Gamir Fouad | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Minia Extension Dept. Agriculture Engineer | |
| SALEM Hamdi Abdalbasir Abdalzaher | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Minia Agr. Cooperation Dept., General Director | Retired |
| MANSOUR Gamal Somaal Habib | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Assist.Horticulture Dept. General Manager | |
| MOHAMED Hamdy Mohamed Krialil | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Assist.Agr. Extension Dept. Directorate Head | |
| ABDELFAH Mostafa Kamal Abdelwahab | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | Assist.Agr. Cooperation Dept.Direcatorate Head of Proj,Dept | |
| ELSAD Faysz Saadudin Mostafa | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | CAAC, Livestock Department Director | |
| SOBEH Gamal Elsayed Mohamed | 11 May, 2015 26 May, 2015 | " | " | " | CAAC, Technical Office, General Manager | |
| MOHAMED Shehata Mohamed Shehata | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Minia Agri. Extension Dept., General Director | |
| HASSANEIN Mohamed Ahmed Mohamed Bakr | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Assist Agr. Cooperation Dept. Vice Manager | |
| MOHAMED Walid Mohamed Ahmed | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | CAAC, Technical Office, Agricultural Engineer | |
| HASSAN Zinab Hassan Abdalaziz | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Assist Horticulture Dept.Veget.&Med.Aromatic Plants Sect/Veg.Dept Head | |
| ABDULHALEEM Marwa Mohammed Soliman | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Assist Horticulture Dept./Agr.Cooperation Administ, Agriculture Engineer | |
| ABDELALIM Anil Mohammed Abdallah | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | CAAC, Technical Office, Second Agricultural Specialist | |
| ELSHERIE Lamias Ahmed Antar Mohamed | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | CAAC, Technical Office, Agricultural Engineer | |
| MOHAMED Hanan ElKhergawi Sayed | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Minia Agriculture Cooperation Dept., Head of Agr.Products Sect. | |
| MAHMOUD Maha Abdelazim Elbasdi | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Minia Agriculture Cooperation Dept. General Director/Orient.&Org. | |
| ESSA Sherin Hussein Aly | 14 May, 2016 27 May, 2016 | " | " | " | Assist Horticulture Dept./Agr.Cooperation Administ, Head of Palm Sector | |
| Mohamed Ahmed Abdalhadid Elfihi | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | CAAC, Marketing Dept. General Manager | Passed away |
| Osama Saad ElIthy Shabaan | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | CAAC, General Coordinator | |
| Mohamed Elsayed Eid Elsayed | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | CAAE, Grain Management Dept., Agriculture engineer | |
| Abeer Abo Elmagd | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | CAAE, Monitoring and Guidance Dept., Manager | |
| Mohamed Azza Ramadan | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | Minia Agriculture Cooperation Dept. Head of marketing section | |
| Barty Helmy | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | Assist Horticulture Dept., Horticulture engineer | |
| Mahmoud Osman | 7 May, 2017 18 May, 2017 | " | " | " | Assist Agr. Extension Dept. Agricultural extension engineer | |

| 物品名称 | 規格・品番 | 通貨 | 取得価額 | 物品使用部署 | 物品用途 | 配置場所 | 取得日 | 備考(供与機材使用部署) | 使用場所 |
|----------------|--|-----|----------|---------|------|-----------|------------|-----------------------|--------|
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H6HK3M) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートEl Nakhella農協 | Assiut |
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H6JQ72) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートBany Mor農協 | Assiut |
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H6HG7K) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートEl Mashaya農協 | Assiut |
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H6J8J3) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートMan Flood農協 | Assiut |
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H6K2M6) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートAwlad Elias 農協 | Assiut |
| Printer | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H4X9J7) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | アシユートSahel Sellem農協 | Assiut |
| Digital Camera | HP laser jet pro MFP M127fn.(CNB9H4R70F) | EGP | 1650.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2016/2/8 | カイロサービスフロアローアープ局農協中央部 | Cairo |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038819) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアAbo Korkus郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038765) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアMallawe郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038809) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアDyre Mutas郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038775) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアMatari郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (063061116580) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアMaghaigha郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (063061116590) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアEl Edwa郡農業事務所 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038813) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアGendaya農協 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (073061038808) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアTala農協 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (082306002021) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | ミニアHataha農協 | Minia |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038817) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートAssiut郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038811) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートDyout郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038821) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートAbroub郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038812) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートEl Badary郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038822) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートEl Kosya郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038818) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートAbo Teag郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038814) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートEl Fath郡農業事務所 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038810) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートEl Mashaya農協 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038820) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートMan Flood農協 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038816) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートAwlad Elias 農協 | Assiut |
| Digital Camera | Canon IXY 160 (73061038815) | EGP | 915.000 | エジプト事務所 | 事業用 | プロジェクトサイト | 2015/11/24 | アシユートSahel Sellem農協 | Assiut |

添付資料 7 合同調整委員会議事録等

第 1 回~第 9 回 JSC 議事録

(第 5 回および第 8 回 JSC 会議は、各々中間レビュー時および終了時評価時に行われたものであり、ここでは議事録を省略する)

*MINUTES OF THE MEETING
ON
THE FIRST JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE
PROJECT (ISMAP)*

*AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY*

Cairo, 26th August, 2014



Eng. Hamdy Mohamed Assi
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land
Reclamation
The Arab Republic of Egypt



Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as "MALR") agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for "Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)" (hereinafter referred to as "the Project") in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as "C/P", conducted a series of workshops to understand the contents of the R/D, to introduce to the concept of the Project and to prepare the Work Plan of the first phase. Based on the workshops, the Project Team has prepared "Work Plan" to implement the Project.

1. Opening Remarks

The Joint Steering Committee meeting began with the introduction by the Chairman, Eng. Hamdy, the Head of Agriculture Services and Follow-up Sector. The Chairman expressed the appreciation for the support of the Japanese Government. He hopes that this good cooperation will continue in the future.

Following the Chairman, Mr. Nakasone from JICA Egypt Office gave opening remarks of the Committee. He showed appreciation for the participants to join the 1st Joint Steering Committee. He mentioned that improvement of agricultural sector is one of the most prioritized sectors for both JICA and the Government of Egypt. More detail of his remarks is attached to Annex-II.

2. Introduction of Attendants

Each of the attendants made a brief self-introduction.
(See attached Annex-I Attendant List)

3. Presentation for the Project outline and the Work Plan

Four (4) representatives of the Project Team presented the contents of the Work Plan: 1) background by Mr. Osama, General Coordinator of the Project, 2) outline of the Project by Dr. Maha, Team Leader of the Project Team in Minia, 3) basic approach by Mr. Hata, Chief Advisor, and 4) plan of operation by Mr. Gamal, Team Leader of the Project Team in Assiut. The following discussion clause shows questions and answers from the attendants, and comments made in the Joint Steering Committee.

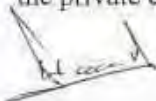
1. Discussion

1. The Chairman suggested visiting some of the IMAP sites with the Chief Advisor to see what IMAP have done in Minia and Assiut.
2. The Chairman asked whether the Project only focuses on local market and suggested that it would be great progress if the Project can help small-scale farmers reach the level of exportation. The Chief Advisor explained that the Project Team have discussed which level of market small-scale farmers can access and decided to start with connecting small-scale



farmers to local traders in consideration of the capacity of farmers. He further explained that the Project Team will also try to help small-scale farmers connect with exporters as the 2nd step depending on the capacity of farmers since the Team has also been aware of importance for small-scale farmers to access the wide range of market including international market.

3. The Chairman questioned the criteria of selecting agriculture cooperatives and farmers for the Project. The leader of the Project Team in Assiut explained some specific criteria, which include nature of agricultural cooperatives; strong and active board members of agricultural cooperatives, dealing with special crops such as onion, the number of extension staff, financial aspects such as budget for last three (3) years of the agriculture cooperative, and farmland size (the land holding size of the farmer should be less than three (3) feddan) for selecting farmers, etc.
4. The Chairman suggested that the Project should include processing activities, so that farmers might be able to increase their income even when prices of their crops are low. The Chief Advisor of the Project clarified that the Project focuses on cultivation and basically does not include processing activities.
5. The Chairman asked how to select the target crops. The Chief Advisor answered that farmers will select crops by themselves according to the market demand. The Project will help small-scale farmers to assess the demand of market by themselves.
6. The Chairman remarked that we have to consider what types of training we can offer to farmers and therefore, Extension Department and Agricultural Research Center should work together to offer better trainings.
7. The chairman of AGROFOOD, an export company, was present by chance and the Chairman of JSC introduced him to JSC. The chairman of AGROFOOD shared his experience with the attendants because his activities seem to be in the same course of ISMAP activities. He explained that he had 25-year experience of self-help organization and as an exporter he understands that it is very difficult for small-scale farmers to export their crops due to some specific standard for exportation, which most of small-scale farmers do not understand.
8. The chairman of AGROFOOD also shared his experience of working with agricultural cooperatives. He told that this experience was rather negative for him because agricultural cooperatives were too conservative to do something new, i.e. their law and staff had not changed for a long time and even the same board members sometimes stayed for a long period. He then explained that this was why he contacted farmers directly instead of working through agricultural cooperatives and talked to farmers about how important working together is.
9. The chairman of AGROFOOD emphasized the point that the most important thing is to change farmers' mind to seek more profit with adding more value on the current produce and the Project should make them interested in working together. He further explained that although his project has stopped due to the change of law, he hopes that new law will let the private companies do joint venture with small-scale farmers. He also recommended that



the Project should involve private sector to facilitate export.

10. The Head of Agricultural Quarantine Section under the Agriculture Services and Follow-up Sector was also invited by the Chairman to contribute to the meeting. He mentioned that it is important to make a communication between small-scale farmers and traders because small-scale farmers do not know about inspection for export, standard of international market, and the demand of market but only exporters know these. He suggested that in this sense large scale farmers who make contract with exporters will enable small-scale farmers to link with exporters.
11. The Head of Agricultural Quarantine Section also referred to the law which does not allow farmers who have less than 50 feddan to export. He explained that the Project under AGROFOOD organized many small-scale farmers to make one unit which has more than 50 feddan and contracted with traders to export. He further explained that the traders guarantee price for farmers because farmers always concern about the price and the traders decide the price before the cultivation and contract with farmers, and if international market price is higher than the pre-determined price, the traders will pay more. He added that the experience of AGROFOOD may help ISMAP because AGROFOOD has implemented similar activities as ISMAP would do. The Chief Advisor appreciated sharing the story about AGROFOOD Company and mentioned that the Project Team should continue to communicate with them to share the information.
12. The Head of Central Administration for Agriculture Cooperation commented that selected agricultural cooperatives might be able to support farmers to do contract farming in the future, particularly where there are specialty crops such as onion in Assiut. He suggested that the Project Team consider activities for facilitating contract farming.
13. The General Director of Agriculture Cooperative in Minia Governorate mentioned about selection for village cooperatives that there are hundreds of village cooperatives within one Governorate, so it will take time to explain the Project to all the village cooperatives.
14. The Chairman remarked that village cooperatives can play a role of Project expansion. Particularly, extension staff will be able to extend the Project activities to other agricultural cooperatives. The Project cannot work without extension staff. They are transferring technology and agricultural skills.
15. The Work Plan was accepted by JSC after the discussion.

End



Annex-I

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|-------------------------------|---|
| Mr. Hamdy Mohamed Assi | Head of Agriculture Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah | Head of Central Administration for Agriculture Cooperation |
| Mr. Mohamed Refaat | Head of Central Administration for Agriculture Quarantine |
| Mr. Hamdy Mahmoud | Head of Central Administration for Agriculture Extension |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Ms. Ranya Fawzi Hanfy | Agriculture Services and Follow-up Sector |
| Ms. Nagwa Hafzy | Agriculture Services and follow-up Sector |
| Ms. Dalia Abd El Hameed | Agriculture Services and follow-up Sector |
| Mr. Mostafa Roshdy Fahem | Undersecretary, Assuit Agriculture Directorate |
| Mr. Hamdy Mohamed Khalel | General Director of Agriculture Extension Department, Assuit Agriculture Directorate |
| Mr. Gamal Samuel | General Director of Horticulture Department in Assiut Agriculture Directorate |
| Mr. Hamdy Abd El baset | General Director of Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate |

Embassy of Japan

Mr. Kawamoto Yosuke First Secretary

JICA Egypt Office

Mr. Shiro Nakasone Senior Representative
Mr. Amr Saleh Senior Project Officer

JICA Study Team

Mr. Akihiko Hata Chief Advisor/ Agricultural Marketing
Ms. Makiko Yamamoto Gender/ Rural Society
Mr. Kota Hirayama Farmers' Organization/ Training Management/ Coordinator
Mr. Mena Maged Eskander ISMAP Interpreter, Assistant
Mr. Emad Ragy Hakeem ISMAP Interpreter, Assistant

Private Sector (Guest speaker)

Mr. Salah Hegazy Chairman, AGROFOOD



(10/10)

Annex-II

Opening Remarks by JICA Senior Representative

Distinguished Guest
Ladies and Gentlemen

On behalf of JICA, it is my pleasure to deliver a few words on this occasion.
First, let me express sincere gratitude to all the participants who are attending the 1st Joint Steering Committee for the Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISMAP).

As you may know, Egypt is JICA's largest partner among middle-east countries, and historically speaking, agriculture sector has been always one of the most prioritized sector for JICA's assistance to Egypt.

Based on the result of IMAP, ISMAP was strategically formulated and I am very pleased to see that the project is finally in place. It is our honor that JICA assigned the team of Sanyu Consultants headed by Mr. Hata, with the richest experience among the Japanese consultants in this sector, needless to say in Egypt.

According to our past experiences, the successful project, without exception, is always found to have "sustainability" even after the project completion.

Then what is the precondition to make it happen? That is the "ownership" of each stakeholders, in other words, each stakeholder needs to meet their expected role and function.

This project will mainly focus and work in the Upper Egypt region, and daily working partners will be the local governorate officers, cooperatives and small scale farmers. However, in order to encourage the consolidation and extension of the project outputs, the strong commitment by the central government is essential particularly in allocation of necessary budget and institutional system building.

I hope that this first JSC will be the opportunity where each stakeholder will reconfirm their role and function towards the successful goal of this project, and if there is any obstacles expected, this is the place to discuss and find solutions.

This project is planned as 5 years one, which seems long ahead, however, time will fly like an arrow. I hope that each moment of this project shall be meaningful and best utilized.

Through the first two seminars, we are encouraged by the high motivation and dedication of the counterparts, and also by the leadership of the Ministry of Agriculture. It is a great honor and pleasure for JICA and our experts to work together with you for the better future of the small-scale farmers in Upper Egypt.

I would like to conclude my remark, again, by expressing gratitude the government officials for their dedication for the commencement of this project.


Thank you all for your attention.



**MINUTES OF THE MEETING
ON
THE SECOND JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE
PROJECT (ISMAP)**

**AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**

Cairo, 11th June, 2015



Eng. Khaled Abd El Rady Menofy
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land
Reclamation
The Arab Republic of Egypt



Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as "MALR") agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for "Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)" (hereinafter referred to as "the Project") in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as "C/P", has implemented the project activities of the Phase 1 from May 2014 and it has come to an end. Upon moving to the Phase 2, the Project Team took this opportunity of presenting the progress of the Project to the Joint steering Committee.

1. Opening Remarks

The Joint Steering Committee meeting began with the introduction by the Chairman, Eng. Khaled Abd El Rady Menofy, the Head of Agriculture Services and Follow-up Sector. The Chairman expressed the appreciation for the support of the Japanese Government. He particularly mentioned the importance of enhancing capacity of village agricultural cooperatives and improving the structure of cooperatives through the project activities.

Following the Chairman, Ms. Mizoe, the representative of JICA Egypt Office gave opening remarks to the Committee. She expressed appreciation for continuous efforts on the implementation of ISMAP Project. She mentioned that this 2nd JSC is a great opportunity to share the progress with all the stakeholders and review the extension flow. She hoped that the project activities will be improved through lessons during the first batch.

2. Introduction of Attendants

Each of the attendants made a brief self-introduction.
(See attached Annex-I Attendant List)

3. Presentation for the Project outline and the Work Plan

Four (4) representatives of the Project Team presented the progress, issues and schedule of the Project. The following discussion clause shows questions and answers from the attendants, and comments made. The Project Team also presented the Extension Flow Implementation Manual.

1. Discussions

1. The Chairman commented on the selection of the target districts. He pointed out that the target districts in Minia and Assiut are close. It seems to be one area. He suggested that the Project Team should consider the location of the target districts to disseminate the project activities to all the area of the governorates.

Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah answered that the Project will cover all the districts in both Minia and Assiut Governorates.

2. The Chairman also questioned that how to measure the success of the Project, i.e. SHEP is an idea of approach and therefore the adoption rate of SHEP approach should be considered as an indicator.

Mr. Hata, the Chief Advisor of ISMAP replied that the indicator has been incorporated as the indicator for the Output-4 of the Project, which is to disseminate the extension approach to the other villages in the Districts.

3. The Chairman also pointed out the importance of indicators for value-addition. He also emphasized that the importance of providing agricultural skills and techniques including post-harvest to the farmers.

The Chief Advisor replied that we will identify the market needs first and necessary trainings including post-harvest will be considered according to the needs of the market.

The Chairman also commented on the market survey that we already know some market information. Thus, he mentioned that packaging is now important because farmers could reduce post-harvest loss. It is also important from the view point of food safety.

The Chief Advisor of the Project commented that farmers do package themselves in Japan, while, traders or middleman do package in Egypt.

The Chairman also stressed the importance of packaging by farmers themselves. There is a project introducing package to farmers in Luxor Governorate. Even 6 years after the Project, farmers are still packaging themselves, and they continue activities. He recommended that ISMAP Project should visit this project.

4. The Chairman also stressed the point of marketing. He mentioned that enhancing farmers' capacity of marketing is important. He gave the idea of database for marketing. Marketing information should be provided to the farmers through the database. This database will be included all the information about marketing such as price, consumers, and producers.

The Chief Advisor answered that the Team is accumulating the market information in the course of the project activities, e.g. list of the agribusiness companies. The Team will keep collecting information to establish database.

The Chairman responded that database is not only about traders, but also it should be included information about crops, farmers, and consumers.

5. The Chairman also pointed out that we need to analyze why all the target farmers did not consistently participated.
6. The Chairman commented that our target farmers should cultivate the same crops so that the farmers could be organized as one group. We could enhance farmers' capacity of marketing through organizing farmers' group. He also pointed out that marketing means not only selling, but also it includes buying. He emphasized that we should gather farmers to organize a group and enhance their capacity through collective selling. To establish this model, structure of village cooperatives should be improved. The Project should consider providing computers to village cooperatives to make a database so that village cooperatives

Kh

MK

can connect farmers with market. It is important to teach how to use computers and how to access to market information. This is also important for sustainability.

7. The Chairman also mentioned that when he saw pictures from IMAP project, there were still traditional ways. There was no value-addition. He referred to the project in Lxuor; it was the project coordinated by UNIDO and enhancing capacity of smallholders to do value addition.
8. The head of the Central Administration for Agriculture Extension asked the lessons from training in Japan.

Mr .Gamal, one of the participants of the training in Japan, responded that he was impressed by agricultural cooperatives in Japan. They have many activities such as selling production, storing all kinds of fertilizer in warehouse. They also have the facility for food safety. Mr. Gamal pointed out that some of the things could be done even in Egypt. For example, village cooperatives could be selling agricultural produce instead of farmers in Egypt.

9. Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah commented on the training in Japan as one of the participants that 80% of the ISMAP project activities are based on extension work, however, it is not the same situation in Japan. There is not strong extension system in Japan. Some Japanese farmers have more experienced than extension engineers. Also, he referred to marketing in Japan. Each crop has its own farmers' group in Japan. They also do contract farming. He also shared his experience in Japan; there was a small morning market to link between restaurants and small-scale farmers. He mentioned that this kind of small market is important because farmers can deal with only small amount and avoid middleman. It is a good idea to increase competitiveness among farmers.
10. Ms. Marwa from Agricultural Foreign Relations showed her appreciation for the participants of the JSC meeting and commented that linkage between farmers and markets is one of the main objectives of the Agricultural Executive Plan 2014 to 2018 under SADS 2030. She also mentioned that participation of Egyptian C/P is important to discuss many problems and Egyptian side should also consider how to participate actively in the project taking into consideration the current agricultural situation in Egypt.. Sustainability of the Project is also important. Conducting training to extension engineers is important for farmers. We have many struggles during the project implementation, but we hope that we have solutions in short period to achieve our goal. She also remarked that the Project should be implemented with budget from both Egyptian and Japanese sides.
11. Ms. Marwa also mentioned that there might be some delay receiving the needed budget and we are waiting for a notice from the Ministry of Planning in this concern. This is also important for sustainability because financial incentives may increase motivation of extension engineers and farmers.
12. Undersecretary in Minia shared his idea about small shops in village cooperatives. He would like to establish shops at village cooperatives so that farmers could bring their own products to their cooperatives. There are already small markets in District offices, however, he would like to establish shops at village level.

The Chairman closed the meeting with expressing appreciation for the Japanese side as well as

kh

2012

Egyptian side.

End

Kh

7/20

Annex-I

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|-------------------------------|---|
| Mr. Khaled Abd El Rady Menofy | Head of Agriculture Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah | Head of Central Administration for Agriculture Cooperation |
| Dr. Saad Moussa | Head of Central Administration for Plant Quarantine |
| Mr. Mohamed Soliman | Director of Field Crops Research Institute, Agriculture Research Center |
| Mr. Mohamd Sobhey Kamal | Head of Agriculture Extension Sector |
| Dr. Baker Ahmad | Head of Central Administration for Agriculture Extension |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Gamal El Sayed Sobeh | Manager of Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Waleed Mohamed Ahmed | Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Ms Amal Mohamed Abudalla | Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Kamel Mohamed | Undersecretary, Minia Agriculture Directorate |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate |
| Mr. Gamal Samuel | General Director of Horticulture Department in Assiut Agriculture Directorate |
| Mr. Mostafa Kamal | Head of Projects Department of Agriculture Cooperation, Assiut Agriculture Directorate |

Embassy of Japan

Mr. Yosuke Kawamoto First Secretary

JICA Egypt Office

Ms. Keiko Mizoe Representative

JICA Study Team

Mr. Akihiko Hata Chief Advisor/ Agricultural Marketing
Mr. Kota Hirayama Farmers' Organization/ Training Management/ Coordinator
Mr. Mena Maged Eskander ISMAP Interpreter, Assistant
Mr. Emad Ragy Hakeem ISMAP Interpreter, Assistant

nk

nk


*MINUTES OF THE MEETING
ON
THE THIRD JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE
PROJECT (ISMAP)*

*AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY*

Cairo, 28th January, 2016

Eng. Khaled Abd El-Rady Monufy
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land
Reclamation
The Arab Republic of Egypt

Kh



Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as "MALR") agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for "Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)" (hereinafter referred to as "the Project") in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as "C/P", has been implementing the project activities of the Phase 2 since July 2015 and the first 6 months has passed. The Project Team took this opportunity to present the progress of the Project to the Joint Steering Committee.

1. Opening Remarks

The Joint Steering Committee meeting began with the introduction by the Chairman, Eng. Khaled Abd El-Rady Monufy, the Head of Agriculture Services and Follow-up Sector / the Project Director. The Chairman expressed the appreciation for the support of the Japanese Government. He particularly mentioned the importance of capacity building of village agricultural cooperatives and improving the structure of cooperatives through the project activities. He also mentioned the importance of post-harvesting such as agro-processing and a need to introduce some equipment for it to be one of an alternative approach to increase the income of small-scale farmers. Following the Chairman, Mr. Nakasone, the senior representative of JICA Egypt Office gave opening remarks to the Committee. He expressed that this meeting became a good opportunity to share the progress of the project as middle term. He also mentioned the project needs to continue the follow-up activities and monitor activities for sustainability of the project and also added the importance of budget disbursement from MALR for the efficient implementation.

2. Introduction of Attendants

As shown in the attendants list.

3. Presentation for the Project outline

Dr. Maha Abd El Azem, Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate, presented the current activities with using power point. Then Mr. Hata, JICA Chief Advisor, presented the major issues and ideas for improvement, namely issues on consistency of farmers' participation and follow-up of the 1st cycle villages.

4. Discussions

1. In terms of farmer's contract farming with the company in agriculture field, Dr. Dina, the Supervisor of Central Administration for Foreign Agriculture Relations advised that it is better to make farmers understand the condition of the contract in the earlier stage. Otherwise they cannot sell their produce as much as they expect. The Chairman additionally mentioned that all the terms and conditions should be explained to the farmers

Kh

clearly, for example, color, size. Moreover, the Project Team should monitor the cultivation in order to follow the farmers. Mr. Mohamed Abd Allah, the Project Manger, explained that it is important for farmers to sign a written contract with the companies.

2. Regarding the problem of consistency of farmer's participation, Dr. Dina advised that C/P should work together well with JICA experts in order to solve this problem. C/P should survey what is the problem regarding the low consistency of participation. If the program does not attract farmers, we need to modify the activities.
3. As for the improvement of the project, the Chairman advised four points to be considered; The 1st is about reducing the post-harvest loss, 2nd is to increase the quality of agricultural products, the third is to improve the consistency of participation and the 4th is adding value to the agriculture products.
4. The Chairman also mentioned that the Project should offer modern agriculture machines with high technology to the cooperatives in order to provide the opportunity for the extension engineers and the target farmers to apply the newest agriculture techniques
5. The Chairman added that Minia is famous for milk production, so a processing unit should be considered by the Project to support rural women.
6. Ms. Mizoe, the senior representative of JICA, asked if the PDM-1 had been signed by the Chairman. The Chairman answered it had been signed.
7. In terms of achievement in the first cycle, there is no significant number that shows the increase of income. Dr. Dina said it is better to survey the reason why. She advised to survey it through the follow-up activities.
8. Ms. Mizoe inquired about the budget allocation of the Ministry to the Project. The Chairman answered that the budget to cover the travel cost for officers had been arranged and he had already provided one car each for Minia and Assuit.

The Chairman closed the meeting with expressing appreciation for the Japanese side as well as Egyptian side.

End

Kh

HA

Annex-I

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|-------------------------------|---|
| Mr. Khaled Abd El-Rady Monufy | Head of Agriculture Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Dr. (Ms.) Dina El Kheshen | Supervisor of Central Administration for Foreign Agriculture Relations |
| Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah | Head of Central Administration for Agriculture Cooperation |
| Mr. Kamel Mohamed Shaheen | Undersecretary, Minia Agriculture Directorate |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate Directorate |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Gamal El Sayed Sobeh | Manger of Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Waleed Mohamed Ahmed | CA for Agriculture Cooperation |
| Ms. Amal Mohamed Abudalla | Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Fayez Saad El Deen | CA for Agriculture Cooperation |

Embassy of Japan

| | |
|---------------------|-----------------|
| Mr. Yosuke Kawamoto | First Secretary |
|---------------------|-----------------|

JICA Egypt Office

| | |
|----------------------|-----------------------|
| Mr. Shiro Nakasone | Senior Representative |
| Ms. Keiko Mizoe | Senior Representative |
| Ms. Alshaimaa Naguib | Program Officer |

JICA Expert Team

| | |
|-------------------------|---------------------------------------|
| Mr. Akihiko Hata | Chief Advisor/ Agricultural Marketing |
| Ms. Makiko Yamamoto | Rural Sociology / Gender |
| Mr. Emad Ragy Hakeem | ISMAP Interpreter, Assistant |
| Mr. Mena Maged Eskander | ISMAP Interpreter, Assistant |

Kh

127

**MINUTES OF THE MEETING
ON
THEFOURTH JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE
PROJECT (ISMAP)**

**AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**

Cairo, 26th June, 2016



Dr. Ahmed Abou El-yazied
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land
Reclamation
The Arab Republic of Egypt



Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as “MALR”) agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for “Improving Small-Scale Farmers’ Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)” (hereinafter referred to as “the Project”) in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as “C/P”), has been implementing the project activities of the Phase 2 since July 2015 and the first one year has passed. The Project Team took this opportunity to present the progress of the Project to the Joint Steering Committee.

1. Opening Remarks

Dr. Dina El Khishin, the supervisor of Central Administration of Foreign Agricultural Relations took the chair on this Joint Steering Committee meeting and the chairperson introduced to the participants the significance of the meeting and appreciated them to gather on this occasion.

Following the chairperson, Mr. Yamazaki, the representative of JICA Egypt Office gave opening remarks to the Committee. He expressed his appreciation for the continuous efforts and cooperation of the officers of MALR. He also mentioned that he expected the Egyptian counterparts to extend the project activities to other villages in order to maximize the benefits and returns of the project. He referred to the MALR staff, officers of governorates and districts, extension engineers and Agricultural Research Center as key players to disseminate the successful implementation of our fruitful cooperation in the future.

2. Introduction of Attendants

As shown in the attendants list.

3. Presentation for the Project outline and progress

Mr. Hata, the Chief Advisor of the Project presented the progress of the Project on behalf of the Project Team. Since there have been new sector heads of Agriculture Services and Follow-up Sector, Agriculture Extension Sector and Minia Agriculture Directorate, the presentation included the outline of the Project and activities from the first year to ensure common understanding on the Project. The following issues were presented as well as the progress and measures for these issues were confirmed with no objection:

- (1) Consistency of participation: the Team will apply the improved extension flow, which includes the formation of marketing committee with active farmers in the target village.
- (2) Gender mainstreaming (Income generating activity of women): the approach should be improved based on the lessons learned from the 2nd cycle activity.
- (3) Evaluation of 1st cycle villages: it was confirmed that the JICA experts will hire specialized experts to carry out the evaluation survey.



- (4) Project budget by MALR: although the budget has been approved for the next fiscal year (July 2016 to June 2017), it needs to follow-up for on time disbursement.
- (5) PDM revision: the Team has been requesting the district agriculture offices of the 2nd cycle to set the target income increase of the target small-scale farmers. When the target for the 2nd cycle is finalized, the Team will reflect the target into the indicator of PDM and present to JSC.

4. Discussions

1. Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah, the head of Central Administration for Agriculture Cooperation (CAAC) and the Project Manager of ISMAP, mentioned that there was no special budget for the Project in the 1st and 2nd cycle; yet, the project activities were implemented very well. The chief advisor of the project responded to him that our counterparts made great efforts during the 1st and 2nd cycle, and if the Ministry has the budget for the project, the Project Team can implement the activities more effectively.
2. The chairperson commented that the number of the project targets seemed to be still limited, especially the number of the target women is small. She wondered that these target numbers are enough to disseminate the project activities to others. The chief advisor explained that the Project Team has established 3 to 6 models for women activities at each village though the budget of the Project is limited. In terms of expansion of these models to other women, The Chief Advisor mentioned that the Project Team needs to further discuss how to improve the project approach and how to maximize the impact of the project activities.
3. The Project Manager commented that there was no strong involvement of village agricultural cooperatives and extension officers to expand the project activities in the 1st and 2nd cycle. He suggested that the project should assign district extension officers, especially young officers, to supervise and monitor the project activities in the 3rd cycle. Mr. Gamal Samuel, the Team Leader of the Team in Assiut replied that the Team has already assigned 1 to 2 members from the extension and horticulture section at district and village levels and they are working together. He also mentioned that young generation of the officers is only allocated at the governorate level, not the district level. The Chief Advisor supported the comment of the Team Leader of Assiut and added the necessity of further strengthening the role of the officers at district and village levels.
4. The Project Manager also suggested that the project should assign district extension officers to follow-up the project activities and they should be allowed to attend the project activities not only in their own district, but also in all the target districts so that they can expand the project activities effectively. The Team Leader of Assiut pointed out that the Ministry needs to pay their transportation cost. He also commented that the Team invited the extension officers in the 1st cycle to the business dialogue in the 2nd cycle. The Team is trying to do such arrangement to maximize the project impact.
5. Dr. Abd El Aleem Ahmed, the head of Central Administration for Agricultural Extension (CAAE), mentioned that the Ministry does not have enough number of extension officers at district and village levels. He recommended that the project should involve active farmers (leader farmers) to



work with the extension engineers in the project activities. These farmers help the project to implement the activities. The Team Leader of Assiut explained that the project team is doing the same approach. When the project selects the target farmers, we instruct the agricultural cooperatives to select active and famous farmers. The Chief Advisor also added that the project will try to form the marketing committee with active farmers in the 3rd cycle.

6. Mr. Yamazaki, the Representative of JICA Egypt Office commented that the involvement of active farmers is important since the number of extension officers is limited. He also pointed out that extension officers might not be well motivated to participate in the project because there is no incentive for them even if they work hard. He questioned that what kind of incentive would motivate them. The Project Manager answered that patriotism could be motivation for them. He also added that even the Ministry gets the budget for the Project, there will be no incentive (additional salary) for extension officers.
7. The Project Manager mentioned that the business dialogues in the 1st cycle were fruitful and there was the result in Minia. By contrast, there were no results of the business dialogues in the 2nd cycle. He asked why there were no results in the 2nd cycle. He also pointed out that the arrangement of the business dialogues in the 1st cycle seemed better than the arrangement of the 2nd cycle. The Chief Advisor responded that there was a result in the 2nd cycle, i.e. the target farmers in Tetalia village in Assiut sold their soybean to a trader who attended the business dialogue in the 2nd cycle. He also explained that the arrangement of the business dialogues in 2nd cycle was actually better than that of 1st cycle as the Team has learned how to operate the business dialogues from the 1st cycle, but the fact is that getting contract farming is still very difficult for small-scale farmers. He added that the Team will try to improve more in implementation in the 3rd cycle.
8. Mr. Mohamed Adam, the Program Officer from JICA Egypt Officer also asked how the Ministry can implement the activities after the project without the incentives for extension officers. The Project Manager responded that we do not need incentives because the work is their mandatory.
9. The Project Manager also mentioned that some processing units were established during IMAP, but they stopped working after the project. He guessed that there would be no market to sell when farmers produced the same products. He further mentioned that women's activities in the Project include rabbit and pigeon raising and poultry and if the number of these small animals increases after the project, there would be no market to sell. He remarked that planning is the most important, and knowing the market and choosing the activity based on the market needs. It is good to help the target women to realize self-sufficiency. The Chief Advisor provided another view that during IMAP there was a primary issue, namely agricultural cooperatives did not have business mind and the importance of cultivating business mind was a lesson from IMAP.
10. Mr. Ahmed Yousef, Undersecretary of Minia, recommended that the Project should include aquaculture in the 3rd cycle. The Chief Advisor explained that we will do the market survey first and then we will decide what to do basing on the needs of market.
11. The head of CAAE asked a question if the Project establishes a tomato factory. The Chief Advisor replied that the Project cannot do it, but if agricultural cooperatives borrow the money from the SFD, they will be able to establish the factory themselves. The Project can give advice to them.



12. The Representative of JICA Egypt Office commented that discussing new ideas is very important. For example, some women groups in the 2nd cycle cultivate mushroom in spite of no diet of them in this region, it's interesting. He asked who introduced such kind of new idea to the Project. The Team Leader of Assiut answered that one of traders introduced market needs of mushrooms to women during the business dialogues.
13. The Representative of JICA Egypt Office informed that a mission from JICA HQ will visit Egypt for an intermediary evaluation of the Project next January 2017. The Chief Advisor added that the 5th JSC meeting will be in January 2017 and the meeting can be incorporated into the schedule of the mission.

End



Annex-I

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|----------------------------------|---|
| Dr. Ahmed Abou El-yazied | Head of Agriculture Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Dr. (Ms.) Dina Azceez El Kheshen | Supervisor of Central Administration for Foreign Agriculture Relations |
| Mr. Mohamed Mohamed Abd Allah | Head of Central Administration for Agriculture Cooperation |
| Dr. Abd El Aleem Ahmed | Head of Central Administration for Agriculture Extension |
| Mr. Ahmed Yousef | Undersecretary, Minia Agriculture Directorate |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Mr. Gamal Samuel Habib | Head of Horticulture Department, Assuit Agriculture Directorate |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Gamal El Sayed Sobeh | Manger of Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Waleed Mohamed Ahmed | CA for Agriculture Cooperation |
| Ms. Amal Mohamed Abudalla | Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Ms. Amal Esmat | CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Gamal Samuel Habib | Head of Horticulture Department – Assuit Agriculture Directorate |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department in Minia Agriculture Directorate |

Embassy of Japan

Mr. Yosuke Kawamoto First Secretary

JICA Egypt Office

Mr. Hajime Yamazaki Representative
Mr. Mohamed Adam Program Officer

JICA Expert Team

Mr. Akihiko Hata Chief Advisor/ Agricultural Marketing
Mr. Kota Hirayama Farmers' organization/ Training Plan/ Project Coordinator
Mr. Emad Ragy Hakeem ISMAP Assistant
Mr. Mena Maged Eskander ISMAP Assistant



*MINUTES OF THE MEETING
ON
THE SIXTH JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE PROJECT
(ISMAP)*

*AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY*

Cairo, 19th July, 2017

EL-shenawy

Dr. Abbas El Shenawy
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land Reclamation
The Arab Republic of Egypt

Akihiko Hata

Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as "MALR") agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for "Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)" (hereinafter referred to as "the Project") in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as "C/P"), has been implementing the project activities of the Phase 2 since July 2015. A mid-term review of the Project was carried out from 7th January 2017 to 26th January 2017 and upon the recommendations from the mid-term review mission, the Project Team has modified the activities. The Project Team took this opportunity to present the progress of the Project to the Joint Steering Committee.

1. Opening Remarks

The chairperson, Dr. Abbas El Shenawy, the Head of Agricultural Services and Follow-up Sector, introduced to the participants the significance of the meeting and appreciated them for their attendance on this occasion. The chairperson also showed his appreciation for JICA to provide an additional support for the part of project budget until October 2017, which was supposed to be borne by the Ministry of Agriculture and Land Reclamation, taking into consideration the current financial difficulties of the Egyptian government.

Following the chairperson, Mr. Iwasaki, the senior representative of JICA Egypt Office, gave opening remarks to the Committee. He expressed his pleasure for joining this meeting.

2. Introduction of Attendants

As shown in the attendants list (Annex-1).

3. Presentation for the progress of the Project activities

Dr. Maha, the head of the Agriculture Cooperative Department in Minia, and Ms. Zanab, Extension Engineer of the Horticultural Department in Assiut, presented the progress of the field activities in Minia and Assiut governorates respectively. They explained about the current status of the 3rd cycle activity and orientation of the 4th cycle activity.

Following them, Mr. Hata, the Chief Advisor of the Project presented the Mid-term Review recommendations and the progress of their reflection into the project activity. In addition, he introduced some success stories as correspondences of the recommendations. Then he also explained about the updated PDM (PDM-2), which was agreed on May 30, 2017 as the result of reflecting the recommendations from the mid-term review mission. He explained the major change from PDM1 to PDM2, such as change of descriptions, addition of indicators for project purpose, and cancelation of activities for Output-4, etc. PDM-2 is attached as Annex-2.

After explaining PDM-2, the Chief Advisor further explained the change of target increase of farm income in overall goal and project purpose in order to reflect target farm income increase of all the target villages, since the previous target was only reflecting the target of the 1st cycle villages. The update of the

EL

1

2017

indicators was approved at this meeting. PDM-3 reflecting the updated indicators together with the Plan of Operation to reflect the updated PDM (PO-1) are attached as Annexes-3 and 4.

4. Discussions

1. The chairperson mentioned to avoid using the words of "Trial farm" because it has a special specification. Then he advised that we could call it "Model farm".
2. Mr. Mohamed Adam, the Program officer of JICA Egypt Office, commented about the result of potato demo-farm in Sahel Selem village, which showed low return. Ms. Zanab explained the reason as the potato farm had been damaged by frost and the demo-farmer did not follow the advice of the extension engineer well. She, however, added that the farmers and the extension engineers understood the reason of low return and there would be no negative impacts.
3. Dr. Youssef Khamis, Associate Director of Central Administration for Foreign Agricultural Relations, advised that we would like to make opportunities of exportation for specialty produces i.e. pomegranates in Sahel Selem and Man Froot villages. Mr. Ibrahim A. Sorour, undersecretary of the Ministry in Assiut, replied the Project already had considered about specialty produces.
4. Mr. Iwasaki, the Senior Representative of JICA Egypt Office commented that the budget of Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MAIR) was very important to make this project sustainable. In addition, he commented about safety of the JICA Expert Team, and he asked the Ministry for security supports.

End

EL-

JH

Annex-1

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|------------------------------|---|
| Dr. Abass El Shenawy | Head of Agricultural Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Dr. Sayed Khalifa | Head of Agricultural Extension Sector |
| Mr. Ezz El Arab Ahmad Salama | Head of Central Administration (CA) for Agricultural Cooperation |
| Dr. Abd El Aleem Ahmed | Head of CA for Agriculture Extension |
| Dr. Youssef Khamis | Associate Director of CA for Foreign Agricultural Relations |
| Mr. Ibrahim A. Sorour | Undersecretary of Assiut Agriculture Directorate |
| Mr. Bayoumi Abd El Maged | Deputy of Agricultural Economics Research Institute, Agriculture Research Center (ARC) |
| Mr. De. Hesham Mohamad | Head of Agricultural Extension Research Institute, ARC |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Ms. Mai Saayed Metawaa | Assistant, Office of Minister |
| Ms. Hoda Ahmad Abd El Maget | Assistant, Office of deputy Minister (Dr. Safwat el Hadad) |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Gamal El Sayed Sobeh | Manger of Technical Office, CA for Agriculture Cooperation |
| Ms. Lamiaa Ahmad El Sheref | Technical office specialist, CA for Agriculture Cooperation |
| Dr. Maha Abd El Azem | Head of Orientation and Organization, Agriculture Cooperative Department, Minia Agriculture Directorate |
| Ms. Marwa Mohamed Soliman | Extension Engineer, Extension Department, Assiut Agriculture Directorate |
| Ms. Zanab Hasen Abd el Aziz | Extension Engineer, Horticultural Department, Assiut Agriculture Directorate |

Embassy of Japan

Mr. Takuji Ikeya First Secretary

JICA Egypt Office

Mr. Akihiro Iwasaki Senior Representative
Mr. Hajime Yamazaki Representative
Mr. Mohamed Adam Program Officer

JICA Expert Team

Mr. Akihiko Hata Chief Advisor/ Agricultural Marketing
Mr. Shota Kamiohkawa Agricultural Economics
Mr. Emad Ragy Hakeem ISMAP Assistant
Mr. Mena Maged Eskander ISMAP Assistant
Ms. Mariam Zayed ISMAP Assistant

Annex-2: Project Design Matrix (PDM)-2

Annex-3: PDM-3

Annex-4: Plan of Operation-1

EL

770

Project Design Matrix (PDM2)

Project Title: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Project Duration: 2014-2019 (5 years)

Project Sites: Minia, Assiut Governorate

Target Group: Small-scale farmers in the agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of May 30, 2017

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption |
|---|---|---|---|
| [Overall Goal] Agricultural incomes of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages*1 in Minia and Assiut Governorates are increased. | a. Average agricultural income of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages in Minia and Assiut Governorates are increased by 13% (Detail is attached as PDM2.1-(2) and (3)). | a. Sample survey (included by the baseline surveys) | |
| [Project Purpose] Agricultural incomes of the small-scale farmers and surrounding small-scale farmers*2 who practice the ISMAP Approach are increased. | a. The agricultural incomes of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased by 6% - 22% by household and village (Detail is attached as PDM2.1-(2) and (3)). b. At least 30% of the women who practice the ISMAP Approach have made a business plan and practiced the market-oriented activity based on the plan. c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased. d. More than a half of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach changed their farming style toward market based.*3 | a. Baseline surveys** b. End-line survey c. Sample survey | - Necessary budget of MALRF for implementing extension activities based on the market-oriented approach is secured. |
| [Outputs] 1. Market-oriented extension approach is established. | a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated. b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders. c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC). | a. Draft of extension flow based on the market-oriented approach b. Interview with the relevant stakeholders c. Approved extension flow based on the market-oriented approach | - Counterpart personnel (C/P) who received trainings by the Project will continuously work. |
| 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed. | a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made. b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff. | a. Guidelines and manuals of agricultural techniques b. Training materials of ToT | |
| 3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented. | a. Action plans of the target agricultural cooperatives b. Project progress report | |
| 4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives. | a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. | a. Project progress report b. End-line survey | |

| Activities | Input | | |
|---|--|--|---|
| <Output 1> 1-1 Build the consensus of the draft plan of extension flow*4 based on the market-oriented approach between stakeholders 1-2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method 1-3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers 1-4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders 1-5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning 1-6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans 1-7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff*5 regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6 1-8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers 1-9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers 1-10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity <Output 2> 2-1 Identify agricultural techniques*7 need to be examined and developed based on the study of IMAP*8 and the action plans made by the target small-scale farmers 2-2 Examine and develop the techniques identified in 2-1 2-3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7 2-4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow <Output 3> 3-1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans 3-2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes 3-3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2. <Output 4> 4-1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives. 4-2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans. 4-5 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach. | [Japanese side] (1) Dispatch of Experts - Leader/Market-oriented agriculture - Appropriate agriculture techniques and extension - Agricultural cooperative - Project coordinator/Training management - Other short-term experts as per necessity (2) Provision of equipment (Ex. Equipment and materials necessary for Output 2 and 3) (3) C/P Training in Japan and/or third country (4) Local cost shared by Japanese side - A part of operational costs for implementing the activities (Ex. Costs for experts' activities) | [Egyptian side] (1) C/P Project Director Project Manager Other counterparts (2) Office space and facilities for the Project - Necessary working space and facilities for JICA experts (3) Necessary Arrangement - Acquisition of the permission for the work in the field (4) Local cost shared by Egyptian side - Operational cost for the Project implementation (Ex. Training cost, personnel expenses and traveling cost for C/Ps) | - Personnel transfer of executive management will not affect the implementation of the Project. [Pre-condition] The Egyptian political situation is stable. |

(Notes: PDM including the indicators and PO are reviewed and revised in the JSC, if necessary.)

*1) Definition of the "surrounding villages" is two surrounding villages per one target village in the Project. The Overall Goal aims at disseminating the ISMAP Approach to increase the farmers' incomes at the village level.

*2) Definition of the "surrounding small-scale farmers" is two surrounding farmers per one targeted farmer. The Project Purpose aims for the ISMAP Approach to be effectively applied to the targeted farmers and also aims for the surrounding small-scale farmers to understand its effectiveness and apply this approach.

*3) Changes in farmers' farming style is monitored using monitoring sheet.

*4) Scope of the baseline survey is focused on the target agricultural cooperatives and small-scale farmers selected by the Project. Farmer's survey of the baseline survey is recommended to refer to a sample of the crop production and income analysis data sheet used in other JICA projects.

*5) The draft plan of extension flow includes process of extension, roles and responsibilities of relevant organizations, and so on.

*6) In principal, target extension staffs for the ToT are extension staffs at village and district levels, and other target participants will be selected in the Project, according to the situation of each governorate.

*7) The techniques tentatively include improving cultivation techniques, for example, adjusting cropping season, improving pattern, new varieties, intercropping and using organic fertilizer, improving postharvest.

*8) The Project for the Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (IMAP)

EL MA

Project Design Matrix (PDM3)

Project Title: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Project Duration: 2014-2019 (5 years)

Project Sites: Minia, Assiut Governorate

Target Group: Small-scale farmers in the agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of July 19, 2017

| Narrative Summary | Objectively Verifiable Indicators | Means of Verification | Important Assumption |
|---|---|---|--|
| [Overall Goal] Agricultural incomes of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages*1 in Minia and Assiut Governorates are increased. | a. Average agricultural income of the small-scale farmers in the target villages and surrounding villages in Minia and Assiut Governorates are increased by 19%. | a. Sample survey (included by the baseline surveys) | |
| [Project Purpose] Agricultural incomes of the small-scale farmers and surrounding small-scale farmers** who practice the ISMAP Approach are increased. | a. The agricultural incomes of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased by 6% - 37% by household and village. b. At least 30% of the women who practice the ISMAP Approach have made a business plan and practiced the market-oriented activity based on the plan. c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased. d. More than a half of the small-scale farmers who practice the ISMAP Approach changed their farming style toward market based.**3 | a. Baseline surveys** b. End-line survey c. Sample survey | - Necessary budget of MALR for implementing extension activities based on the market-oriented approach is secured. |
| [Outputs] 1. Market-oriented extension approach is established. | a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated. b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders. c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC). | a. Draft of extension flow based on the market-oriented approach b. Interview with the relevant stakeholders c. Approved extension flow based on the market-oriented approach | - Counterpart personnel (C/P) who received trainings by the Project will continuously work. |
| 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed. | a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made. b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff. | a. Guidelines and manuals of agricultural techniques b. Training materials of T&T | |
| 3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened. | a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented. | a. Action plans of the target agricultural cooperatives b. Project progress report | |
| 4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives. | a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. | a. Project progress report b. End-line survey | |

| Activities | Input | |
|---|---|---|
| <p><Output 1></p> <p>1-1 Build the consensus of the draft plan of extension flow³ based on the market-oriented approach between stakeholders</p> <p>1-2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method</p> <p>1-3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers</p> <p>1-4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders</p> <p>1-5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning</p> <p>1-6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans</p> <p>1-7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff⁴ regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6</p> <p>1-8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers</p> <p>1-9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers</p> <p>1-10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity</p> <p><Output 2></p> <p>2-1 Identify agricultural techniques⁵ need to be examined and developed based on the study of IMAP⁶ and the action plans made by the target small-scale farmers</p> <p>2-2 Examine and develop the techniques identified in 2-1</p> <p>2-3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7</p> <p>2-4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow</p> <p><Output 3></p> <p>3-1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans</p> <p>3-2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes</p> <p>3-3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2.</p> <p><Output 4></p> <p>4-1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives.</p> <p>4-2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans.</p> <p>4-5 Facilitate the target agricultural governorate to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach.</p> | <p>[Japanese side]</p> <p>(1) Dispatch of Experts - Leader/Market-oriented agriculture - Appropriate agriculture techniques and extension - Agricultural cooperative - Project coordinator/Training management - Other short-term experts as per necessity</p> <p>(2) Provision of equipment (Ex. Equipment and materials necessary for Output 2 and 3)</p> <p>(3) C/P Training in Japan and/or third country</p> <p>(4) Local cost shared by Japanese side - A part of operational costs for implementing the activities (Ex. Costs for experts' activities)</p> | <p>[Egyptian side]</p> <p>(1) C/P Project Director Project Manager Other counterparts</p> <p>(2) Office space and facilities for the Project - Necessary working space and facilities for JCA experts</p> <p>(3) Necessary Arrangement - Acquisition of the permission for the work in the field</p> <p>(4) Local cost shared by Egyptian side - Operational cost for the Project implementation (Ex. Training cost, personnel expenses and traveling cost for C/Ps)</p> <p>[Pre-condition] The Egyptian political situation is stable.</p> |

(Notes: PDM including the indicators and PQ are reviewed and revised in the JSC, if necessary)

*1) Definition of the "surrounding villages" is two surrounding villages per one target village in the Project. The Overall Goal aims at disseminating the ISMAP Approach to increase the farmers' incomes at the village level.

**2) Definition of the "surrounding small-scale farmers" is two surrounding farmers per one targeted farmer. The Project Purpose aims for the ISMAP Approach to be effectively applied to the targeted farmers and also aims for the surrounding small-scale farmers to understand its effectiveness and apply this approach

**3) Changes in farmers' farming style is monitored using monitoring sheet.

**4) Scope of the baseline survey is focused on the target agricultural cooperatives and small-scale farmers selected by the Project. Farmer's survey of the baseline survey is recommended to refer to a sample of the crop production and income analysis data sheet used in other JCA projects.

**5) The draft plan of extension flow includes process of extension, roles and responsibilities of relevant organizations, and so on.

**6) In principal, target extension staffs for the ToT are extension staffs at village and district levels, and other target participants will be selected in the Project, according to the situation of each governorate.

**7) The techniques tentatively include improving cultivation techniques, for example, adjusting cropping season, improving pattern, new varieties, intercropping and using organic fertilizer, improving postharvest.

**8) The Project for the Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (IMAP)

Elshemaw

Okada

Technical Plan of Operation -1
 Project Name: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project
 Target sites: Mita, Assou, Gomenate
 Duration: 2014-2019 (5 years)
 Target Group: Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers.

| Activities | 2014 | | | | | 2015 | | | | | 2016 | | | | | 2017 | | | | | 2018 | | | | | 2019 | | | | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| Output 1: Market-oriented extension approach | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.1 Facilitate the market-oriented extension approach based on the market-oriented extension flow based on the market-oriented approach, business stakeholders. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the extension approach. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.3 Conduct baseline survey of the target agricultural cooperatives and small-scale farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.4 Provide the opportunities for dialogue between target agricultural cooperatives and agricultural business stakeholders. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.5 Conduct surveys for the target beneficiaries on market survey and farming action plans in 1.6. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.6 Facilitate the market-oriented extension approach to target agricultural cooperatives and small-scale farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.7 Conduct training of farmers (TOF) for market-oriented extension approach to target agricultural cooperatives and small-scale farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.8 Facilitate the market-oriented extension approach to target agricultural cooperatives and small-scale farmers. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.9 Monitor and evaluate the extension approach by the market-oriented extension approach. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.10 Market-oriented approach by examining the extension approach. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 2: Agricultural techniques for value-added products are examined and developed | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.1 Identify agricultural techniques for value-added products and develop them based on the study of MAFAP and developed based on the study of MAFAP and developed based on the study of MAFAP. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.2 Examine and develop the techniques identified in 2.1. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.3 Back to the TOF in 1.7. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 3: Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are improved | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.1 Identify problems and needs of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.2 Conduct training for the target agricultural cooperatives members to making and implementing action plans for the target agricultural cooperatives. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3.3 Facilitate value extension staff to support the target agricultural cooperatives for implementing the action plans made in 3.2. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Output 4: Farming methods based on the market-oriented approach are employed in the target agricultural cooperatives and in district. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the district. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.3 Facilitate the district agricultural offices to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the district. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.4 Monitor the district agricultural offices to implement the above plans. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.5 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Other related activities | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

EL
 10/10/17

*2) In case of the mid-term review, the project consultation mission will be conducted to facilitate smooth implementation of the project responding to the project progress.

*MINUTES OF THE MEETING
ON
THE SEVENTH JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE PROJECT
(ISMAP)*

*AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY*

Cairo, 14th February, 2018

EL shenawy

Dr. Abbas El Shenawy
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land Reclamation
The Arab Republic of Egypt

Akihiko Hata

Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as “MALR”) agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for “Improving Small-Scale Farmers’ Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)” (hereinafter referred to as “the Project”) in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Phase 3 of the Project has started since January 2018. This is the last phase and the Project will be completed in April 2019. Upon the commencement of the Phase 3, the Project Team presented the work plan of the Phase 3 as well as the progress of the activities from last July 2017 to date to the Joint Steering Committee.

1. Opening Remarks

Dr. Abbas El Shenawy, the Head of the Agricultural Services and Follow-up Sector, the chairman of the JSC, appreciated the participants for their attendance and he appreciated the support of JICA in all fields. Dr. Abbas thanked the Egyptian and Japanese team for their effective work in the project. He clarified “We are now in the third phase of the project and we hope to spread the project approach to become a module to be followed by farmers.”

Mr. Akihiro Iwasaki, the Senior Representative of JICA Egypt Office, gave an opening remark to the committee. He expressed his appreciation for the efforts of the Project Team. He also said that the Project aims to achieve the ministry goal in decreasing the poverty of small-scale farmers.

He mentioned that through the previous four years, the Project succeeded in implementing the activities in the target villages in Minia and Assuit governorates and the Project is trying to conduct the market-oriented approach by establishment of the business dialogue and contract farming. He also remarked that the Project also contributed to promoting the capacity of Agricultural Extension in the Ministry and the number of farmers who follow the market-oriented approach has increased.

He finally stressed the importance of the remaining year of the project period to guarantee the sustainability after its end and of increasing the budget for activities of the agricultural extension to ensure that the project objective is achieved.

2. Introduction of Attendants

As shown in the attendants list (Annex-1).

3. Presentation for the progress of the Project activities

Mr. Akihiko Hata, the Chief Advisor of ISMAP, presented the work plan for the third phase, especially he emphasized on preparing and formalizing the extension manual to be used as an official document by the Ministry in the future and the Project Team will reflect the output and lessons from the Project activities into the final manual to make it practical and effective.

He also mentioned that after the project ends, the Japanese side will terminate the project and therefore, an implementation set-up in MALR should be built to continue applying the ISMAP approach for the agricultural extension work.

EL

Dr. Shreen Hussien Ali, the Team Leader of Assiut Agriculture Directorate, presented the progress in detail in Assuit, she explained the modern techniques of cultivation applied on the demo-farms and their effects on increasing the yield; these techniques include intercropping and treatment of seeds and seedlings with licorice and a yield survey to verify the effects of these techniques proved high productivity.

She also presented as an example of how a women group has successfully developed their business with market-oriented approach, i.e. when the women in Bany Mor village in Assiut visited a super market as a market survey activity, they noticed the high prices of baking breads and they thought that they could bake the same quality or better with lower prices. After that the women asked the Undersecretary of Assiut Agricultural Directorate to open a selling place in the directorate and they are successfully selling all their products.

She also explained about the other market-oriented agricultural activities such as contract farming for onion with an agribusiness company and one-day market in the compound of agricultural cooperatives.

Mr. Kamal Eldeen Ahmed Ibrahim, General Manager of Agricultural Extension Department in Minia Agricultural Directorate, presented the progress in Minia Governorate. As well as the progress of the activities in the target villages, he presented the study visit conducted together with Assiut and Cairo team members to the advanced agricultural cooperatives in New Valley Governorate and Nubaria region in West Delta. He explained the lessons from the visit such as how the cooperative collects palm dates from farmers for processing and the farmers prefer to sell the products to the cooperatives not to the other companies.

Mr. Osama Ellithy, the general coordinator of the Project and member of technical committee, presented the quarterly monitoring by the technical committee in Minia and Assuit governorates in December 2017. He was pleased by the progress in the demo-farms and he suggested to document the results to disseminate those results.

4. Discussions

1. The Chairman asked about the extension system in Japan and the Chief Advisor explained that the extension engineers basically belong to local governments and also there are extension engineers hired by agricultural cooperatives, too.
2. The Chairman commented to promote intercropping technique according to the current water issue in Egypt as it will be able to cultivate two crops with the same amount of water leading to save irrigation water.
3. Dr. Abeer Abo Elmagd, Extension Officer of the Central Administration for Agricultural Extension, appreciated all the efforts of the Project Team and she recommended the following:
 - 1) Refer to the Agricultural Research Center before applying the intercropping.
 - 2) Choose the place of demo-farms according to the criteria of the Agricultural Extension Sector, as the wrong choice of the demo-farm places could expose the disease infection of crops.The Chairman asked her to record all her comments in a report for the final evaluation.
4. The Chairman expressed his pleasure with the photos of the presentation and requested the Project Team to prepare colored documents for the final evaluation.

EL-

7/10

5. The Chairman complimented the idea and importance of one-day market (direct market place for farmers to sell their agricultural produce) and wished to mainstream the idea.
6. The Chairman congratulated the impressive presentation and all the efforts of the Project Team and told the members that he can now see the good results of the project effect and the success of the project starts to appear clearly, and hoped to solve all the issues facing the project time by time. Furthermore, the Chairman stated that he will report to the Minister about the good results of the Project and recommend to utilize ISMAP approach.
7. Mr. Hajime Yamazaki, the Representative of JICA Egypt Office, appreciated the presentation and the efforts of the Project Team. He also explained that a post-project evaluation will be implemented after 3 years from the end of the Project and commented the following:
 - 1) The most important thing is to continue working on its approach after the project ends.
 - 2) Hope that the final evaluation after 3 years from the end of the Project will shows a big effect, hence, this 3rd phase is very important to finalize and formalize the extension manual.
 - 3) Hope that MALR takes over the arrangement work of contract farming, which the Japanese side used to much support.
 - 4) It is easier for MALR to continue the farming activities. However, it is necessary for MALR to discuss how to follow the women activities.
 - 5) Regarding the technical committee, it is necessary to discuss how to keep budget for extension system. It may need the cooperation of the Ministry of Planning.

The Project Team will keep implementing the Project activities according to the Work Plan of the Phase 3, and the Technical Committee as well as the Team will play their roles towards the end of the Project.

End

EL-

7/20

Annex-1

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|----------------------------------|--|
| Dr. Abbas El Shenawy | Head of Agricultural Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Mr. Ahmed Abdullah Mostafa | Head of Central Administration (CA) for Agricultural Cooperation |
| Mr. Ibrahim Abd Al Sorour | Undersecretary of Assiut Agriculture Directorate |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agriculture Relations |
| Ms. Hoda Ahmad Abd El Maget | Assistant, Office of deputy Minister (Dr. Safwat el Hadad) |
| Dr. Abeer Abo Elmagd | Extension Officer, CA for Agriculture Extension |
| Mr. Osama Saad El Lasy | General Coordinator, CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Moatz Masoud | Agricultural engineer, CA for Agricultural Cooperation |
| Dr. Rehab Mohammed Abdullah | CA for Agriculture Cooperation |
| Mr. Kamal Eldeen Ahmed I. Badawy | General Manager, Agricultural Extension Dept. Minia Agriculture Directorate |
| Dr. Shreen Hussien Ali | Team Leader, Agricultural Engineer, Horticultural Department, Assiut Agriculture Directorate |

Embassy of Japan

| | |
|------------------|-----------------|
| Mr. Takuji Ikeya | First Secretary |
|------------------|-----------------|

JICA Egypt Office

| | |
|---------------------|-----------------------|
| Mr. Akihiro Iwasaki | Senior Representative |
| Mr. Hajime Yamazaki | Representative |
| Mr. Mohamed Adam | Program Officer |

JICA Expert Team

| | |
|-------------------------|---------------------------------------|
| Mr. Akihiko Hata | Chief Advisor/ Agricultural Marketing |
| Mr. Makiko Yamamoto | Gender / Rural Society |
| Mr. Emad Ragy Hakeem | ISMAP Assistant |
| Mr. Mena Maged Eskander | ISMAP Assistant |
| Ms. Radwa Ragab | ISMAP Assistant |

EL-

700

*MINUTES OF THE MEETING
ON
THE NINTH JOINT STEERING COMMITTEE
FOR
IMPROVING SMALL-SCALE FARMERS' MARKET-ORIENTED AGRICULTURE
PROJECT (ISMAP)*

*AGREED UPON BETWEEN
MINISTRY OF AGRICULTURE AND LAND RECLAMATION
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY*

Cairo, 5th March, 2019

EL-shenawy

Dr. Abbas El Shenawy
Chairman of the Joint Steering Committee
Head of Agriculture Services and
Follow-up Sector,
Ministry of Agriculture and Land
Reclamation
The Arab Republic of Egypt

Akihiko Hata

Mr. Akihiko HATA
Chief Advisor of ISMAP
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Introduction

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Ministry of Agriculture and Land Reclamation (hereinafter referred to as "MALR") agreed with the contents of Record of Discussion (R/D) for "Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISAMP)" (hereinafter referred to as "the Project") in December 2013. In accordance with the R/D, JICA dispatched experts to assist the implementation of the Project in May 2014.

The Project Team, which is consisted of the experts and counterparts (hereinafter referred to as "C/P"), has been implementing the project and the Project is coming to an end in May 2019. The Project Team took this opportunity to present the final status of the Project and introduce to the ISMAP Implementation Unit, which will take over the ISMAP activities, to the Joint Steering Committee.

Attendants

As shown in the attached attendants list.

Opening Remarks

Dr. Abbas El Shenawy, the Chairman of the Joint Steering Committee (JSC), welcomed the attendants and stated that he was so happy about the seminar on the approaches of women's economic empowerment as the number of participants was more than 100 persons from different donors and stakeholders. He added that this event would encourage us to implement more projects for women to try to increase their income and improve their lifestyle and also these women could work in food processing to add a value to the agricultural products.

The Chairman also reported that there were strong instructions from the Minister to continue the project activities and the Implementation Unit has been established to secure the sustainability of the work for the real success. The Chairman also stated that the project team members are motivated and confident in implementation with their experiences and wished to expand the project to other governorates. Finally, the Chairman wished the Japanese personnel for enjoying their stay in Egypt and expects the final seminar for celebrating the success of the project.

Mr. Akihiro Iwasaki, the Senior Representative of JICA Egypt office, expressed his gratitude for the attendants and appreciated for holding the above seminar and the achievement of the rural women. He also congratulated the establishment of the Implementation Unit which would secure the sustainability of the project activities.

Dr. Mohamed Soliman, the Head of Agricultural Research Center (ARC) welcomed the attendants and hoped to continue the cooperation between two countries as there was long history of good cooperation with JICA and MALR such as rice cultivation improvement and greenhouses establishment and so on. He wished all the efforts could support the small-scale farmers to increase their income.

Discussions

Mr. Akihiko Hata, the Chief Advisor of ISMAP presented the measures taken for the recommendations of the terminal evaluation mission, status of the Implementation Unit and draft agenda of the final seminar. The following are the discussions:

EL

W

- Mr. Hajime Yamazaki, the Representative of JICA Egypt Office, commented that he hopes the activities continue and update it from time to time and he is sure that the Implementation Unit can continue albeit the financial support from the Japanese side will end.

He clarified that ISMAP is not just a name of the project but also the approach, so that we could use the name of the project as approach in different regions not just in Minia and Assiut governorates and it is allowed to use ISMAP approach with other entities like UN organizations.

For responding the progress of the measures for the recommendation of the terminal evaluation mission to the Japanese side, he explained that holding a conference with the Middle East countries has been considered in JICA and we could use the name ISMAP as an approach when we hold the conference. He also explained that though the training program of SHEP in Kenya has been provided, we needed to adjust the approach to be suitable for Egypt, especially the part of women's activities and he expects that while introducing the other countries to the ISMAP approach, they would face the same challenges when they apply the approach in their countries.

He further explained that JICA would like to monitor the Implementation Unit works well and then we can hold the conference in Egypt and invite the other countries, which would be Palestine, South Sudan and Morocco.

- Mr. Osama El Lithy, coordinator of the Counterparts explained about the Implementation Unit that the Minister has approved the establishment of the unit, the office in each governorate has been secured. The members of the unit will be from cooperation and extension departments, most of whom have a good experience with the project and attended the training in Japan. He added that the two project cars will be transferred from JICA to the Ministry so that they will be able to use them for the activities. He also explained that the Head of Agricultural Services and Follow-up Sector will be the head of this unit and the Head of Central Administration for Agricultural Cooperation (CAAC) will be the executive manager of the unit. The Chairman also added that the budget for the unit has been approved, too.
- Dr. Mohamed Abd El Hafez, the Head of CAAC commented that a certificate for the project team members should be issued for their good efforts for these five years and expressed his desire to cover Sohag governorate by the Implementation Unit and establishing training centers in the three governorates to extend SHEP approach. He also mentioned to focus on the contract farming and collective work in collaboration with the marketing sector and center of the contract farming in the Ministry. He stated that the Ministry will do its best to be ready for the post-project evaluation after three years with securing the budget and tools such as cars and computers transferred to the unit and offices in the governorates, etc.

He also requested the Japanese side to continue the follow-up to secure the sustainability and success as well as the Egyptian side to continue the activities with the same motivation. He hoped that Egypt can be a training center in the region.

- Dr. Abd El Aleem, the Head of the Central Administration for Agricultural Extension (CAAE), expressed his gratitude to the Japanese side for their cooperation and also to the Egyptian team from the extension and cooperation sectors. He explained that the extension sector has facilities for trainings such as the extension centers and rural development centers, which can

EL

182

be utilized by the Implementation Unit. He also explained that there are male and female pioneers in the villages who can support the extension engineers to cover the shortage of them.

Closing Remarks

The Chairman appreciated for all these five years' efforts of the members who shared the experiences of the project activities and hoped them to continue with the same motivation. He also stated that the real success will be by the sustainability of activities and he hoped to establish an international training center in Egypt for the SHEP approach. In the end, the Chairman thanked all the participants and wished happiness for all.

End

EL- MA

Annex-I

Attendants List

Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)

| | |
|---------------------------------|--|
| Dr. Abbas El Shenawy | Head of Agricultural Services and Follow-up Sector (Chairman) |
| Dr. Mohamed Soliman | Head of Agricultural Research Center |
| Dr. Mohamed Abd El Hafez | Head of Central Administration for Agricultural Cooperation |
| Dr. Abd El Aleem Ahmed | Head of Central Administration for Agricultural Extension |
| Mr. Abo El Kher Mostafa Mohamed | Undersecretary, Minia Agricultural Directorate |
| Mr. Ibrahim Souror | Undersecretary, Assiut Agricultural Directorate |
| Ms. Marwa Mohamed Foda | Project Officer, CA for Foreign Agricultural Relations |
| Mr. Osama Saad El Lithy | General Coordinator, CA for Agricultural Cooperation |
| Ms. Rehab Mohamed Mohamed | Head of Project Department, CA for Agricultural Cooperation |
| Mr. Waleed Mohamed Ahmed | CA for Agricultural Cooperation |
| Ms. Amal Mohamed Abudalla | CA for Agricultural Cooperation |
| Ms. Amal Esmat | CA for Agricultural Cooperation |
| Mr. Moatez Mohamed Hessen | CA for Agricultural Cooperation |
| Dr. Abeer Mostafa Abo El Maged | Head of Rural Women Development Department, CA for Agricultural Extension |
| Dr. Mohamad El Sayed Eid | CA for Agricultural Extension |
| Ms. Azza Ramadan Mohamed | Head of Marketing Administration, Minia Agricultural Directorate (Minia team leader) |
| Mr. Hamdy Mohamed Khalil | Head of Extension Department, Assiut Agricultural Directorate (Assiut team leader) |
| Mr. Mostafa Kamal Abd El Wehab | Head of Project Department, Agricultural Cooperative Department, Assiut Agricultural Directorate |

Embassy of Japan

Mr. Takuji Ikeya First Secretary

JICA Egypt Office

Mr. Akihiro Iwasaki Senior Representative
Mr. Hajime Yamazaki Representative
Mr. Mohamed Adam Program Officer

JICA Expert Team

Mr. Akihiko Hata Chief Advisor/ Agricultural Marketing
Mr. Emad Ragy Hakeem ISMAP Assistant
Mr. Mena Maged Eskander ISMAP Assistant

EL

ljo